



# ライセンスサーバー **11.17.2**

## Contents

ライセンスサーバー <b>11.17.2</b> ビルド <b>35000</b>	<b>3</b>
新機能	<b>3</b>
解決された問題	<b>5</b>
既知の問題	<b>6</b>
サードパーティ製品についての通知	<b>7</b>
ライセンスサーバー	<b>7</b>
ライセンスサーバーの要素	<b>9</b>
ライセンスサービス	<b>20</b>
<b>Citrix</b> のライセンス技術概要	<b>22</b>
ライセンスファイル	<b>28</b>
ライセンスの種類	<b>35</b>
<b>Citrix</b> ライセンスのシステム要件	<b>46</b>
ライセンスサーバーの開始、インストール、構成	<b>48</b>
ライセンスファイルを入手する前に	<b>58</b>
カスタマーサクセスサービス	<b>59</b>
<b>Citrix Licensing Manager</b>	<b>61</b>
ダッシュボードと使用履歴	<b>62</b>
ライセンスのインストール	<b>66</b>
ライセンスの更新	<b>68</b>
設定	<b>69</b>
<b>Citrix</b> ライセンスサーバーの登録と登録削除	<b>79</b>
<b>citrix.com</b> でのライセンスの管理	<b>82</b>
コンソールを使用しないライセンスサーバー管理	<b>88</b>

ライセンスコマンド	<b>91</b>
ライセンスサーバーのアップグレード	<b>103</b>
ライセンスサーバーのアンインストール	<b>106</b>
クラスター化されたライセンスサーバーの構成、インストール、アップグレード、アンインストール	<b>107</b>
障害回復バックアップと冗長性	<b>114</b>
ライセンスサーバーのトラブルシューティング	<b>117</b>
ライセンスに関するよくある質問	<b>118</b>

## ライセンスサーバー **11.17.2** ビルド **35000**

January 9, 2024

Citrix のライセンスは、連携して機能するコンポーネントのシステムです。Citrix 製品を使用する前に、ライセンスのコンポーネントについて説明します。Citrix ライセンスシステムには以下が含まれます：

- ライセンスサーバー - Citrix 製品の各環境には、少なくとも 1 つの共有または専用のライセンスサーバーが必要です。Citrix 製品が動作するサーバーがライセンスサーバーと通信し、必要なライセンスを取得します。詳しくは、「[ライセンスサーバー](#)」を参照してください。
- ライセンスファイル - ライセンスファイルは、製品のライセンス情報を含むテキストファイルです。これには、ライセンスサーバー名、ライセンスの有効期限、およびその他の情報も含まれます。詳しくは、「[ライセンスファイル](#)」を参照してください。
- Citrix Licensing Manager - Citrix Licensing Manager は、Citrix ライセンス用の Web ベースの管理コンソールです。詳しくは、「[Citrix Licensing Manager](#)」を参照してください。
- ライセンスサービス - Citrix Licensing Service は、コアライセンス機能を担う Windows サービスです。
  - Citrix Web Services for Licensing
  - Citrix Licensing Support Service
  - Citrix Licensing WMI
  - CITRIX ベンダーデーモン

詳しくは、「[ライセンスサービス](#)」を参照してください。

- 製品側での設定。Citrix 製品とライセンスサーバーを関連付けます。

ライセンスコンポーネントについて詳しくは、「[Citrix のライセンス技術概要](#)」を参照してください。

### 新機能

January 10, 2024

ライセンスサーバーバージョン **11.17.2** ビルド **35000** の新機能

リリース日: 2021 年 6 月 16 日

## Windows Server 2022 のサポート

特に明記されていない限り、Windows Server プラットフォームをサポートするこのリリースの Citrix コンポーネントおよびテクノロジーは、Windows Server 2022 もサポートするようになりました。詳しくは、「[Windows Server 2022 のサポート](#)」を参照してください。

### ライセンスサーバーの問題をトラブルシューティングするためのサポートバンドル

サポートバンドルは、Citrix サポートチームがライセンスサーバーの問題のトラブルシューティングとデバッグに使用できる情報が含まれた ZIP ファイルです。このファイルを使用して Citrix サポートへの問い合わせを開始したり、ライセンスのコンプライアンス目的で Citrix またはそのエージェントにドキュメントを提供したりできます。詳しくは、「[サポートバンドル](#)」を参照してください。

## OpenSSL バージョンのアップグレード

OpenSSL バージョン: 1.1.1i

### ライセンスサーバービルド **34000** の新機能

リリース日: 2021 年 3 月 17 日

## Lmadmin.exe は Lmgrd.exe に移行しました

このリリースでは、Citrix ライセンスサーバーの既存のユーザー管理 **lmadmin.exe** が Citrix 所有のユーザー管理 **lmgrd.exe** に移行され、セキュリティが向上し、サードパーティへの依存度が減少しています。

## OpenSSL バージョンのアップグレード

OpenSSL バージョン: 1.1.1h

## Libxml2 のバージョンアップグレード

libxml2 バージョン: 2.9.10

### ライセンスサーバービルド **33000** の新機能

リリース日: 2020 年 12 月 15 日

[使用状況テレメトリを構成する] に追加された新しい構成オプション

- [使用状況テレメトリを構成する] の新しいオプションを使用すると、データを送信しないか、識別できない形式でデータを送信するかを選択できます。

詳しくは、「[使用状況テレメトリを構成する](#)」を参照してください。

### Apache バージョンの更新

Apache バージョン 2.4.46。

### OpenSSL バージョンのアップグレード

OpenSSL 1.1.1g

### 解決された問題

November 11, 2021

ライセンスサーバーバージョン **11.17.2** ビルド **35000** で解決された問題

- ユーザー/デバイスライセンスのユーザー名にスペースが入っている場合、チェックアウトに失敗し次のエラーメッセージが表示されます:

```
Error: checkoutOutBatch failed: Error_UNEXPECTED_DATA: Unexpected server response 'UD: ERROR_SYNTAX'. [LIC-3506]
```

- **Citrix Licensing Manager** に表示される超過使用数が正しくありません。ライセンスファイルの同一の Product\_Edition\_Model に複数の増分行がある場合、Citrix Licensing Manager は、ライセンスファイルのすべての増分行から超過使用数を追加していくのではなく、最初の増分行の超過使用数のみを表示します。 [LIC-3651]

ライセンスサーバービルド **34000** で解決された問題

- **[Citrix Licensing Manager] > [設定] > [アカウント] > [ユーザー管理]** セクションで、日本語および 2 バイト文字のユーザー名/グループ名が文字化けします。2 バイト文字で登録されたユーザー名/グループ名を使って Citrix Licensing Manager にログオンできません。 [LIC-2032]

## ライセンスサーバービルド **33000** で解決された問題

このビルドで解決された問題はありません。

## 既知の問題

November 11, 2021

## ライセンスサーバーバージョン **11.17.2** ビルド **35000** の既知の問題

このリリースには既知の問題はありません。

## ライセンスサーバービルド **34000** の既知の問題

- クロスドメイン環境では、Citrix Licensing Manager と POSH コマンドレットは、双方向の信頼関係のみを使用してユーザーを追加します。

外部信頼（一方向の信頼関係）、Citrix Licensing Manager、および POSH コマンドレットを使用すると、次のエラーメッセージが表示されます。 [Active Directory account resolution failed.](#)

次のパラメーターを使用して **CtxManageUserAndGroup.exe** を「Citrix\Licensing\LS\resource」から実行することをお勧めします：

- ユーザーを追加するコマンド: `CtxManageUserAndGroup.exe -useradd "domain\username" -Role "admin/user"`
- グループを追加するコマンド: `CtxManageUserAndGroup.exe -useradd "domain\username" -Role "adminGroup/userGroup"`

たとえば、domain1 に domain2 への送信の信頼がある場合、domain2 のユーザーは domain1 で認証し、実行可能ファイルのみを使用してユーザーをライセンスサーバーに追加できます。[LIC-3268]

## ライセンスファイルの問題

- 複数行で `HOSTNAME=.` ライセンスが指定されているライセンスファイルは、ライセンスサーバーによって無視されます。これらのファイルはチェックアウトできません。この問題は、複数の異なるライセンスサーバーに関連付けられているライセンスを同じライセンスファイルにダウンロードした場合に発生します。

この問題を解決するには、異なるライセンスサーバーに関連付けられている各 Citrix 製品のライセンスを、ライセンスサーバー単位で分割して再ダウンロードしてください。

- 有効期限の日付がD-MMM-YYYYのように正しい形式になっていないライセンスは、Studio で [無期限] と表示されます。Citrix Licensing Manager を使用して、正しいライセンスの有効期限を表示します。  
[LIC-2556]

## サードパーティ製品についての通知

November 11, 2021

Citrix ライセンスサーバー 11.17.2 には、次のドキュメントで定義された条件の下でライセンスが有効になったサードパーティのソフトウェアが含まれます:

- [Non-Commercial Software Disclosures For FlexNet Publisher 2020 \(11.17.2\)](#) (PDF のダウンロード) (英語)
- [FlexNet Publisher Documentation Supplement: FlexNet Publisher 11.17.2 で使用されるオープンソースソフトウェア](#) (PDF のダウンロード) (英語)

## ライセンスサーバー

January 7, 2022

ライセンスサーバーとは、ライセンスの格納および管理を行うコンピューターを指し、ほかの機能と兼用したり、ライセンスサーバー専用として動作したりできます。デバイスに接続しようとするとき、Citrix 製品はライセンスサーバーにライセンスを要求します。Citrix 製品の各環境では、少なくとも 1 つのライセンスサーバーが動作している必要があります。Citrix 製品が動作するサーバーがライセンスサーバーと通信し、必要なライセンスを取得します。

ユーザーが Citrix 製品に接続すると、ライセンスサーバーからライセンスが取得されます。つまり、Citrix 製品がユーザーやクライアントデバイスからの接続を受け入れるためのライセンスを、ライセンスサーバーに要求します。ライセンスがチェックアウトされると、ライセンスの種類とエディションに基づいて製品の機能にアクセスできます。

注:

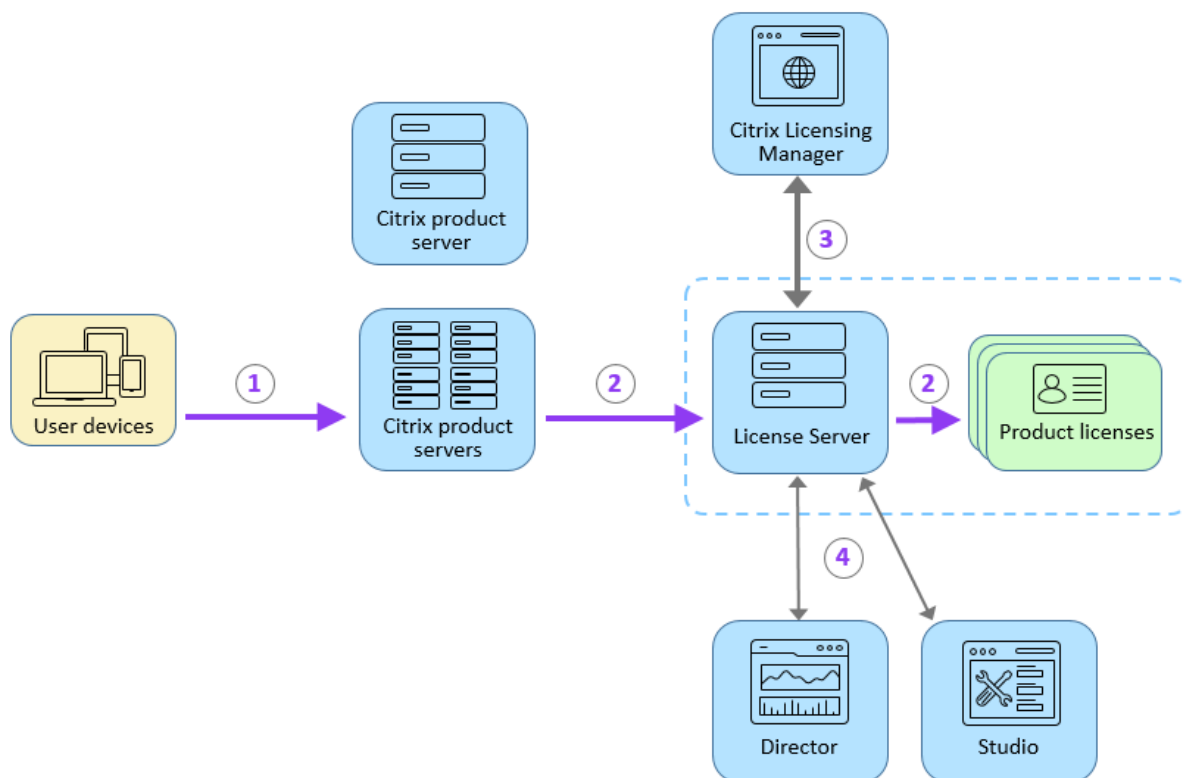
Citrix ADC および Citrix Gateway は、Citrix ライセンスサーバーからライセンスを取得しません。製品固有のライセンスについて詳しくは、「[製品固有のライセンス情報](#)」を参照してください。

次の画像は、Citrix 製品、ライセンスサーバー、Citrix Licensing Manager、およびコンソールのワークフローを示します:

- 1- ユーザーデバイスが Citrix 製品に接続します。
- 2- Citrix 製品がライセンスサーバーにユーザーやクライアントデバイスのライセンスのチェックアウトを要求します。



- 3- Citrix Licensing Manager は、ライセンスサーバーの管理に使用される管理 Web インターフェイスです。
- 4- コンソール (Studio や Director など) は、ライセンスサーバーに接続して、ライセンスの使用を監視できます。アラートやその他のライセンス構成について参照してください。



製品の展開環境の規模により、ライセンスサーバーとほかの製品サーバーを 1 つのコンピューターで兼用したり、専用のライセンスサーバーや複数のライセンスサーバーを運用したりできます。詳しくは、「[ライセンスの最適化](#)」を参照してください。

ライセンスファイルは、ライセンスする製品に関連したライセンスサーバーに必要です。製品はその特定のライセンスサーバーと通信できるよう構成する必要があります。Citrix Licensing Manager は、ライセンスサーバー上の Citrix ライセンスを管理し、監視するためのユーザーインターフェイスです。この管理コンソールでは、ライセンスの使用状況やアラートを確認したり、ライセンスファイルをインポートしたり、使用履歴レポートを作成したり、ライセンスサーバーの設定を管理したりできます。

#### 関連項目

- [製品の技術概要](#)
- [ライセンスサーバーの要素](#)
- [ライセンスの種類](#)
- [はじめに](#)

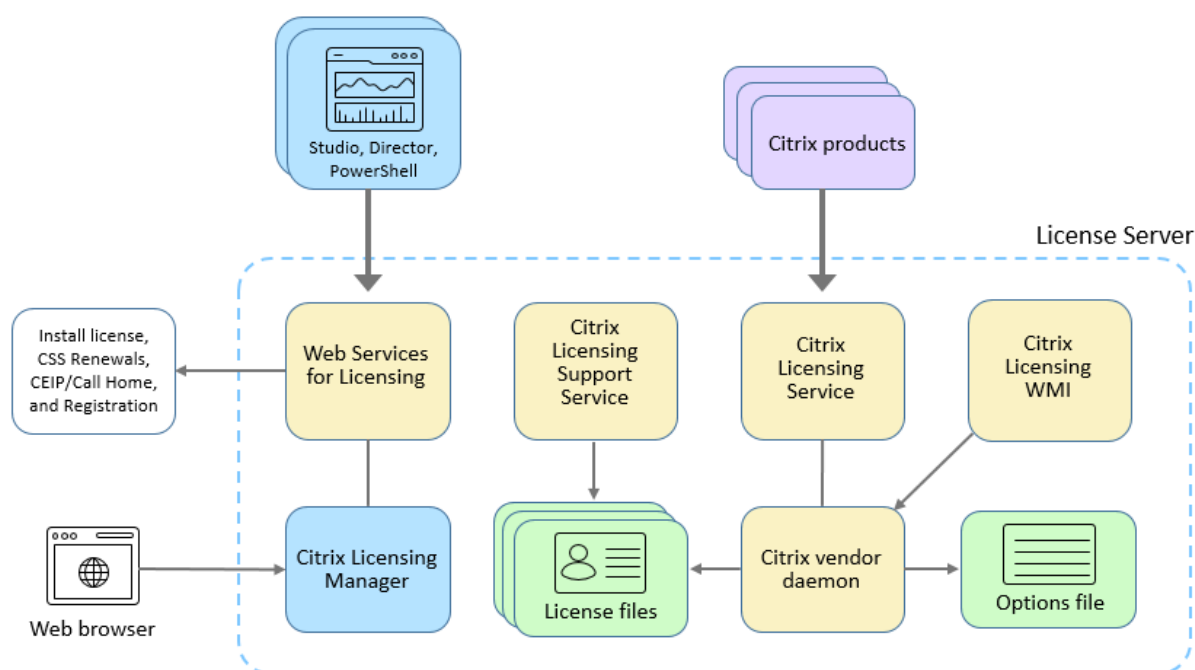
## ライセンスサーバーの要素

January 9, 2024

Citrix ライセンスサーバーは、以下の要素で構成されています：

- Citrix ベンダーデーモン
- オプション構成ファイル
- ライセンスの要求プロセス
- Citrix ライセンスサーバーカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP)、Call Home、コンプライアンス

次の図は、ライセンスサーバーと通信する Citrix 製品を示しています。



### Citrix ベンダーデーモン

Citrix 製品のライセンスは、ライセンスサーバー上で動作する Citrix ベンダーデーモン (CITRIX) により付与されます。Citrix ベンダーデーモンは、チェックアウトされたライセンスの数と、どの Citrix 製品がライセンスを使用しているかを追跡します。Citrix ベンダーデーモンと Citrix 製品との通信は TCP/IP により行われ、デフォルトでは、Citrix ベンダーデーモンは TCP/IP ポート 7279 を使用します。

## オプションファイル

オプションファイル (Citrix.opt) は、ライセンスサーバー構成ファイルです。Citrix ベンダーデーモンは再起動時、およびファイルの再読み込みコマンドの実行時にこのファイルを読み込みます。この設定ファイルにより、製品サーバーが使用できるライセンス数、システムログの場所、ログレベル、そのほかのカスタマイズ情報などのライセンスの動作が定義されます。カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) および Call Home の構成は、このファイルに保存されます。

## ライセンスの要求プロセス

Citrix 製品がライセンスサーバーにライセンスを要求すると、Citrix ベンダーデーモンがその要求をチェックして、ライセンスが使用可能かどうかを確認します。

ライセンスの要求プロセスには、製品の起動時とユーザーの接続時の 2 つの局面があります。

### 製品の起動時:

- Citrix 製品が起動すると、ライセンスサーバーの場所の情報をデータストアから取得します。
- Citrix 製品が Citrix ベンダーデーモンに接続します。
- Citrix 製品がスタートアップライセンスをチェックアウトします。

### ユーザーの接続時:

- Citrix 製品が動作するコンピューターにユーザーが接続します。
- 製品が、ライセンスサーバーにライセンスを要求します。
- Citrix ベンダーデーモンが、ライセンスが使用可能かどうかを確認し、要求を許可または拒否します。
- Citrix ベンダーデーモンからの応答に基づいて、Citrix 製品側のライセンスモジュールが製品の使用を許可または拒否します。

## **Citrix** ライセンスのカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP)、**Call Home**、コンプライアンス使用状況および分析プログラム

Citrix ライセンスの CEIP、Call Home、コンプライアンス使用状況および分析プログラムは、製品に関するエクスペリエンスを向上させるために設計されたデータ収集プログラムであり、重要なライセンスコンプライアンス情報を収集します。

Citrix は、お客様のデータを Citrix との契約条件に従って処理し、Citrix Trust Center で入手できる Citrix Services Security Exhibit において指定されているとおりにお客様のデータを保護します。

ライセンスサーバーのインストール中に、CEIP とコンプライアンスはデフォルトで有効になります。Call Home への参加は任意です。プログラムの参加は、Citrix Licensing Manager を使用していつでも変更できます。詳しくは、「[使用状況と統計情報](#)」の「使用統計の共有」を参照してください。

**重要**

Citrix Service Provider プログラムでは、CEIP と Call Home が必須です。Citrix Service Provider ライセンスをインストールしている場合、設定の変更はできますが、CEIP と Call Home を無効にすることはできません。ライセンスサーバーは、Citrix Service Provider ライセンスを検出すると、日次のアップロードを適用します。

プロキシサーバーの構成について詳しくは、[使用の開始](#)に関する記事の「プロキシサーバーを手動で構成する」を参照してください。

コマンドラインによるインストールについて詳しくは、「[Windows コマンドラインの使用方法](#)」を参照してください。

**Citrix ライセンスの Customer Experience Improvement Program (CEIP)**

CEIP プログラムは、Citrix 製品の環境から構成と使用状況データを収集し、サービスの開始時刻に基づいて 1 日 1 回データを Citrix に送信します。

収集データ	説明	使用目的
ライセンス使用状況およびコンプライアンスデータ	ライセンス使用状況の情報と、ライセンスサーバーにインストールされている Citrix ライセンスに関する情報（製品 ID、ライセンスの種類、数量など）です。	このデータを使用して、ライセンスの消費状況を追跡し、顧客人口のコンプライアンスを追跡します。
ライセンスサーバーの展開および構成データ	ライセンスサーバーのバージョン、オペレーティングシステムのバージョン、構成状態など、ライセンスサーバーとその展開方法に関する情報。	このデータは、Citrix 製品のさらなる開発に役立て、カスタマーエクスペリエンスを向上させるために使用いたします。

ライセンスサーバーバージョン **11.17.2** ビルド **35000** の **CEIP** および **Call Home** のデータ要素:

注:

ライセンスサーバーバージョン 11.17.2 ビルド 35000 以降、データ要素は JSON 形式で一覧表示されます。

prod

DateSampleStartUTC

DateSampleStopUTC

payload	CLM-WSLUsage	WSLGetInventoryRequest WSLImportLicenseRequest list_entitlements get_task_status WSLGetConfigUsageSamplesRequest WSLGetUDUploadOptionRequest WSLGetUBScrambleOptionRequest WSLGetSARenewalConfigOptionsRequest WSLGetLSConfigRequest WSLGetUsersRequest WSLGetCEIPOptionRequest WSLGetAlertsRequest WSLSetConfigUsageSamplesRequest WSLSetCEIPOptionRequest WSLSetUBScrambleOptionRequest WSLSetUDUploadOptionRequest WSLSetSARenewalConfigOptionsRequest WSLUpdateLSConfigRequest WSLAddUserRequest WSLModifyUserRequest WSLRemoveUserRequest WSLGetUpdatedLicenseDetailsRequest WSLCheckRenewalLicensesRequest WSLInstallRenewalLicenses WSLGetPendingLicenseRenewalsRequest WSLGetHistoricalInventoryRequest list_server_info WSLCCRegisterRequest
---------	--------------	--

POSH-WSLUsage

WSLCCRegistrationStatusRequest  
WSLRemoveCCRegistrationRequest  
WSLSetCCRegistrationPopupRequest  
WSLCEIPUploadRetryRequest  
WSLGetLastUploadRequest  
WSLGetSupportBundleRequest  
WSLGetInventoryRequest  
WSLImportLicenseRequest  
list\_entitlements  
get\_task\_status  
WSLGetConfigUsageSamplesRequest  
WSLGetSARenewalConfigOptionsRequest  
WSLGetLSConfigRequest  
WSLGetCEIPOptionRequest  
WSLGetAlertsRequest  
WSLSetConfigUsageSamplesRequest  
WSLSetCEIPOptionRequest  
WSLSetSARenewalConfigOptionsRequest  
WSLCheckRenewalLicensesRequest  
WSLInstallRenewalLicenses  
WSLGetHistoricalUsageRequestV2  
list\_server\_info  
WSLGetLicenseLocalizedNamesRequest  
WSLGetUsageDetailsRequest  
WSLAddUserRequest  
WSLRemoveUserRequest  
WSLGetUsersRequest  
WSLModifyUserRequest

type

ver

LSVersion

---

ビルド **32000** の **CEIP** データ要素:

ライセンスサーバー情報	機能	SADate	StartupCounts	SerialNumbers
GUID	FeatureID	DateSampleStartUTC	LPE ID	Serial
DateSampleStopUTC	UDBinFileCreatedUTC	DateSampleStopUTC		ID
DateSampleStop	UDReportGenerationUTC	CountUsedMax		SADate
PortLACHTTP	EventLog	Active		SN
PortLACHTTTPS	UDAdminUsersReleased	Licensees		
PortLACRedirect	UDAdminDevicesReleased	CountInstalled		
PortLS		Pool		
PortVD		CountTotal		
PortWSL		Devices		
UDUseDomain		Usage Samples		
OptFileNoLogStatus		Serial		
OptFileComplianceConfig		DateExpiration		
UDUserNameCase		DateIssued		
UDDeviceNameCase		VendorStr		
SARenewalCheckOption		CountInstalled		
EncoreSamplingPeriod		CountOverdraft		
EncoreRetentionTime		Sample		
EncoreEnabled		Timestamp		
SLSPProxy		CountInUse		
SLSPProxyWinAutoURL		OverDraft		
SLSPProxyWinIE		Installed		
SLSPProxyWinDefault		Users		
SLSPProxySlsConfig				
OS				
WindowsBuildLabEx				
WindowsEditionID				
WindowsInstallationType				
WindowsProductName				
WindowsDomainMember				
OSBits				

| OSLocale |  
 | VM |  
 | VMIDString |  
 | VMHVIDString |  
 | InstallUTC |  
 | ProductVersion |  
 | UpgradeFrom |  
 | SetupCluster |  
 | SGPClockErrorCode |  
 | SGPMaxDays |  
 | SupplementalGracePeriod |

ビルド **31000** 以前の **CEIP** データ要素:

---

GUID	WindowsEditionID	FlexeraVersion	Feature ID
DateSampleStopUTC	WindowsInstallationType	SGPClockErrorCode	UDBinFileCreatedUTC
DateSampleStop	WindowsProductName	SGPMaxDays	UDReportGenerationUTC
PortLACHTTP	WindowsDomainMember	Services	Event Log
PortLACHTTPS	OSBits	名前	SADate
PortLACRedirect	OSLocale	DisplayName	DateSampleStartUTC
PortLS	MemPhysMB	状態	DateSampleStopUTC
PortVD	CPUIDString	StartType	CountUsedMax
UDUseDomain	VM	パス	Active
OptFileNoLogStatus	VMIDString	FirewallProfile	Licensees
OptFileComplianceConfig	VMHVIDString	FirewallRule	CountTotal
UDUserNameCase	CPUCountLogical	Profile	CountInstalled
UDDeviceNameCase	DiskFreeMB	有効	Pool
PortWSL	DiskTotalMB	BlockAllInboundTraffic	Usage Samples
SARenewalCheckOption	HasIPv4	DefaultInboundAction	サンプル
EncoreSamplingPeriod	HasIPv4_DHCP	DefaultOutboundAction	Timestamp
EncoreRetentionTime	HasIPv6	FirewallRule	CountInUse
EncoreEnabled	HasIPv6_DHCP	名前	OverDraft
SLSProxy	HardwareId	有効	Installed



SLSProxyWinAutoURL	FQDN	アプリケーション	LPE ID
SLSProxyWinIE	PrivacySetting	プロトコル	Count
SLSProxyWinDefault	InstallUTC	LocalPorts	
SLSProxySlsConfig	ProductVersion	Action	
OS	UpgradeFrom	方向	
WindowsBuildLabEx	SetupCluster	インベントリ	

## Citrix Call Home

Call Home への参加は任意です。このプログラムに参加すると、Citrix Call Home によりシステムや製品の構成、パフォーマンス、エラーなどの情報を定期的に収集されます。この情報は、サービスの開始時刻に応じて、1日に1回 Citrix Insight Services に送信されます。

Citrix に送信して処理する前に、ライセンスサーバーでユーザー名とデバイス情報を暗号化できます。詳しくは、「[ライセンスサーバーによるユーザー名の匿名化](#)」を参照してください。

Call Home Citrix Cloud 登録済みライセンスサーバーのアップロードを無効にする場合は、Citrix Licensing Manager を使用します。[使用状況と統計情報] > [共有使用状況と統計情報] での選択を次のいずれかに変更します: [Citrix 製品をより良いものとするため、ライセンスサーバーの詳細なシステム情報および特定できない使用状況を Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) に送信します。この情報によりユーザーは特定されません]、または [ライセンスコンプライアンスの目的に必要なライセンスサーバーの基本的なシステム情報および使用状況のみを送信します。この情報によりユーザーは特定されません]。Citrix Cloud に登録されたままですが、Call Home 情報は送信されません。

登録を削除する場合は、「[使用状況と統計情報](#)」の「[Citrix Cloud への登録と登録削除](#)」を参照してください。

収集データ	説明	使用目的
ライセンス使用状況およびコンプライアンスデータ	ライセンス使用状況の情報と、ライセンスサーバーにインストールされている Citrix ライセンスに関する情報 (製品 ID、ライセンスの種類、数量など) です。	このデータを使用して、ライセンスの消費状況を追跡し、顧客人口のコンプライアンスを追跡します。ライセンスサーバーを Citrix Cloud に登録すると、Citrix Cloud での経時的な使用状況を追跡できます。

収集データ	説明	使用目的
ライセンスサーバーの展開および構成データ	ライセンスサーバーのバージョン、オペレーティングシステムのバージョン、構成状態など、ライセンスサーバーとその展開方法に関する情報。	このデータは、Citrix 製品のさらなる開発に役立て、カスタマーエクスペリエンスを向上させるために使用いたします。

ビルド **32000** の **Call Home** データ要素:

ライセンスサーバー情報	機能	SDate	StartupCounts	SerialNumbers
GUID	FeatureID	DateSampleStartUTC	LPE ID	Serial
DateSampleStopUTC	UDBinFileCreatedUTC	DateSampleStopUTC		ID
DateSampleStop	UDReportGenerationUTC	CountUsedMax		SDate
PortLACHTTP	EventLog	Active		SN
PortLACHTTPS	UDAdminUsersReleased	Licensees		
PortLACRedirect	UDAdminDevicesReleased	CountInstalled		
PortLS		Pool		
PortVD		CountTotal		
CustomerID		Users		
OrgID		Devices		
PortWSL		Usage Samples		
UDUseDomain		Serial		
OptFileNoLogStatus		DateExpiration		
OptFileComplianceConfig		DateIssued		
UDUserNameCase		VendorStr		
UDDeviceNameCase		CountInstalled		
SARenewalCheckOption		CountOverdraft		
EncoreSamplingPeriod		Sample		
EncoreRetentionTime		Timestamp		
EncoreEnabled		CountInUse		
SLSPProxy		OverDraft		
SLSPProxyWinAutoURL		Installed		
SLSPProxyWinIE				
SLSPProxyWinDefault				
SLSPProxySlsConfig				
OS				
WindowsBuildLabEx				
WindowsEditionID				
WindowsInstallationType				

| WindowsProductName |  
 | WindowsDomainMember |  
 | OSBits |  
 | OSLocale |  
 | VM |  
 | VMIDString |  
 | VMHVIDString |  
 | HardwareId |  
 | FQDN |  
 | PrivacySetting |  
 | InstallUTC |  
 | ProductVersion |  
 | UpgradeFrom |  
 | SetupCluster |  
 | SGPClockErrorCode |  
 | SGPMaxDays |  
 | SupplementalGracePeriod |

ビルド **31000** 以前の **Citrix Call Home** データ要素:

---

GUID	WindowsEditionID	FlexeraVersion	Feature ID
DateSampleStopUTC	WindowsInstallationType	SGPClockErrorCode	UDBinFileCreatedUTC
DateSampleStop	WindowsProductName	SGPMaxDays	UDReportGenerationUTC
PortLACHHTTP	WindowsDomainMember	Services	Event Log
PortLACHHTTPS	OSBits	名前	SADate
PortLACRedirect	OSLocale	DisplayName	DateSampleStartUTC
PortLS	MemPhysMB	状態	DateSampleStopUTC
PortVD	CPUIDString	StartType	CountUsedMax
UDUseDomain	VM	パス	Active
OptFileNoLogStatus	VMIDString	FirewallProfile	Licensees
OptFileComplianceConfig	VMHVIDString	FirewallRule	CountTotal
UDUserNameCase	CPUCountLogical	Profile	CountInstalled
UDDeviceNameCase	DiskFreeMB	有効	Pool
PortWSL	DiskTotalMB	BlockAllInboundTraffic	Usage Samples

SARenewalCheckOption	HasIPv4	DefaultInboundAction	サンプル
EncoreSamplingPeriod	HasIPv4_DHCP	DefaultOutboundAction	Timestamp
EncoreRetentionTime	HasIPv6	FirewallRule	CountInUse
EncoreEnabled	HasIPv6_DHCP	名前	OverDraft
SLSProxy	HardwareId	有効	Installed
SLSProxyWinAutoURL	FQDN	アプリケーション	LPE ID
SLSProxyWinIE	PrivacySetting	プロトコル	Count
SLSProxyWinDefault	InstallUTC	LocalPorts	
SLSProxySlsConfig	ProductVersion	Action	
OS	UpgradeFrom	方向	
WindowsBuildLabEx	SetupCluster	インベントリ	

### コンプライアンスのアップロード

ライセンスサーバーをインストールすると、Citrix ライセンス管理サービスにコンプライアンス情報を送信できるようになります。ライセンスサーバーのインストールには、ユーザーがライセンス管理サービスを承認し、ライセンス管理サービスの使用に同意する必要があります。インストール後、いつでもライセンス管理サービスを無効にできます。

Citrix ライセンス管理サービスの詳細、およびコンプライアンスのアップロードを無効にする方法については、「[Citrix ライセンス管理サービス](#)」を参照してください。

収集データ	説明	使用目的
ライセンス使用状況およびコンプライアンスデータ	ライセンス使用状況の情報と、ライセンスサーバーにインストールされている Citrix ライセンスに関する情報（製品 ID、ライセンスの種類、数量など）です。	このデータは、顧客がライセンス要件に準拠していることを確認するために使用されます。
ライセンスサーバーシステム情報	ライセンスサーバーに関する情報（ハードウェア ID など）	このデータを使用して、顧客の環境内のライセンスサーバーを特定します。

ビルド **32000** のコンプライアンスデータ要素:

ライセンスサーバー情報	機能	SADate	StartupCounts
GUID	Feature ID	CountUsedMax	LPE ID
HardwareId	UDBinFileCreatedUTC	Serial	
InstallUTC	UDReportGenerationUTC		
	UDAdminUsersReleased		
	UDAdminDevicesReleased		

ビルド **31000** 以前のコンプライアンスデータ要素:

GUID	Feature ID	Serial
HardwareId	SADate	Startup Counts
インベントリ	CountUsedMax	LPE ID

## ライセンスサービス

January 9, 2024

ここでは次のことについて説明します:

- Web Services for Licensing
- Citrix ライセンス管理サービス
- Citrix ライセンスサーバー
- Citrix Licensing Windows Management Instrumentation (WMI)

### Web Services for Licensing

Studio、Director、ライセンス管理 PowerShell スナップインは、次の操作のために Web Services for Licensing を使用します:

- ライセンスサーバーと通信し、ユーザーを管理する
- ライセンスを割り当ててインストールする
- ライセンスサーバーの正常性、ライセンスの使用状況、他のアラートメッセージを表示。

Citrix Licensing Manager もこれを使用します。

## Citrix ライセンス管理サービス

ライセンス管理サービスによって、より適切に容量を計画しライセンスを管理できます。このサービスで、以下の禁止された状況を回避することもできます：

- 障害回復（DR: Disaster Recovery）環境外でのライセンスの重複
- 新しい製品バージョンで以前のライセンスを使用
- 破棄されたライセンスの使用

このサービスは、Citrix Insight Services の管理者に、障害回復（DR: Disaster Recovery）環境の重複ライセンスについてもアラートを送ります。Citrix Insight Services について詳しくは、「[Citrix Insight Services](#)」を参照してください。

ライセンス管理サービスは、ライセンスサーバーに組み込まれた製品テレメトリを使用して、データを Citrix Insight Services に送信します。ライセンス管理サービスは、Windows サービスではありません。最初のアップロードは、ライセンスサーバーを最初に起動または再起動した約 5 分後に実行され、以降、アップロードは日に一度実行されます。ライセンスサーバーを再インストールすると、スケジュールがリセットされます。アップロードに失敗した場合、アップロードが成功するまで、またはライセンス管理サービスが無効になるまで、24 時間以内に再試行されます。Citrix は、ユーザーにライセンス環境情報を提供し、サポートするために、アップロードを使用することがあります。「[コマンドラインを使用したライセンス管理サービスの無効化または有効化](#)」を参照してください。

### 重要

ライセンスサーバーのインストールには、ユーザーがライセンス管理サービスを承認し、ライセンス管理サービスの使用に同意する必要があります。インストール後、いつでもライセンス管理サービスを無効にできます。

ライセンス管理サービスは、以下の情報を収集します：

- ライセンスのシリアル番号
- ライセンスのサーバー GUID
- 使用ライセンス数
- 機能名
- 製品バージョン

収集されるデータについて詳しくは、「[コンプライアンスのアップロード](#)」を参照してください。

## Citrix ライセンスサーバー

Citrix Licensing サービスは、コアライセンス機能を担う Windows サービスです。Citrix Licensing サービスは Citrix 製品にライセンスを与え、CITRIX ベンダーデーモン、ライセンスサーバーポート 27000（デフォルト）の管理を担います。

## Citrix Licensing WMI

WMI サービス経由で、Citrix Licensing WMI クラスにアクセスできます。名前空間 (ROOT\CitrixLicensing) のクラス (特に **Citrix\_GT\_License\_Pool**) が、ライセンス使用状況および使用可能な数の情報を提供します。ライセンスサーバーに頻繁に (15 分ごとを超えて) クエリを実行すると、パフォーマンスにマイナスの影響を及ぼすことがあります。

## Citrix のライセンス技術概要

January 9, 2024

Citrix 製品を使用するには、Citrix のライセンスをインストールする必要があります。Citrix のライセンスは、連携して機能するコンポーネントのシステムです。以下のコンポーネントで構成されます：

ライセンスサーバー。ネットワークを介したライセンスの共有を可能にするシステムです。詳しくは、「[ライセンスサーバー](#)」を参照してください。

ライセンスファイル。製品のライセンスを有効にするためのファイルです。ライセンスファイルは、ライセンスサーバー上に格納されます。詳しくは、「[ライセンスファイル](#)」を参照してください。

**Citrix Licensing Manager**。ライセンスサーバーの管理方法。詳しくは、「[Citrix Licensing Manager](#)」を参照してください。

**Web Services for Licensing**。Studio、Director、ライセンス管理 PowerShell スナップインを有効にして、次のことを可能にします：

- ライセンスサーバーと通信し、ユーザーを管理。
- ライセンスを割り当ててインストール。
- ライセンスサーバーの正常性、ライセンスの使用状況、他のアラートメッセージを表示。

詳しくは、「[ライセンスサーバーの要素](#)」および「[サービス](#)」を参照してください。

### ライセンス処理の概要

#### チェックアウトとチェックイン

通常、ユーザーが Citrix 製品への初回接続を試みると、製品からライセンスサーバーにライセンスが要求されます。ライセンスサーバーで要求が許可されると、その Citrix 製品を使用するためのライセンスが付与されます。これを、ライセンスのチェックアウトと呼びます。製品サーバーからユーザーがログオフすると、製品がライセンスサーバーにライセンスを戻します。これを、ライセンスのチェックインと呼びます。一部の Citrix 製品では、ユーザーが接続した瞬間にライセンスがチェックアウトされ、一定の期間チェックアウト状態が保持されます。

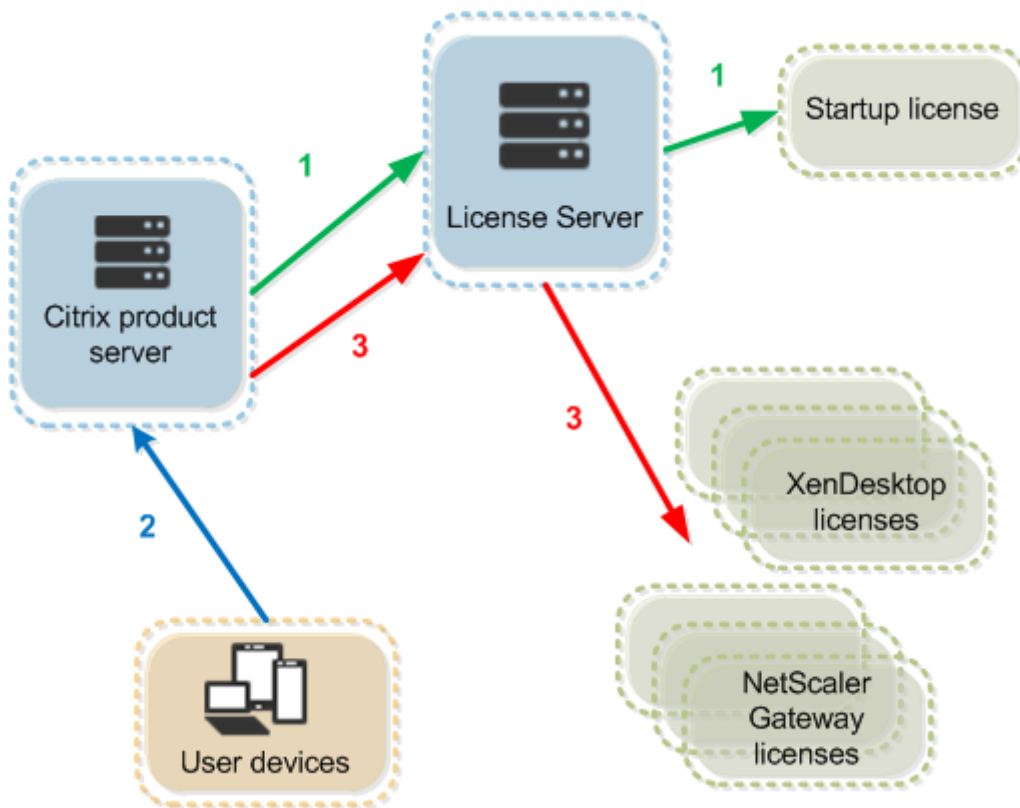
Citrix 製品は、起動時にスタートアップライセンスをチェックアウトします。これによりライセンスサーバーへの接続が開かれます。このスタートアップライセンスは Citrix システムファイルであり、これにより Citrix 製品とライセンスサーバーとの接続が維持されます。詳しくは、「[スタートアップライセンス](#)」を参照してください。

たとえば、Citrix Virtual Desktops がライセンスを要求すると、データストアからライセンスサーバーの名前とポート番号を取得します。そして、ライセンスを取得するために、接続を確立します。

注

製品側でライセンスサーバーの名前を指定するときに、「localhost」を使用しないでください。FQDN の代わりにホスト名や IP アドレスを指定することもできますが、Citrix では FQDN を使用することをお勧めします。

ライセンスのチェックアウトプロセスには、3 つの段階があります。



Citrix 製品は、以下の 3 つの段階を経てライセンスをチェックアウトします：

1. Citrix 製品が起動すると、その製品が動作するサーバーがスタートアップライセンスをチェックアウトします。
2. クライアントデバイスが製品サーバーに接続します。
3. 製品が、ライセンスサーバーにライセンスを要求します。

Citrix Virtual Desktops などの Citrix 製品では、ライセンスサーバーからのライセンス情報（ライセンス数やライセンスの種類）の複製がローカルに保持されます。Citrix 製品サーバーとライセンスサーバーとの接続が失われたりライセンスサーバーが正しく応答しなくなったりすると、製品が猶予期間に入ります。この間、ローカルに保持されているライセンス情報に基づいて製品の使用が許可されます。Citrix 製品とライセンスサーバーとの接続が回復すると、猶予期間の残り時間はリセットされます。



## スケーラビリティ

このセクションでは、Citrix 製品環境でのライセンス使用のスケーラビリティがどのような影響を与えるかについて説明し、ライセンスサーバーを適切に使用するための情報を提供します。このスケーラビリティテストは実施済みです：

仮想マシンのハードウェア/構成：

Intel Xeon E5-2650 v3 (2.30GHz)

4 つの仮想 CPU

8GB の RAM

Windows Server 2016

バージョン 6.5 以前の同時使用ライセンス：

- 3000 台の接続済み Citrix Virtual Apps サーバー
- 53,000 の同時使用ライセンス
- 毎秒 50~60 の接続

ライセンスを 53,000 以上に増やそうとすると、サーバーは猶予期間に入ります。また、WMI と lmstat に問題があります。同時接続はライセンスサーバーにつき 50,000 以下に維持することをお勧めします。

バージョン 7.x の同時使用ライセンス：

- 16 の Delivery Controller
- 70,000 の同時使用ライセンス
- 毎秒 50~60 のチェックアウト

バージョン 7.x のユーザー/デバイスライセンス：

- 16 の Delivery Controller
- 150,000 のユーザー/デバイスライセンス
- 毎秒 50~60 のチェックアウト

**CITRIX.exe** はシングルスレッドプロセスです。同時接続に対応していますが、接続制限の最大値はシングルコアプロセッサの速度に依存しています。ピーク時のアクティビティでは、CITRIX.exe はシングルコアの 100% を使用し、最終的にタイムアウトします。このような使用方法では、Citrix 製品が猶予期間に入ったりライセンスサーバーユーティリティでエラーが発生したりすることがあります。ライセンスサーバーは Backlog 接続の処理後、正常な状態に戻ります。より高速なプロセッサが必要かを判断するには、CITRIX.exe プロセッサの使用状況を監視します。スケーラビリティの高い環境で問題が発生した場合は、追加のライセンスサーバーを展開することをお勧めします。

ユーザー/デバイス技術は、マルチスレッドであり、同時使用よりスケーラビリティに優れています。ライセンスの最適化中に、ライセンスアクティビティがシングルコアの 100% を占める期間が発生することがあります。これは正常な使用方法であり、CITRIX.exe プロセッサの使用または機能には影響しません。ライセンスサーバーのリソース使用状況を監視し、適切に機能する環境を維持するために必要であればライセンスサーバーを追加することをお勧めします。

注

WMI、lmstat、lmutilまたはその他のインベントリ操作を実行すると、ライセンスサーバーのパフォーマンスが低下する可能性があります。このようなアクティビティは最小限にとどめてください。使用データが必要な場合は、Citrix Licensing Manager からデータをエクスポートします。詳しくは、「[使用履歴](#)」を参照してください。

### 異なる製品エディションを使用するライセンスサーバー

1つのライセンスサーバーに、複数のエディションの Citrix 製品のライセンスを配置できます。製品エディションについて詳しくは、「[Citrix 製品とライセンスモデル](#)」を参照してください。製品サーバーで設定されているエディションに対応する種類のライセンスがチェックアウトされます。製品サーバーは特定のエディションのライセンスを使用するように設定され、そのエディションのライセンスをチェックアウトします。

製品サーバー A は Advanced Edition のライセンスをチェックアウトするように設定されています。製品サーバー B は Premium Edition のライセンスをチェックアウトするように設定されています。ライセンスサーバー 1 には、Advanced Edition と Premium Edition の両方のライセンスが配置されています。

- ライセンスサーバー 1 にインストールされたライセンスを使用するように構成されている製品サーバー A に接続するユーザーは、Advanced Edition のライセンスのみをチェックアウトします。ライセンスサーバー 1 で Advanced Edition のライセンスがすべてチェックアウトされると、Advanced Edition のライセンスが解放されるまで、製品サーバー A のユーザーからの新しい要求は拒否されます。
- ライセンスサーバー 1 にインストールされたライセンスを使用するように構成されている製品サーバー B に接続するユーザーは、Premium Edition のライセンスのみをチェックアウトします。ライセンスサーバー 1 で Premium Edition のライセンスがすべてチェックアウトされると、Premium Edition のライセンスが解放されるまで、製品サーバー B のユーザーからの新しい要求は拒否されます。

注:

多くのユーザーが使用する多くの製品サーバーが同じライセンスサーバーと同時に通信する場合は、ライセンスのチェックアウトにかかる時間が長くなる場合があります。1つのライセンスサーバーが同時に処理できる TCP/IP 着信要求は 10,000 件までです。同時に接続する Citrix の製品サーバーが 10,000 台を超える場合は、複数のライセンスサーバーを使用することをお勧めします。これらの製品サーバーには、Citrix Virtual Apps and Desktops、Delivery Controller、アプライアンスが含まれます。

### 展開例

#### シナリオ 1: 2つのサイト

- サイト A には、Advanced Edition に設定された製品サーバーがあります。
- サイト B には、Premium Edition に設定された製品サーバーがあります。
- 1つのライセンスサーバー（共有）。

- ユーザー 1、ユーザー 2、ユーザー 3、ユーザー 4…ユーザー 5000 はサイト A にのみ接続します。
- ユーザー 5001、ユーザー 5002、ユーザー 5003…ユーザー 10000 はサイト B にのみ接続します。

#### シナリオ 2: 1つのサイト

- 1つのサイトに 2組の公開アプリケーションがあります。
- サイトは Citrix Virtual Apps and Desktops Premium の同時使用ライセンスで構成され、デリバリーグループ 2 は Citrix Virtual Apps and Desktops ユーザー/デバイスライセンスで構成されています。
- 1つのライセンスサーバー (共有)。
- ユーザー 1、ユーザー 2、ユーザー 3、ユーザー 4…ユーザー 5000 は、この同時使用ライセンスにのみ接続します。
- ユーザー 5001、ユーザー 5002、ユーザー 5003…ユーザー 10000 は、デリバリーグループ 2 のユーザー/デバイスライセンスにのみ接続します。

## ライセンスの概念

### 猶予期間

注:

猶予期間と追加猶予期間は、2つの異なる機能です。追加猶予期間については、「[追加猶予期間](#)」を参照してください。

製品サーバーがライセンスサーバーと通信できない場合、ユーザーと製品は猶予期間によって保護されます。猶予期間により、製品サーバーは、ライセンスサーバーとの通信を継続しているかのような状態で操作を続行できます。Citrix 製品が起動してスタートアップライセンスをチェックアウトすると、Citrix 製品とライセンスサーバーが 5 分ごとにハートビートメッセージを交換します。このメッセージにより、両者が正しく動作しており、接続が維持されていることが確認されます。Citrix 製品またはライセンスサーバー側でハートビートメッセージを送信しないと、製品がライセンス猶予期間に入り、ローカルに保持されているライセンス情報に基づいた動作を開始します。

Citrix では猶予期間が設定されます。通常は 30 日間ですが、製品により異なる場合があります。Citrix 製品が猶予期間に入ると、猶予期間の残り時間の情報とともに Windows のイベントログに記録され、製品上でメッセージが表示されます。猶予期間が終了すると、Citrix 製品がユーザー接続の受け入れを停止します。Citrix 製品とライセンスサーバーとの接続が回復すると、猶予期間の残り時間はリセットされます。

Citrix 製品が猶予期間に入るためには、ライセンスサーバーとの接続が少なくとも 1 回確立されている必要があります。

同時接続ライセンスの場合は、インストールされている同時接続ライセンスの最大数まで接続が許可されます。ユーザー/デバイスライセンスの場合は、接続数に制限はありません。

### 猶予期間の例 - ライセンスサーバーを共有する 2つのサイトの場合

- サイト 1 とライセンスサーバーとの接続が失われると、サイト 1 が猶予期間に入り、処理および接続が引き続き許可されます。
- サイト 1 とライセンスサーバーとの接続が回復すると、通常時のライセンスで許可される数になるまで新しい接続は拒否されます。
- この間、サイト 2 は通常どおり機能します。
- ライセンスサーバーが停止すると、両方のサイトが猶予期間に入ります。各サイトでは、インストールされているライセンスの最大数まで接続が許可されます。この場合も、ユーザー/デバイスライセンスでは接続数に制限はありません。

### 新規ライセンス

- 新規ライセンスとは、過去 30 日以内に Citrix から購入したライセンスを意味します。
- 新規ライセンスのセクションには、最も最近購入した 5 件が表示されます。
- 新規ライセンスには、緑の縦棒と「(New)」という緑の文字が表示されます。



- 新規ライセンスは、ランディングページからのみ割り当てることができます。必要なライセンスを選択し、[Allocate licenses] クリックして割り当てプロセスを開始します。

### 期限切れが近いライセンス

- 期限切れが近いライセンスとは、90 日以内に有効期限が切れるライセンスを意味します。
- 0~30 日以内に期限が切れるライセンスには、赤い縦棒が表示されます。31~90 日以内に期限が切れるライセンスには、オレンジ色の縦棒が表示されます。

#### Expiring term licenses showing 3 of 3

Product name	License access code	Allocated	Expires
Citrix ADC VPX 3000 Mbps Advanced Edition Term License		1 of 25	6 days
Citrix ADC Connector VPX 200Mbps - 1 Year On-Premises Subscription License		0 of 25	6 days
Citrix Gateway Universal - Annual License		0 of 25	36 days

Once the expiration date passes, these licenses do not work on your server nor appear in your list of licenses. If you need assistance with expired licenses, contact Customer Service.

- [Expires] 列には、ライセンス有効期限までの日数が表示されます。
- [Allocated] 列には、割り当て済みの数と合計購入数が表示されます。
- 期限切れが近いライセンスのセクションには、購入順に最新の 5 件が表示されます。

## 用語集

ライセンスの割り当て: [ライセンスを割り当てる](#)場合、製品およびライセンスサーバーに従って購入したライセンスを振り分け、複数環境またはユースケースで分割できます。たとえば、組織が同じ製品で 1,000 ライセンスを所有しているとします。1つの場所で 800、別の場所で 200 を使用する場合、最初の場所のライセンスサーバーに 800 ライセンスを割り当て、残りの 200 ライセンスを後から別のライセンスサーバーに割り当てることができます。

アセットコンポーネント: [アセットコンポーネント](#)は、ライセンスの詳細です。

**CSV** ファイル: [Excel CSV ファイル](#)により、超過使用のライセンス数を含む日単位での使用状況情報が提供されます。

ライセンスの変更: [\[Modify Licenses\]](#) を選択するとライセンスファイルが返却され、別のライセンスサーバーに割り当てられます。

割り当ての返却: [\[Return licenses\]](#) を選択すると、ライセンスはライセンスプールに戻ります。これらのライセンスはその後、いつでも任意の数量で割り当てることができます。ライセンスの返却後、ライセンスサーバーから古いライセンスファイルを削除します。

期間ライセンス: 期間ライセンスは、指定された期間購入され、有効期限が設定されています。

## ライセンスファイル

January 9, 2024

製品ライセンスのインストールを開始する前に、「[ライセンスファイルを手に入れる前に](#)」を参照してください。

ライセンスサーバーをインストールするとき、デフォルトで Citrix スタートアップライセンス (citrix\_startup.lic) および[オプションファイル](#) (CITRIX.opt) がインストールされます。特定の Citrix 製品のライセンスは、ライセンスファイルとして後から追加します。製品ライセンスの追加について詳しくは、「[ライセンスのインストール](#)」を参照してください。

ライセンスファイルは、ライセンスサーバー上の特定の場所に追加する必要があります。この場所を変更することはできません。

### Citrix スタートアップライセンス

スタートアップライセンスファイル (citrix\_startup.lic) はテキストファイルであり、Citrix 製品がライセンスサーバーと、継続的な接続を使用して通信できるようにするために使用されます。ライセンスサーバーと製品は、相互に通信できていることを確認するために、5分ごとにお互いにハートビートメッセージを送信します。ハートビートメッセージを交換する製品とライセンスサーバーの間で交換が中断された場合は、その製品は[猶予期間](#)に入ります。中断の一例として、停電が挙げられます。スタートアップライセンスファイルは、ライセンス数に影響を与えません。

## Citrix License Server Diagnostics License

ライセンスサーバーでは、内部診断や Citrix Studio および Director へのアラートメッセージの表示に **Citrix License Server Diagnostics License** が使用されます。この機能は、`citrix\\_startup.lic`ファイルのスタートアップライセンスによりデフォルトで有効になります。

### 警告

スタートアップライセンスを含め、ライセンスファイルを直接編集しないでください。

## ライセンスファイル

ライセンスファイルはテキストファイルで、次の情報が記述されています：

- 製品のライセンス情報
- ライセンスサーバー名（またはその他の識別情報）
- カスタマーサクセスサービス契約の更新日（カスタマーサクセスサービスの有効期限とも呼ばれます）
- ライセンスの有効期限（ある場合）
- その他のシステム情報

これらの情報はすべて、デジタル署名により暗号化されています。Citrix 製品を購入した後で、[citrix.com](https://citrix.com)の Web サイトにアクセスしてライセンスファイルをダウンロードします。詳しくは、「[Citrix.com でのライセンスの管理](#)」を参照してください。1 台のライセンスサーバーに複数のライセンスファイルを配置できます。ライセンスファイルは、これらのディレクトリに配置され、ライセンスサーバーが参照します。

- 32 ビットサーバー：C:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles フォルダー
- 64 ビットサーバー：C:\Program Files(x86)\Citrix\Licensing\MyFiles フォルダー

ライセンスサーバーはこのファイルを使用して、Citrix 製品の使用を許可するかどうかを決定します。

ライセンスの超過使用保護は、すべてのユーザー/デバイス、単一ユーザー、単一デバイスのライセンスに含まれています。ライセンスの超過使用保護について詳しくは、「[ライセンスの超過使用保護](#)」を参照してください。

## 他のライセンスサーバーへのライセンスの移動

古いライセンスサーバー用にダウンロードしたライセンスファイルを、別のホスト名または MAC アドレスのサーバーに移動することはできません。新しいサーバー名を参照するライセンスファイルを返却および割り当てすることで作成します。

詳しくは、「[ライセンスの変更](#)」を参照してください。

## ライセンスファイルの形式

重要

ライセンスファイルを編集すると、ライセンスが機能しなくなることがあります。Citrix ライセンスサーバー 11.6.1 for Windows またはそれ以降のバージョンでは、ライセンスファイルを編集する必要はありません。ライセンスの管理は、Citrix Licensing Manager と、[citrix.com](https://citrix.com) の **My Account** サイトで行います。詳しくは、「[citrix.com の My Account でライセンスを管理](#)」を参照してください。

ライセンスファイルの名前を変更することもできますが、**.lic** (小文字) 拡張子を変更することはできません。

Citrix ライセンスファイルでは、次の命名規則を使用します：

`FID_fulfillmentID.lic`

例：FID\_30d0000\_0000\_xxxx\_c800\_00xxyy000zz7.lic

ライセンスファイルの各行には、サーバー名 (SERVER 行) やライセンス数 (INCREMENT 行) など、特定の情報が記述されています。また、各行の最初には、VENDOR、SERVER、INCREMENT、USE\_SERVER など、その行の情報の意味を示す語が大文字で記述されています。

ここでは、ライセンスファイル構文の次の要素について詳しく説明します：SERVER 行、VENDOR 行、USE\_SERVER 行、INCREMENT 行。

次の画像は、ライセンスファイルの例です：

1. **SERVER 行**は、ライセンスをライセンスサーバーにバインドするために必要な識別子を示しています。
2. **VENDOR 行**には、Citrix ベンダーデーモンの名前が定義されています。
3. **INCREMENT 行**では、製品を使用するために必要なライセンスを指定します。
4. コメントは、ライセンスサーバーがライセンスの FEATURES (PRODUCT\_EDITION\_LICENSEMODEL) を Citrix 製品名に翻訳するために使用されます。

```
# This file is in UTF-8 format.
#
SERVER this_host HOSTNAME=license_server1 ①
VENDOR CITRIX ②
USE_SERVER
INCREMENT MPS_ENT_CCU CITRIX 2006.0428 01-may-2006 1000 \
    VENDOR_STRING=;LT=Retail;GP=720;CL=ENT,ADV,STD;SA=0;ODP=0 \
    DUP_GROUP=V ISSUED=12-Mar-2004 NOTICE="eMail Test - Citrix" \
    SN=LA-0000150712-86261:872 START=11-mar-2004 SIGN="0885 F320 \
    0AE2 EE72 68A4 92FC 86C2 3648 A2CF 346D A88F BD44 TS111\
    D790 1830 7535 553C B774 DE8C 1F5D A5D3 D5F6 D078 217B BH050 \
    A14C 2893 7756 ACF5" ③

#
#[English] ④
#CITRIXTERM FEATURE 2.0 MPS_STD_CCU EN Citrix Presentation Server Standard|Concurrent User
#CITRIXTERM FEATURE 2.0 MPS_ADV_CCU EN Citrix Presentation Server Advanced|Concurrent User
#CITRIXTERM FEATURE 2.0 MPS_ENT_CCU EN Citrix Presentation Server Enterprise|Concurrent User
#
```

**SERVER 行**

SERVER 行には、ライセンスサーバーを識別するためのホスト名が定義されています。

注意:

SERVER 行のバインドしている識別子を変更しないでください。変更するとライセンスファイルが機能しなくなります。

構文:

SERVER this\_host ether

または

SERVER this\_host HOSTNAME=hostname

パラメーター	説明
ether	ライセンスサーバーを実行しているアプライアンスの MAC アドレス。通常は lmhostid コマンドによって返される文字列です。この文字列は変更しないでください。
hostname	ライセンスサーバーを実行しているコンピューターの名前。この文字列は変更しないでください。

例

```
1 SERVER this_host HOSTNAME=license_server1
```

## VENDOR 行

VENDOR 行には、Citrix ベンダーデーモンの名前が定義されています。

構文:

VENDOR CITRIX [vendor\_daemon\_path]

フィールド	説明
VENDOR CITRIX	Citrix ベンダーデーモンの名前。この名前は変更しないでください。
vendor_daemon_path	Citrix ベンダーデーモンの実行ファイルのパス。Citrix ではこのパスは変更しないでください。

## INCREMENT 行

INCREMENT 行には、製品を使用するためのライセンスが定義されています。ライセンスファイル (\*.lic) には、1 つまたは複数の INCREMENT 行が含まれます。各 INCREMENT 行には、ライセンスの対象となる製品、ライセンス



モデル（同時接続ユーザーライセンスまたは指定ユーザーライセンス）、ライセンス数などの情報が記述されています。

各 INCREMENT 行には、次の情報が記述されています：

- その行のデータに基づいた署名
- 1 つまたは複数の SERVER 行で指定されている `hostids`
- Citrix が指定したデータ

行末のバックslash ( \ ) は、その INCREMENT 行が途中で改行されていることを示します。

構文：

```
INCREMENT feature vendor css_expiry_date exp_date num_lic  
SIGN=sign [optional_attributes]
```

注意：

INCREMENT 行の次の 6 つのパラメーターは変更しないでください。これらは必須のパラメーターで、決まった順番で記述される必要があります。

次の表では、これらのパラメーターについて INCREMENT 行に指定される順に説明します：

フィールド	説明
feature	対象となる製品ライセンス。この行は変更しないでください。
vendor	ベンダーデーモンの名前。Citrix 製品のライセンスファイルでは、常に Citrix ベンダーデーモンを示す CITRIX です。この行は変更しないでください。

フィールド	説明
CSS_expiry_date exp_date	<p>カスタマーサクセスサービスプログラムの有効期限。この日までは、カスタマーサクセスサービスにより製品をアップグレードできます。カスタマーサクセスサービスを契約していない場合、またはカスタマーサクセスサービスの対象でない製品のライセンスでは、ライセンスの購入日を示します。この行は変更しないでください。注: カスタマーサクセスサービスを更新し、アップグレードライセンスを受け取った場合は、CSS_expiry_date が記載されます。例: INCREMENT MPS_ENT_CCU CITRIX 2019.0311 permanent 1000</p> <p>ライセンスの有効期限。「dd-mmm-yyyy」形式 (07-may-2006 など) で記述されます。この行は変更しないでください。注: exp_date パラメーターが「<b>permanent</b>」の場合、ライセンスに有効期限が設定されていないことを示します。</p>
num_lic	この製品の同時使用ユーザーライセンス数。この行は変更しないでください。
SIGN=sign	INCREMENT 行を認証する署名。この行は変更しないでください。
SUPERSEDE_SIGN=sign	<p>ライセンスの機能と署名に基づいて、戦略的に特定のライセンスをオフにするか、INCREMENT 行を無効にします。カスタマーサクセスサービスまたはメンテナンスアップグレードライセンスには、SUPERSEDE_SIGN が含まれます。例: SUPERSEDE_SIGN={</p> <p>“CBR_100_SSERVER:0F76 2946 4790 6B67 08E0 65BC 302B E1B6 6ECE 41D6 8AB6 E9C6 FE44 4EB3 9A83 01E4 D405 3E95 74B8 9BC8 7791 BDD3 1385 33F8 9533 95FF A3E4 F461 35B4 251E” }</p>

また、INCREMENT 行の情報により、ライセンス管理コンソールでライセンスを表示するときのグループが決定されます。このグループを、ライセンスプールと呼びます。Citrix ベンダーデーモンは、INCREMENT 行の製品名やバージョン番号などの情報を基に、ライセンスプールを作成します。コンソールでは、新しく作成されたプールは他のライセンスプールとは別個に表示され、追跡されます。2 つ以上の属性が異なる場合、Citrix ベンダーデーモンがライセンスプールを作成します。

#### INCREMENT 行の Citrix 属性:

INCREMENT 行には、Citrix 独自の属性をさらに追加することもできます。これらの属性により、ライセンスの発行

日やアップグレードライセンスかどうかなどの情報が定義されます。

注意:

これらの属性を変更したり削除したりしないでください。

例:

```
INCREMENT MPS_ENT_CCU CITRIX 2008.0606 permanent 10 \
VENDOR_STRING=;LT=Retail;GP=720;CL=ENT,ADV,STD,AST;SA=1;ODP=0 \ DUP_GROUP=V
ISSUED=06-Jun-2007 NOTICE="Citrix" \ SN=12345:67890 START=6-jun-2007 SIGN="18F8 1546
F605 E3BD 010E 7E4F A4B3 9DE3 B90E 7937 3337 0180 1FFB C6EB D491"
```

この例で記述されている内容は以下のとおりです:

- 青い文字は、対象となる製品ライセンスを示します (MPS は Presentation Server、ENT は Enterprise Edition、CCU は同時接続ユーザーライセンスを示しています)。
- カスタマーサクセスサービスの有効期限は赤色で表示されます (形式: YYYY.MMDD)
- 緑の文字は、このライセンスファイルに割り当てられているライセンス数を示します。

構文:

keyword=value

次の表に、Citrix 属性の内容について示します。大文字の語が属性名を示します。これらの属性を編集することはできません。

属性	説明
DUP_GROUP=V	同一クライアントデバイス上でのライセンス共有を有効にする属性。
ISSUED=dd-mmm-yyyy	ライセンスの発行日。
ISSUER=" ..."	ライセンスの発行者。
NOTICE=" ..."	会社名。
SN=serial_num	シリアル番号は、ライセンスアクセスコードとそのライセンスの使用権 ID です。
START=dd-mmm-yyyy	ライセンスの使用を開始できる日付。この日付より前からライセンスを使用することはできません。START の日付より前にライセンスをインストールできますが、実際の START の日付まではライセンスサーバーインベントリに表示されません。

属性	説明
SUPERSEDE=" MPS_ADV_CCU MPS_STD_CCU…"	アップグレードライセンス。製品のエディションをアップグレードすると、この属性が追加されます。この属性が定義されている場合、ISSUED 属性で指定された日以前に発行されたすべてのライセンスが無効になります。
VENDOR_STRING=…	Citrix により定義されたテキスト文字列。

ベースライセンスの例:

```

1 INCREMENT CBR_100_SSERVER CITRIX 2016.1201 permanent 10 \\
2
3     VENDOR_STRING=;LT=Retail;GP=720;MAXBW=1;MLC=0;HA=0;CL=BRSE;SA=1;ODP
   =0 \\
4
5     DUP_GROUP=V ISSUED=18-dec-2005 NOTICE="Citrix" \\
6
7     SN=100se200seB SIGN="1B19 C213 7517 CC62 756F 864C 9C93 06FC \\
8
9     E1DE B5D5 D793"
10 <!--NeedCopy-->

```

**SUPERSEDE\_SIGN** を含むカスタマーサクセスサービス更新ライセンスの例:

```

1 INCREMENT CBR_100_SSERVER CITRIX 2017.1201 permanent 10 \\
2
3     VENDOR_STRING=;LT=Retail;GP=720;MAXBW=2;MLC=0;HA=0;CL=BRSE;SA=1;ODP
   =0 \\
4
5     DUP_GROUP=V ISSUED=18-dec-2007 NOTICE="Citrix" \\
6
7     SN=100se200seU SUPERSEDE_SIGN={
8     "CBR_100_SSERVER:1B19 C213 7517 \\
9
10    CC62 756F 864C 9C93 06FC E1DE B5D5 D793" }
11    SIGN="1D5D 869A 40BE \\
12
13    D4DB 361D 7897 AFA5 FF8B E52A 20BA 5525 01AA F241 6919
14 <!--NeedCopy-->

```

## ライセンスの種類

May 24, 2024

Citrix 製品は、このドキュメントで説明されているライセンスの種類の一つを使用します。一部の製品では、複

数の種類のライセンスを選択できます。購入したライセンスの種類とそれらの使用方法を確認してください。ライセンスの種類によっては、[ライセンスの超過使用](#)および[追加猶予期間](#)が機能として提供されます。

Citrix ライセンスサーバーは、Citrix ライセンスを必要とするすべての Citrix 製品をサポートします。詳しくは、「[製品とライセンスモデル](#)」を参照してください。

## ユーザー/デバイスライセンス

### 概要

ライセンスの種類がユーザー/デバイスの場合、ライセンスサーバーは使用状況に応じてユーザーまたはデバイスに動的にライセンスを割り当て、ライセンスの消費を監視します。デフォルトの割り当てはユーザーライセンスです。ライセンスサーバーは、各接続とその最適化エンジンを考慮します。これにより、ユーザー ID とデバイス ID に基づいて使用されるライセンスの数が最小になります。

ライセンスサーバーは、[eng@abc.com](#)と[citrite@abc.com](#)が同じユーザーとして扱われるように、デフォルトでドメイン名を切り捨てます。詳しくは、「[ドメイン名切り捨ての無効化](#)」を参照してください。

#### 注:

ドメインメンバーシップは、ライセンスがどのように処理されるかには関与しません。ライセンスサーバーは、ネットワーク経由で接続できるすべての製品のライセンスをホストできます。ワークグループまたはドメインメンバーシップは、主に、Citrix Licensing Manager にアクセスできるライセンスサーバー管理者としてどのユーザーを設定するかを制御します。

### シナリオ

- ライセンスがユーザーに割り当てられた場合。ユーザーライセンスにより、ユーザーは無制限の数のデバイスからアクセスできます。ライセンスが割り当てられたユーザーは、Active Directory エントリなど一意のユーザー ID を必要とします。

たとえば、ユーザーは、デスクトップ、ノートブック、スマートフォン、シンクライアントなどの複数のデバイスを使用して、デスクトップやアプリケーションに接続できます。この場合、1人のユーザーが Citrix Virtual Desktops の複数のインスタンスに同時に接続することができます。

- ライセンスがデバイスに割り当てられている場合。複数のユーザーが排他的に共有されているエンドポイントデバイスに接続すると、デバイスにデバイスライセンスが割り当てられます。

たとえば、複数のユーザーが使用するコールセンター環境のキオスクやワークステーションなどの単一の共有デバイスです。

次の表では、ユーザー/デバイスライセンスが非共有デバイスと排他的に共有されたデバイスに割り当てられています。青色のセルには、デバイスが共有されていないユーザーライセンスが表示されています。緑色のセルには、デバイスが排他的に共有されているデバイスライセンスが表示されています。

Devices/Users	John	Rose	Joe	Roy	Tom	Karen	Rick	Tony
Laptop	x	x						
PC	x							
Mobiles	x	x	x	x				
Laptop2			x	x				
PC1			x					
Desktop1					x	x	x	x
Desktop2							x	x

#### ライセンス割り当て期間

ユーザーまたはデバイスがアプリケーションまたはデスクトップに接続すると、割り当て期間が 90 日のライセンスが 1 つ消費されます。ライセンス割り当て期間は、接続が確立されたときに開始します。この期間は、接続されている間 90 日満期で更新されます。ライセンス割り当てのユーザー/デバイスリースは、最後に接続したユーザーまたはデバイスが切断されてから 90 日で期限切れになります。

#### ユーザーまたはデバイスのライセンスの解放

次の場合に限り、ユーザーのライセンスを解放できます：

- 会社への関連付けがなくなった従業員。
- 長期休暇中の従業員。

デバイスのライセンスの解放が必要になるのは、デバイスが故障した場合などです。

詳しくは、「[ユーザーライセンスまたはデバイスライセンスの表示と解放](#)」を参照してください。

#### ライセンスの最適化

ライセンスサーバーの最適化処理により、ライセンス消費を最小化する方法が決定されます。最適化は、使用中のライセンスおよびライセンスサーバーへの接続に基づきます。この最適化は 5 秒間隔で実行され、個別の接続数が 5000 になるまで継続されます。接続数が 5000 以上になると、最適化は 5 分ごとになります。このため、管理コンソールに表示されるライセンス使用量が更新されるまでに時間がかかる場合があります。

個別の接続数が 1~4999 の場合は 5 秒ごとに、5000 以上の場合は 5 分ごとに最適化が行われます。

最適化は消費ではありません。次の表は、最適化が行われるときの接続と最適化の間隔の例です。

デバイスとユーザーの接続	最適化の間隔
700 ユーザー * 1 デバイスごと	700 (5 秒間隔で最適化)
5000 ユーザー * 1 デバイスごと	5000 (5 分間隔で最適化)
5000 デバイス * 1 ユーザーごと	5000 (5 分間隔で最適化)
2500 ユーザー * 2 デバイスごと	5000 (5 分間隔で最適化)

注:

- 大規模な展開環境では、個別の接続数によっては、最適化により CPU に負荷がかかることがあります。マルチコアのマシンの使用をお勧めします。
- 多くのライセンスサーバーまたは共有ディスクシステムをホストしている場合、頻繁な読み取りおよび書き込み操作が発生します。すべてのライセンスサーバーのユーザー数が 5000 人未満の場合でも、それぞれが 5 秒ごとに最適化し、キャッシュデータをディスクに書き込みます。最適化を無効にしたり、頻度を変更したりすることはできません。

## 同時使用ライセンス

### 概要

同時使用ライセンスは、特定のユーザー ID、Active Directory アカウント、またはドメインに関連付けられていません。同時使用ライセンスは、元のエンドポイントのデバイス ID に基づきます。ユーザーまたはエンドポイントデバイスは、複数のセッションに接続して単一のライセンスを使用できます。

ライセンスを要求する製品を起動すると、一意のエンドポイントのデバイス ID にチェックアウトされます。ログオフするか、セッションから切断すると、ライセンスがチェックインされ、新しいユーザーが使用できるようになります。セッションごとにライセンスを付与することはありませんのでご注意ください。

### シナリオ

- 異なるコンピューターから複数のセッションを起動すると、複数のライセンスが使用されます。さまざまなデバイスから Citrix セッションを開始するたびに、そのセッションを閉じるまでライセンスがチェックアウトされます。そのユーザーが各コンピューターやデバイスでセッションを閉じると、ライセンスがチェックインされます。

たとえば、ユーザーがあるコンピューターからセッションを起動し、別のコンピューターからもう 1 つのセッションを起動する場合は、最初のセッションを閉じるまでは、2 つのライセンスがチェックアウトされます。

- ライセンスサーバー間で通信することはありません。複数のライセンスサーバーを実行している場合、複数のライセンスを使用していることがあります（負荷分散などの場合）。負荷分散を使用している場合は、同じ製品が動作するサーバーは同じライセンスサーバーを参照するように設定することをお勧めします。
- 異なるエディションでは異なるライセンスが消費されます。同じクライアントを使用して、それぞれ Advanced Edition と Premium Edition で実行されているアプリケーションに接続する場合、2つのライセンスが消費されます。
- 同じ製品、エディション、ライセンスモデルは単一のライセンスを消費します。同じエディションとライセンスモデルが構成され、同じライセンスサーバーを参照する異なる製品サーバーに対して、単一のデバイスから複数の接続を行う場合、1つのライセンスのみが消費されます。
- ライセンス共有の場合、**Citrix Virtual Apps and Desktops** のパススルー接続がエンドポイントクライアントのデバイス ID を製品サーバーに渡します。共有ライセンスサーバーを使用して単一の製品、エディション、ライセンスモデルに接続する場合、すべての接続で単一のライセンスが共有されます。
- ユーザーは、単一のデバイスから同じエディションの違うバージョンの2つの製品サーバーに接続します。接続の順番によって、1つまたは2つのライセンスが消費されます。

たとえば、2つのサーバーが Citrix Virtual Apps and Desktops 7 1811 と Citrix Virtual Apps and Desktops 7 1903 の場合：

- ユーザーは最初に **Citrix Virtual Apps and Desktops 7 1811** に接続します。2つのライセンスが消費される可能性があります。最初に古い製品の古いライセンス、次に新しいライセンスが消費されます。これは、バージョン 1903 では、最新のカスタマーサクセスサービスの日付が必要なためです。詳しくは、「[カスタマーサクセスサービス](#)」を参照してください。
  - ユーザーが先に **Citrix Virtual Apps and Desktops 7 1903** に接続した場合。バージョン 1903 で必要なカスタマーサクセスサービスの日付は、古い製品バージョンのすべてと互換性があるため、ライセンスは1つだけ消費されます。
  - インストールされているすべてのライセンスのカスタマーサクセスサービスの日付がすべての製品バージョンと互換性がある場合は、接続デバイスごとに1つのライセンスが必要です。
- RDP 接続によりライセンスが消費されます。ただし、コンソールセッションに接続する場合は消費されません。
  - 接続数が購入済みで使用可能なスタンドアロンの同時使用ライセンスの数を超えると、追加猶予期間が有効ではない限りユーザーはアクセスを拒否されます。詳しくは、「[追加猶予期間](#)」を参照してください。

## 単一ユーザーライセンス

### 概要

ライセンスが割り当てられたユーザーは、Active Directory エントリなど一意のユーザー ID を必要とします。ライセンスが割り当てられたユーザーは、複数のデバイスを使ってデスクトップやアプリケーションに接続できます。ユーザーライセンスは、ユーザーのデバイスではなく、ユーザーに割り当てられます。



注:

これらのライセンスはユーザーライセンスのみで、ユーザー/デバイスライセンスとは異なります。

### シナリオ

- ユーザーは、デスクトップコンピューター、ノートブック、ネットブック、スマートフォン、シンクライアントなどの複数のデバイスに接続できます。この場合、1人のユーザーが Citrix Virtual Desktops の複数のインスタンスに同時に接続することができます。

### ライセンス割り当て期間

ユーザーが複数のデバイスに接続すると、90 日間の割り当て期間にユーザーライセンスが消費されます。ライセンス割り当て期間は、接続したときから開始します。この期間は、接続されている間 90 日満期で更新されます。ライセンス割り当てのデバイスリースは、最後に接続したユーザーまたはデバイスが切断されてから 90 日で期限切れになります。

### ユーザーまたはデバイスのライセンスの解放

次の場合に限り、ユーザーのライセンスを解放できます:

- 会社への関連付けがなくなった従業員。
- 長期休暇中の従業員。

デバイスのライセンスの解放が必要になるのは、デバイスが故障した場合などです。

詳しくは、「[ユーザーライセンスまたはデバイスライセンスの表示と解放](#)」を参照してください。

### 単一デバイスライセンス

#### 概要

ライセンスが割り当てられたデバイスは一意のデバイス ID を必要とし、任意のユーザーが製品インスタンスにアクセスできます。そのデバイスからのアクセスが許可されるユーザー数に制限はありません。1つのデバイスライセンスで、同じデバイスの複数のユーザーをサポートできます。

注:

これらのライセンスはデバイスライセンスのみで、ユーザー/デバイスライセンスとは異なります。

## シナリオ

- 多くの学生が使用する、クラスルームワークステーション。
- 病院のスタッフが使用する、病院内の臨床ワークステーション。

## ライセンス割り当て期間

1つのデバイスを複数のユーザーが使用する場合、デバイスライセンスは90日間の割り当て期間に消費されます。ライセンス割り当て期間は、接続したときから開始します。ライセンス割り当てのデバイスリースは、最後に接続したユーザーまたはデバイスが切断されてから90日で期限切れになります。

## ユーザーまたはデバイスのライセンスの解放

次の場合に限り、ユーザーのライセンスを解放できます：

- 会社への関連付けがなくなった従業員。
- 長期休暇中の従業員。

デバイスのライセンスの解放が必要になるのは、デバイスが故障した場合などです。

詳しくは、「[ユーザーライセンスまたはデバイスライセンスの表示と解放](#)」を参照してください。

## 単一ソケットライセンス

単一ソケットライセンスは、CPUソケットの数に基づいて消費されます。コアではカウントされません。例：

- コンピューターにCPUソケットが2つあっても、CPUが1つしかない場合、消費されるライセンスは1つのみです。
- コンピューターにクアッドコアCPUが2つある場合でも、消費されるライセンスは2つのみです。

Citrix Hypervisor は単一ソケットライセンスを使用します。

## 指定ユーザーライセンス（レガシー）

製品でライセンスを要求すると、事前設定された期間中、指定ユーザーライセンスがチェックアウトされます。この種類のライセンスのチェックアウトはコンピューターまたはデバイスに関連付けられません。ライセンスがチェックアウトされると、追加のライセンスをチェックアウトしなくても、ユーザーは複数のセッションを複数の異なるコンピューターで実行できます。

## ライセンスの超過使用保護

[ユーザー/デバイス](#)、[ユーザー](#)、または[デバイスライセンス](#)モデルをサポートするオンプレミス製品には、ライセンスの超過使用保護機能が含まれています。この機能によって、購入した数量に対して 10% の追加ライセンスを使用できるため、アクセス拒否を防ぐことができます。ライセンスの超過使用数は、ライセンス管理コンソール内の別の列に表示されます。インストールされた列には、購入したライセンスの合計と関連する超過使用数の合計の両方が表示されます。超過使用情報は Studio でも確認できます。

ライセンスの超過使用保護機能は、ライセンス使用権には関係なく便宜上提供されています。使用されるすべての超過使用保護ライセンスは初回の使用から 30 日以内に購入する必要があります。

同時使用ライセンスとサーバーライセンスには、超過使用保護機能は含まれません。Citrix は、本製品の新規リリースで超過使用保護機能を削除する権利を留保します。

## 追加猶予期間

追加猶予期間により、15 日間連続して製品に無制限にアクセスできます。この機能は、Citrix Virtual Apps and Desktops ライセンスで利用できます。この機能は、バージョンが XenApp 7.6 または XenDesktop 7.6 以降で利用できます。

すべてのライセンス（該当する場合は[ライセンスの超過使用](#)も含む）が使用されている場合、追加猶予期間中に、ユーザーの作業を中断させることなく最大ライセンス数を超過した原因を調査し、さらにライセンスを購入するかを検討することができます。

追加猶予期間が終了すると、通常の接続制限が適用されます。アクティブなセッション中にユーザーが切断されることはありません。ただし、ユーザー側で切断した場合は、ライセンスレベルが通常の状態に戻るまで新しい接続は拒否されます。

終了した追加猶予期間が自動的に再度有効になることはありません。再度有効にするには、別の製品版ライセンスをインストールして、次に使用ライセンス数が超過したときに再び 15 日の追加猶予期間が開始されるようにする必要があります。

追加猶予期間が開始されたら、満期まで使用することをお勧めします。警告状態を取り消すために、すぐにライセンスを追加しないでください。この期間中に現状を総合的に判断し、問題に適切に対応できます。

### 注：

追加猶予期間中にライセンスをインストールすると、ライセンスサーバーが追加猶予期間を終了します。追加猶予期間の理由と必要なライセンス数を最終的に決定する前に追加猶予期間を再度有効化すると、別ライセンスのインストール後に追加猶予期間が再度発生する可能性があります。

追加猶予期間は、製品のバージョンおよびエディションに応じて付与され、対象は製品版ライセンスのみです。最初にライセンスをインストールするとき、追加猶予期間は、デフォルトで有効になっています。追加猶予期間の機能を無効にするには、[Citrix Licensing Manager](#)を使用します。

追加猶予期間中に消費されたライセンスの合計数を追跡する方法はありません。lmstat udadmin および製品からの接続情報を使用して、必要な追加ライセンスの数を判別できます。

注:

猶予期間と追加猶予期間は、2つの異なる機能です。

ライセンスの有効期限が切れると、猶予期間および追加猶予期間機能は適用されません。

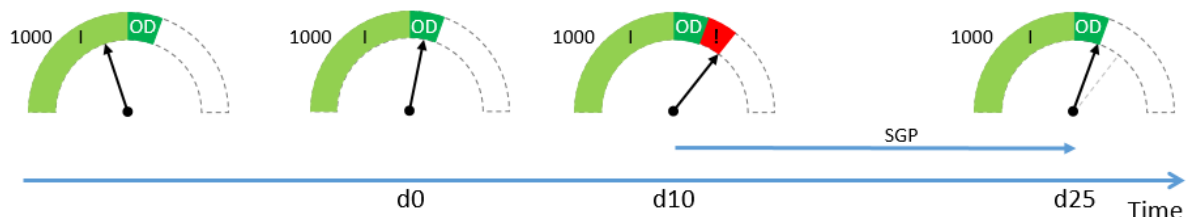
猶予期間について詳しくは、「[猶予期間](#)」を参照してください。

Citrix Virtual Apps and Desktops の Director は猶予期間の状態を表示します。詳しくは、「[Director のダッシュボードのパネル](#)」を参照してください。

追加猶予期間は、ライセンスの権利ではなく便宜上提供されています。Citrix は、本製品の新規リリースでこのような機能を削除する権利を留保します。

#### 超過使用保護および追加猶予期間の例

**例 1:** Citrix Virtual Apps and Desktops のユーザー/デバイス、ユーザー、またはデバイスライセンス。超過使用保護機能および追加猶予期間機能を使用



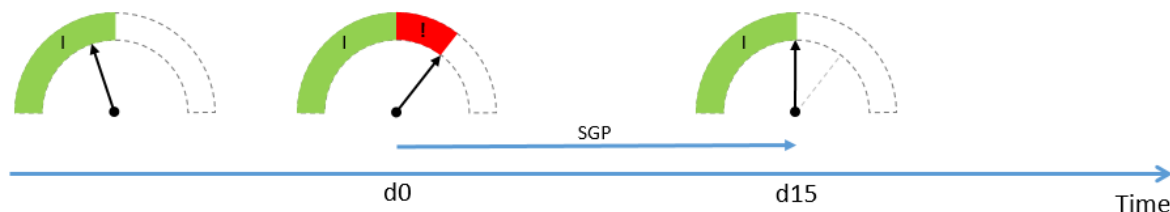
最初に、Citrix (I) から 1000 ライセンスを購入してインストールします。これには、10% の超過使用保護ライセンスの割り当て (OD) が含まれます。ライセンスが割り当てられると、合計で 1100 ライセンスになります。この時点で、接続するユーザーの数に対して十分な数です。

**d0** 後日 (0 日目)、1050 ライセンスを使用しています。1001 番目のライセンスが使用されると、超過使用保護機能がアクティブになります。ユーザーは中断なくサービスに引き続き接続できます。すぐにライセンスのニーズの評価を開始します。OD を超えるまで待たないでください。最初に購入した 1000 に加えて、さらにライセンスを購入することを検討してください。

**d10** 10 日後 (10 日目)。より多くのユーザーが接続し、1150 ライセンスが使用されています。これは、使用可能な合計ライセンス、1100 を超えています。1101 番目のライセンスが使用されると、15 日間の追加猶予期間 (SPG) が開始され、追加ライセンスの必要性を評価する時間が与えられます。ユーザーは中断なくサービスに引き続き接続できます。

**d25 d10** の 15 日後 (25 日目)。追加のライセンスを購入してインストールしないことを選択したため、追加猶予期間が終了します。1100 を超えるライセンスをチェックアウトする必要がある場合、ユーザーは新しい接続を確立できません。さらにライセンスを購入してインストールするまで、追加猶予期間を再度有効にすることはできません。

例 2: Citrix Virtual Apps and Desktops の同時使用ライセンス。追加猶予期間機能を使用



最初に 1000 の同時使用ライセンスを購入してインストールします (I)。同時使用ライセンスでは超過使用保護の割り当てはありません。この時点で、接続するユーザーの数に対して十分な数です。

**d0** 後日 (0 日目)、1050 ライセンスを使用しています。1001 番目のライセンスが使用されると、15 日間の追加猶予期間 (SPG) が開始され、追加ライセンスの必要性を評価する時間が与えられます。ユーザーは中断なくサービスに引き続き接続できます。すぐにライセンスのニーズの評価を開始します。追加猶予期間が終了するまで待たないでください。最初に購入した 1000 に加えて、さらにライセンスを購入することを検討してください。

**d15** 15 日後 (15 日目)。追加のライセンスを購入してインストールしないことを選択したため、追加猶予期間が終了します。1000 を超えるライセンスをチェックアウトする必要がある場合、ユーザーは新しい接続を確立できません。さらにライセンスを購入してインストールするまで、追加猶予期間を再度有効にすることはできません。

超過使用保護および追加猶予期間の可用性

次の表に、各製品のライセンスにおける超過使用保護と追加猶予期間のサポートの有無を示します。詳しくは、「製品とライセンスモデル」を参照してください。

オンプレミス製品	ライセンスの種類	10% の超過使用保護	追加猶予期間 (15 日間)
Citrix Virtual Apps and Desktops	ユーザー/デバイス、ユーザー、デバイス	はい	はい
Citrix Virtual Apps and Desktops	同時使用	いいえ	はい
XenMobile Server	ユーザー、デバイス	はい	いいえ

年間および期間ベースの製品版ライセンスの Citrix オンプレミスサブスクリプション

オンプレミスサブスクリプションライセンスにより、顧客は自社インフラストラクチャ内で Citrix 環境を一定期間ホストできます。オンプレミスサブスクリプションライセンスの期限は 1~5 年で、特定の日付で有効期限が切れます。ライセンスは、有効期限が切れると機能を停止します。製品では、永続的ライセンスで利用可能なすべての最新機能が提供されます。

購入内容には、オンプレミスサブスクリプションライセンスと Customer Success Services Select サービスの両方が含まれます。Customer Success Services Select サービスは、サブスクリプションの全期間で利用できません。

注:

無期限（永続的）ライセンスとサブスクリプションライセンスの混在がサポートされています。顧客が同じ製品、エディション、およびライセンスモデルを使用している場合、既存の環境を拡張するために混在させることができます。永続的ライセンスまたはサブスクリプションライセンスのどちらを使用しても、パフォーマンスの違いはありません。唯一の違いは、有効期限の有無です。

### ライセンスの有効期限前

既存のサブスクリプションの有効期限が近くなると、Citrix から一定の間隔で通知が送信されます。これらの通知は、サブスクリプションを延長してサービスの中断を回避するよう促します。

すべてのオンプレミスサブスクリプションの、年間およびその他の期間ベースの製品版ライセンスには、有効期限にあらかじめ追加の 30 日が含まれています。これらの追加の 30 日は、Citrix Licensing Manager に表示される有効期限に含まれています。この 30 日の間、元のサブスクリプションライセンスが期限切れになる前に、サブスクリプションライセンスの再購入、割り当て、およびインストールを行うことができます。更新しない場合、製品は機能が制限されたライセンスが適用されていない状態になります。

例：2020 年 10 月 21 日に 1 年間のオンプレミスサブスクリプションライセンスを購入した場合、ライセンスの有効期限は 2021 年 11 月 22 日の 12 時 1 分です。

Citrix Licensing Manager に表示されている日付に従って、オンプレミスサブスクリプションの有効期限が切れると、新しい接続は許可されません。利用中のユーザーは影響を受けませんが、ユーザーがログオフまたは切断した場合、再アクセスは許可されません。

### オンプレミスサブスクリプションライセンスの延長

オンプレミスライセンスサブスクリプションを延長するには、<https://www.citrix.com/buy/>にアクセスしてください。

注:

開始日が将来に設定されているライセンスは、ライセンスファイルに記載されている実際の開始日までライセンスサーバーインベントリに表示されません。

### よくある質問

- オンプレミスサブスクリプションライセンスは、同じサーバー上に既存の永続的ライセンスがあっても機能しますか？

はい、既存のライセンスサーバー運用のガイドラインの範囲内です。顧客は、新しい期間ライセンスファイルをライセンスサーバーに追加する必要があります。

製品バージョン (Virtual Apps/ Virtual Apps and Desktops)、エディション (Standard、Advanced、Premium)、および種類 (ユーザー/デバイス、同時使用) が同じである場合、期間ライセンスまたはサブスクリプションライセンスの存在によって、オンプレミスサブスクリプションライセンスを既存の環境に配信するときに問題が発生することはありません。例:

- Virtual Apps and Desktops Premium の同時使用永続的ライセンスと、Virtual Apps and Desktops Premium の同時使用期間ライセンスを組み合わせても問題は発生しません。
  - Virtual Apps and Desktops Premium の同時使用永続的ライセンスと Virtual Apps and Desktops Premium のユーザー/デバイス期間ライセンスを組み合わせる場合。このライセンスの組み合わせは標準的ではないため、[考慮事項と追加の構成](#)が必要です。この組み合わせは、ライセンスの利用には最適でない場合があります。
  - Virtual Apps and Desktops Premium の同時使用永続的ライセンスと Virtual Apps and Desktops Advanced のユーザー/デバイス期間ライセンスを組み合わせる場合。このライセンスの組み合わせは標準的ではないため、お勧めできません。購入したすべてのライセンスを使用するには、複数のサイトまたはファームが必要です。
- **XenApp** ファーム、**Citrix Virtual Apps**、**Citrix Virtual Apps and Desktops** にアクセスできなくなりますか?

はい。ライセンスの有効期限が切れると、新しいアクセスは許可されません。既に利用中の場合は、ユーザーが切断、ログオフ、またはリセットするまで影響を受けません。

- **15 日間の追加猶予期間 (SGP)** は存在しますか? それとも、**SGP** は永続的ライセンスにのみ適用されますか?
- いいえ。ライセンスの有効期限には追加猶予期間はありません。顧客が再購入したライセンスをインストールする場合は、有効期限に 1 か月が追加されます。

## Citrix ライセンスのシステム要件

January 9, 2024

### ライセンスサーバーの要件

Citrix のライセンスを使用するために必要なハードウェアは、各オペレーティングシステムでのハードウェア要件と同じです。追加のハードウェアは必要ありません。

注:

- Citrix ライセンスサーバーでのサードパーティのベンダーデーモン、またはサードパーティのライセンスサーバーでの Citrix ベンダーデーモンの実行はサポートされていません。
- ライセンスサーバーは、マルチホームサーバー（複数のネットワークカードで異なるネットワークに接続するサーバー）上で使用することはできません。
- Citrix Licensing Manager を使用する場合も、Citrix Licensing Manager が動作するライセンスサーバー上にのみライセンスをインストールします。
- ライセンスサーバー間で通信することはありません。

オペレーティングシステム:

ライセンスサーバーは、以下の Windows オペレーティングシステムが動作するサーバーにインストールできます。Microsoft の最新の Service Pack と更新プログラムをインストールすることをお勧めします。

- Windows Server 2022 ファミリ
- Windows Server 2019 ファミリ
- Windows Server 2016 ファミリ
- Windows Server 2012 R2 ファミリ

サーバーのコア操作のインストールはサポートされていません。

ディスクスペースの要件:

- ライセンスコンポーネントに 161MB
- ユーザー/デバイスライセンスに 2GB
- Citrix Licensing Manager で構成された履歴データのサイズによっては、より多くのディスクスペースが必要になることがあります。

**Microsoft .NET Framework** の最小要件:

- Microsoft .NET Framework 4.7.2

クラスタのプラットフォーム:

- Windows Server 2022 ファミリ
- Windows Server 2019 ファミリ
- Windows Server 2016 ファミリ
- Windows Server 2012 R2 ファミリ

ブラウザ:

以下のブラウザはテスト済みです。そのほかのブラウザも機能する可能性はありますが、すべての機能を実行できない可能性があります。



- Microsoft Edge
- Mozilla Firefox
- Google Chrome
- Safari

#### 次の操作

- [ライセンスサーバーの開始、インストール、構成](#)

## ライセンスサーバーの開始、インストール、構成

January 9, 2024

#### 重要:

- Citrix ライセンスサーバーでのサードパーティのベンダーデーモン、またはサードパーティのライセンスサーバーでの Citrix ベンダーデーモンの実行はサポートされていません。
- ライセンスサーバーは最新バージョンのものを実行することを推奨します。Citrix ライセンスサーバーの各コンポーネントに対する Hotfix は提供されません。また、新しい製品と古いバージョンのライセンスサーバーを一緒にすることはサポートされていません。通常、最新のライセンスサーバーには、以前のバージョンで確認された問題に対する修正が含まれています。新しいバージョンの Citrix 製品へのアップグレードまたは新規インストールを行う場合は、ライセンスサーバーもアップグレードしてください。新しいライセンスサーバーでは後方互換性が維持されているため、以前のバージョンの製品やライセンスファイルをサポートします。新しい製品の中には、最新のライセンスサーバーを使用しないと正しく動作しないものがあります。最新バージョンは[Citrix のダウンロードサイト](#)からダウンロードできます。  
  
このリリースで追加された機能については、「[新機能](#)」を参照してください。
- UNC パス (\\\\server\share) からのライセンスサーバーのインストールはサポートされていません。ライセンスサーバーは、ローカルコピーからインストールしてください。

### 手順 1 前提条件の確認

ライセンスサーバーをインストールして構成する前に、[システム要件](#)を確認してください。

### 手順 2 製品のライセンス取得

製品にライセンスを適用するには、次の手順に従います:

1. 最新のライセンスサーバーを入手する。
2. 必要なシステム環境を確認する。
3. ライセンスサーバーをインストールする。
4. **My Account** からライセンスファイルを取得する。ライセンスコードがある場合は、Citrix Licensing Manager を使用します。
5. Citrix 製品をインストールする。Citrix 製品がインストール済みの場合は、その製品を再起動すると新しいライセンスが適用されます。
6. 製品のインストール中に構成しなかった場合は、製品側でライセンスサーバーの接続設定を行います。この構成には、製品エディションの選択も含まれます。詳しくは、「[ライセンスサーバーの要素](#)」および「[サービス](#)」を参照してください。

製品側で行うエディションの設定は、購入したライセンスと同じものである必要があります。たとえば、Premium Edition のライセンスを購入した場合は、製品側でも Advanced Edition ではなく Premium Edition を指定する必要があります。

ライセンスサーバーのコンポーネントおよびプロセスについての概要は、「[製品の技術概要](#)」と「[ライセンスサーバーの要素](#)」を参照してください。

**重要:**

ライセンスサーバーはドメインメンバーシップを必要としません。ライセンスサーバーをワークグループにインストールして、Citrix 製品のすべてのライセンス機能を引き続き実行できます。Active Directory のユーザーまたはグループで Citrix Licensing Manager ユーザーを管理するには、ユーザーがドメインの一部である必要があります。それ以外の場合は、ローカルの Windows ユーザーとグループを使用します。

### 手順 3 セキュリティとファイアウォールの確認

#### セキュリティに関する注意事項

新しい Citrix 製品をインストールしたりアップグレードしたりするときは、ライセンスサーバーを最新のバージョンにアップグレードすることをお勧めします。新しいライセンスサーバーでは後方互換性が維持されているため、以前のバージョンの製品やライセンスファイルをサポートします。新しくリリースされるライセンスサーバーには、より強固なセキュリティ機能が取り入れられていることがあります。また、環境を構成する場合、以下のセキュリティに関する注意事項について検討してください。

- 信頼されるネットワーク上の認証された管理者だけが Citrix Licensing Manager のポートにアクセスできるようにライセンスサーバー環境を構成します。これを行うには、ネットワークを適切に構成して、ホストベースのファイアウォールを使用します。
- Citrix Licensing Manager を使用するときは、信頼されていない Web サイトを表示したり、信頼されていない URL をクリックしたりしないようにします。

**重要:**

Citrix ライセンスサーバーは、認証に Microsoft Active Directory を使用します。Citrix ライセンスサーバーをセキュアに展開するために、Microsoft Active Directory の推奨セキュリティ対策（アカウントのロックアウトやパスワード管理など）を実装することを Citrix では強くお勧めします。詳しくは、[アカウントのロックアウトのしきい値と複雑さの要件を満たす必要があるパスワード](#)に関する記事を参照してください。

#### ファイアウォールについての考慮事項

ライセンスをインストールする前に、ライセンスサーバーと製品サーバーの間にファイアウォールを設定する必要があるかどうかを決定します。ライセンスサーバーを設置する場所は、ファイアウォールの設定を考慮して決定します。

ファイアウォールが構成された環境では、管理者が適切な規則を作成する必要があります。

製品とライセンスサーバーの間にファイアウォールが設置されている場合は、ポート番号を設定する必要があります。この構成には、次の作業が伴います：

- 変更すべきポートを特定する。ポート番号は、ライセンスサーバーのインストール時、およびインストール後に変更できます。
- ファイアウォールのポートを開放する。トラフィックが遮断されないように、適切なポートをファイアウォールで開放します。最新リリースでは、組み込みのファイアウォールを自動的に設定します。
- 製品側の設定を変更する。Citrix 製品は、Citrix Licensing Manager で構成されているものと同じポート番号を使用する必要があります。製品側で参照されているポート番号を変更しないと、ライセンスサーバーと通信できなくなります。製品側の設定は、インストール中またはインストール後に変更できます。これらの設定について詳しくは、各製品のドキュメントを参照してください。

登録済みの URL とポートがファイアウォールを通過できるようにする方法と、開放される URL の一覧については、「[Citrix Cloud での登録と登録削除](#)」を参照してください。

#### 手順 4 ライセンスコンポーネント、サーバー、および証明書のインストール

**注:**

インストールパスに英語以外の文字が含まれる場合、インストールに失敗する可能性があります。デフォルトのインストールパスを受け入れるか、ASCII 文字のみを使用してください。

ライセンスコンポーネントは、専用サーバーにインストールしたり、ほかのアプリケーションが動作する兼用サーバーにインストールしたりできます。また、Web サーバーやアプリケーションサーバーも使用できます。ただし、この記事後半に記載された場所では少ないリソースを消費します。サーバー数が 50 台未満またはライセンス数が 10,000 未満である場合は、ほかの製品と同じコンピューター上にライセンスサーバーをインストールすることもできます。ライセンスサーバーをほかのコンピューター上に移動すべきかどうかは、`lmgrd.exe`と`CITRIX.exe`の CPU およびメモリの負荷を監視して決定します。

**重要:**

Active Directory 展開以外で、将来のすべてのインストールに `CitrixLicensing.exe` ファイルを使用します。この場合、`.msi` を使用します。`.exe` ファイルおよび `.msi` ファイルの両方がインストールに存在することを確認します。

## グラフィカルインターフェイスを使ったライセンスサーバーと管理コンソールのインストール

1. [Citrix のダウンロード](#) ページからライセンスサーバーをダウンロードして、ライセンスサーバーのインストーラー (`CitrixLicensing.exe`) を管理者権限で実行します。
2. GUI のインストーラーに従って、インストール先フォルダーを受け入れます。  
ライセンスコンポーネントは 32 ビットコンピューターでは `C:\Program Files\Citrix\Licensing` に、64 ビットコンピューターでは `C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing` にインストールされます。
3. [構成] ページで、ライセンスコンポーネントで使用されるデフォルトポート番号を受け入れるか、変更します (必要な場合)。Windows ファイアウォールの例外をインストーラーで自動構成するかどうかを選択します。ポート番号は、インストール後に変更することもできます。ライセンスサーバーを構成せずにインストールを完了した場合は、`CitrixLicensing.exe` インストーラーを再度実行してください。または、ライセンスサーバー設定ツールを使用して適切に構成することもできます。  
構成ツールを次の場所から開きます: `C:\Program Files\Citrix\Licensing\LS\resource\Licensing.Configuration.Tool.exe`。
  - ライセンスサーバーのポート: 27000
  - ベンダーデーモンのポート: 7279
  - Web Services for Licensing のポート: 8083
4. ライセンスサーバーは、ユーザーのログオン方法に基づいて、Citrix Licensing Manager のデフォルトの管理者を追加します。ドメイン内に存在する場合、ライセンスサーバーは、インストールするユーザー (ドメイン\ユーザー) をライセンスサーバーまたは Citrix Licensing Manager のデフォルトの管理者として追加します。ローカルの Windows ユーザーアカウントでインストールする場合は、そのアカウント (`<computer>\<user>`) がデフォルトの管理者になります。また、任意の管理者用の管理者アカウント `BUILTIN\administrator` グループがデフォルトで追加されます。ライセンス管理を特定の管理者に制限する場合は、この組み込みの管理者アカウントを削除します。
5. Citrix Licensing Manager を起動して、Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラムに参加するかどうかを選択します。

## Windows コマンドラインを使ってライセンスをインストールする

**重要:**

Citrix Service Provider プログラムには、カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) および Call Home が必要です。ユーザーが Citrix Service Provider の場合は、CEIP または Call Home を無効にする

ことはできません。

ライセンスのインストールに `CitrixLicensing.exe` コマンドを使用する場合は、「Property=value」形式でプロパティを設定します。

コマンドプロンプトは、管理者権限で実行する必要があります。コマンドプロンプトを管理者権限で実行するには、[スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

たとえば、次のコマンドを実行するとライセンスが無人セットアップでインストールされます (サイレントモード)。設定するプロパティをコマンドラインに追加して実行します。

実際のコマンドは、改行せずに 1 行で入力する必要があります (ページ幅の都合によりここでは改行されています)。

```
CitrixLicensing.exe /quiet /l install.log INSTALLDIR=installdirectory  
WSLPORT=port_number LSPORT=port_number VDPORT=*port_number CEILOPTIN  
=value
```

場所:

- **/quiet** では、無人セットアップであることを指定します。
- **/l** では、ログファイルの生成場所を指定します
- **INSTALLDIR** では、ライセンスサーバーの実行ファイルのインストール先フォルダーを指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトは `c:\program files\citrix\licensing` または `c:\program files (x86)\citrix\licensing` です。
- **WSLPORT** では、Web Services for Licensing で使用されるポート番号を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは 8083 です。
- **LSPORT** では、ライセンスサーバーで使用されるポート番号を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは 27000 です。
- **VDPORT** では、ベンダーデーモンで使用されるポート番号を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは 7279 です。
- **CEILOPTIN** では、Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) または Call Home に参加するかしないか、する場合はその方法を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトは **[ANON]** です。
  - **DIAG** - Call Home
  - **ANON** - CEIP
  - **NONE**

CEIP と Call Home の選択は、Citrix Licensing Manager で変更できます。

コマンドラインによる **Active Directory** 環境へのライセンスのインストール

ライセンスコンポーネントのインストールに `msiexec` コマンドを使用する場合は、「<Property>=<value>」形式でプロパティを設定します。MSI ファイルでは、クラスター環境へのインストールがサポートされません。

## 注:

コマンドプロンプトは、管理者権限で実行する必要があります。コマンドプロンプトを管理者権限で実行するには、[スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

次のコマンドを実行すると、ライセンスサーバーがサイレントモードでインストールされ、そのイベントがログファイルに記録されます。設定するプロパティは、スイッチの後に追加します。

実際のコマンドは、改行せずに 1 行で入力する必要があります（ページ幅の都合によりここでは改行されています）。

```
msiexec /I ctx_licensing.msi /l*v install.log /qn INSTALLDIR=installdirectory  
LICSERVERPORT=port_number VENDORDAEMONPORT=port_number MNGMTCONSOLEWEBPORT  
=port_number WEBSERVICESLICENSINGPORT=port_number CEILOPTIN=value
```

## 場所:

- `/l*v` オプションでは、セットアップ時のログファイルの保存先フォルダーおよびファイル名を指定します。これは、オプションのパラメーターです。
- `/qn` オプションでは、無人セットアップであることを指定します。
- `INSTALLDIR` では、ライセンスサーバーの実行ファイルのインストール先フォルダーを指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトは `c:\program files\citrix\licensing` または `c:\program files (x86)\citrix\licensing` です。
- `LICSERVERPORT` では、ライセンスサーバーで使用されるポート番号を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは 27000 です。
- `VENDORDAEMONPORT` では、ベンダーデーモンで使用されるポート番号を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは 7279 です。
- `WEBSERVICESLICENSINGPORT` では、Citrix Licensing Manager で使用されるポート番号を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは 8083 です。
- `CEILOPTIN` では、Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) または Call Home に参加するかしないか、する場合はその方法を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトは **[ANON]** です。
  - DIAG - Call Home
  - ANON - CEIP
  - NONE

CEIP と Call Home の選択は、Citrix Licensing Manager で変更できます。

## コマンドラインを使用したライセンス管理サービスの無効化または有効化

ライセンス管理サービスは、ライセンスサーバーで自動的に動作し、ライセンスを管理およびサポートできます。ライセンス環境の管理には、ライセンス管理サービスの使用をお勧めします。この機能は、インストール後いつでも無効にできます。詳しくは、「[製品の技術概要](#)」の「**Citrix** ライセンス管理サービス」を参照してください。

構文:

```
ctx_license_management_service.exe (-enable | -disable | -query)
```

場所:

- **-enable** は、ライセンス管理を可能にします。ライセンスサーバーのインストールから 7 日後に、Citrix への初回アップロードが行われます。
- **-disable** は、ライセンス管理を無効にします。ライセンス環境の管理には、ライセンス管理サービスの使用をお勧めします。
- **-query** は、現在の構成を表示します。

## Citrix Licensing Manager および Web Services for Licensing により使用される証明書の手動インストール

注:

この手順は、インストール中に生成される自己署名証明書を使用しない場合に使用します。

証明書は、以下の 3 つの手順を行ってインストールします。

1. 証明書および秘密キーを含んでいる PFX ファイルを入手します。.pfx ファイルを取得するには、2 つの方法のうちのどちらかを使用できます。
2. PFX ファイルから証明書および秘密キーを抽出します。
3. 証明書および秘密キーをライセンスサーバー上にインストールします。

### ドメイン証明書による PFX ファイルの入手 - 方法 1

ドメインのサーバーにログオンして **MMC** を開き、次の手順に従います:

1. エクスポートした PFX ファイルを格納するための **c:\ls\_cert** ディレクトリを作成します。
2. [ファイル] > [スナップインの追加と削除] > [証明書] > [コンピューターアカウント] > [ローカルコンピューター] の順に選択して、証明書スナップインを追加します。
3. 左ペインの [証明書] の下の [個人] を右クリックし、[すべてのタスク] > [新しい証明書の要求] の順に選択して [次へ] をクリックします。
4. 証明書の登録ポリシーウィザードで [Active Directory 登録ポリシー] を選択して [次へ] をクリックします。[コンピューター] の横のチェックボックスをオンにして、右の [詳細] を選択します。
5. [プロパティ] を選択して、[全般] タブにフレンドリ名と説明を入力します。

6. [サブジェクト] タブの [サブジェクト名] で、[種類] メニューから [共通名] を選択します。テキストボックスにフレンドリ名を入力して、[追加] を選択してから、[適用] をクリックします。
7. [拡張機能] タブでメニューから [キー使用法] を選択し、[選択されたオプション] ボックスに [デジタル署名] および [キーの暗号化] を追加します。
8. [拡張キー使用法] のメニューを開き、[選択されたオプション] ボックスに [サーバー認証] および [クライアント認証] を追加します。
9. [秘密キー] タブを選択し、[キーのオプション] の [キーのサイズ] が 2048 であることを確認します。[エクスポート可能なキー] チェックボックスをオンにして、[適用] をクリックします。
10. [証明機関] タブを選択し、証明機関のチェックボックスがオンになっていることを確認して、[OK] > [登録] > [完了] の順にクリックします。
11. [証明書] コンソールで、[個人] > [証明書] の順に選択して、構築した証明書をクリックします。[すべてのタスク] > [エクスポート] > [次へ] を選択して、[はい、秘密キーをエクスポートします] チェックボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。
12. [Personal Information Exchange -PKCS #12(.PFX)] の下の [証明のパスにある証明書を可能であればすべて含む] チェックボックスをオンにして [次へ] をクリックし、パスワードを作成して [次へ] をクリックします。
13. [参照] をクリックして `C:\ls_cert` に移動して「`server.PFX`」と入力して、ウィザードの指示に従って完了します。

## 証明機関 (CA) への要求による PFX ファイルの入手 - 方法 2

以下の手順は、使用する証明機関により異なる場合があります。

1. ライセンスサーバーにログオンして MMC を開き、次の手順に従います：
  - a) [ファイル] > [スナップインの追加と削除] > [証明書] > [コンピューターアカウント] > [ローカルコンピューター] の順に選択して、証明書スナップインを追加します。
  - b) 左ペインの [証明書] の下の [個人] を右クリックし、[すべてのタスク] > [詳細設定操作] > [カスタム要求の作成] の順に選択して [次へ] をクリックします。
  - c) 証明書の登録ポリシーウィザードの [カスタム要求] 配下で [登録ポリシーなしで続行する] を選択して [次へ] をクリックします。
  - d) [カスタム要求] ページでメニューから [(テンプレートなし) CNG キー] を選択し、要求の形式として [PKCS #10] を選択して [次へ] をクリックします。
  - e) [証明書情報] ページで [詳細] のドロップダウンメニューを開き、[プロパティ] をクリックします。
  - f) [全般] タブにフレンドリ名と説明を入力します。
  - g) [サブジェクト] タブの [サブジェクト名] の下で [共通名] を選択して、ボックスに値を入力します。
  - h) [拡張機能] タブでメニューから [キー使用法] を選択し、[デジタル署名] および [キーの暗号化] を追加します。
  - i) [拡張機能] タブでメニューから [拡張キー使用法] を選択し、[サーバー認証] および [クライアント認証] を追加します。



- j) [秘密キー] タブの [Cryptographic Service Provider] で [RSA, Microsoft Software Key Storage Provider] (デフォルト) を選択します。[キー] のオプションボックスの一覧で [キーのサイズ] が 2048 になっていることを確認したら、[秘密キーをエクスポート可能にする] チェックボックスをオンにして、[適用] をクリックします。
  - k) 要求を **REQ** ファイル (.req) として保存して、それを証明機関 (CA) に送信し、**CER** ファイルを保存します。
2. **MMC** の [証明書] 配下で [個人] を右クリックして、[すべてのタスク] > [インポート] の順に選択します。インポートウィザードで CER ファイルを選択します。
  3. エクスポートした PFX ファイルを格納するための **c:\ls\_cert** ディレクトリを作成します。
  4. [証明書] コンソールで、[個人] > [証明書] の順に選択して、インポートした証明書をクリックします。[すべてのタスク] > [エクスポート] > [次へ] を選択して、[はい、秘密キーをエクスポートします] をオンにして、[次へ] をクリックします。
  5. [Personal Information Exchange -PKCS #12(.PFX)] の下の [証明のパスにある証明書を可能であればすべて含む] チェックボックスをオンにして [次へ] をクリックし、パスワードを作成して [次へ] をクリックします。
  6. [参照] をクリックして **C:\ls\_cert** に移動して 「server.PFX」と入力して、ウィザードの指示に従って完了します。

#### 証明書および秘密キーの抽出

この手順を行うには、OpenSSL など、PFX ファイルから証明書や秘密キーを抽出するためのツールが必要です。ライセンスサーバーに付属のバージョンの OpenSSL では、証明書や秘密キーを抽出できません。OpenSSL のダウンロードについては、[www.openssl.org](http://www.openssl.org)を参照してください。Citrix ではダウンロードした OpenSSL をほかのワークステーション上にインストールして以下の手順を行うことをお勧めします：

1. `<openssl directory>\bin`フォルダーに移動します。
  2. `openssl pkcs12 -in C:\ls_cert\server.pfx -out server.crt -nokeys`を実行します
- 注：  
ライセンスサーバーで使用できる証明書の形式は、CRT のみです。
3. エクスポート処理で作成したパスワードを入力します。
  4. `openssl pkcs12 -in C:\ls_cert\server.pfx -out server.key -nocerts -nodes`を実行します
  5. エクスポート処理で作成したパスワードを入力します。

ライセンスサーバーへの **.crt** ファイルと **.key** ファイルのインストール

### Windows - Web Services for Licensing:

1. Citrix Web Services for Licensing サービスを停止します。
2. 上記の手順で作成した server.crt と server.key を `c:\program files (x86)\citrix\licensing\WebServicesForLicensing\Apache\conf\` にコピーします。
3. Citrix Web Services for Licensing サービスを開始します。

### Windows - ライセンス管理コンソール:

注:

- ライセンス管理コンソールは、Windows License Server v11.16.6.0 ビルド 31000 以降から削除されました。詳しくは、「[新機能](#)」を参照してください。
- ライセンスサーバー VPX は、引き続きライセンス管理コンソールを使用します。

1. Citrix ライセンスサービスを停止します。
2. 上記の手順で作成した server.crt と server.key を `c:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\LS\conf` にコピーします。
3. Citrix ライセンスサービスを開始します。

### 手順 5 プロキシサーバーの構成

Citrix Licensing Manager、CEIP、および Call Home でプロキシを使用できます。プロキシサーバーを構成する場合、ライセンスをダウンロードして Call Home データをプロキシサーバーを介して送信する必要があります。

重要:

外部向けの Web 通信が必要な Citrix ライセンスコンポーネントは、Windows 自動プロキシ検出を使用してネットワークプロキシ設定を継承できます。認証されたプロキシはサポートされていません。Windows 自動プロキシ検出について詳しくは、「[WinHTTP AutoProxy Functions](#)」を参照してください。

### プロキシサーバーの手動構成

1. `<Citrix Licensing>\WebServicesForLicensing` ディレクトリの SimpleLicenseServiceConfig.xml ファイルを編集します。
2. xml の行を次の形式でファイルに追加します: `<Proxy>proxy server name:port number</Proxy>`

重要:

.xml タグは大文字と小文字を区別します。

```
1 <Configurations>
2 <EncoreConfiguration>
3 <SamplingPeriod>15</SamplingPeriod>
4 <RetentionTime>180</RetentionTime>
5 <Enabled>true</Enabled>
6 </EncoreConfiguration>
7 <Proxy>10.211.55.5:808</Proxy>
8 </Configurations>
9 <!--NeedCopy-->
```

次の手順

- [Citrix Licensing Manager](#)
- [製品固有のライセンスガイド](#)

ライセンスファイル入手する前に

January 7, 2022

ライセンスコンポーネントをインストールしたら、ライセンスファイル入手します。

ライセンスファイルは、以下のいずれかの方法で入手できます：

- Citrix Virtual Apps and Desktops の Studio。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[ライセンス](#)」を参照してください。
- [Citrix Licensing Manager](#)。
- [citrix.com](#) の MyAccount。詳しくは、「[Citrix.com でのライセンスの管理](#)」を参照してください。

Citrix Web サイトにアクセスして製品ライセンス入手する前に、次の情報を確認してください：

- **My Account** のユーザー ID とパスワード。
- ライセンスアクセスコード。このコードは、[citrix.com](#) の **My Account** または Citrix から受信するメールから入手できます。

注：ライセンスアクセスコードまたは購入済みのライセンスが見つからない場合は、[Citrix カスタマーサービス](#)に連絡してください。

- ライセンスコンポーネントをインストールしたライセンスサーバーのホスト名。ライセンスサーバーのホスト名では、大文字と小文字が区別されます。システム上に表示されるホスト名を正確にコピーしてください。

ライセンスサーバーのホスト名、イーサネットアドレス、および IPv4 アドレスを確認するには、Citrix Licensing Manager 画面の上部バーにある下向き矢印を選択します。また、ライセンスサーバー上のコマンドプロンプトで `hostname` コマンドを実行してホスト名を確認することもできます。

- ライセンスファイルに含めるライセンス数。使用できるライセンスのすべてを一度にダウンロードする必要はありません。たとえば、100 ライセンスを購入した場合は、その時点では 50 ライセンスのみを割り当ててダウンロードすることもできます。後で、残りを別のライセンスファイルに割り当てることができます。割り当てられたライセンスの数に基づいて、複数のライセンスファイルを持つことができます。

## カスタマーサクセスサービス

January 7, 2022

新しい Citrix 製品を購入すると、1 年間有効なカスタマーサクセスサービスのメンバーシップが付いてきます。このメンバーシップにより、すべての製品アップデートとその他の特典を利用できます。これには、メンバーシップの契約期間中にリリースされるすべての更新が含まれます。

1 年間の契約期間の終了後は、Citrix に更新料を支払うと、カスタマーサクセスサービスのメンバーシップを更新できます。Citrix Licensing Manager を使用して更新ライセンスをインストールします。citrix.com にアクセスし、更新ライセンスを含むライセンスファイルをダウンロードできます。

### 重要:

カスタマーサクセスサービスのメンバーシップとそのライセンスは、製品を実行するためのライセンスとは異なります。カスタマーサクセスサービスのメンバーシップを更新しない場合でも、Citrix 製品が機能を停止することはありません。ただし、有効期限切れ以降のソフトウェアリリースを使用することはできません。

## カスタマーサクセスサービスの更新ライセンス

カスタマーサクセスサービス更新ライセンスファイルには、カスタマーサクセスサービス契約を 1 年間延長するライセンス（更新ライセンス）が含まれています。このライセンスは、カスタマーサクセスサービスの契約期間中にリリースされる、Hotfix を除くすべての製品リリースを実行するために必要です。

カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスをすぐ追加しなくても、Citrix 製品が機能を停止することはありません。ただし、新しい契約期間に入ってからリリースされたバージョンについては、更新ライセンスをライセンスサーバーに追加しなければ実行できません。

カスタマーサクセスサービスメンバーシップの契約期間終了後に Citrix がリリースしたバージョンを使用するには、カスタマーサクセスサービスメンバーシップを更新します。新しいバージョンの製品を使用する前に、更新ライセンスを取得してください。

### 例:

任意の Citrix Virtual Apps and Desktops リリースにアップグレードする前に、現在のカスタマーサクセスサービスの日付が有効で期限切れではないことを確認します。Citrix Virtual Apps and Desktops リリースは、年月形式 (YYMM) を使用します。ライセンスの日付が製品のリリース日と同じか、それより新しいことを確認してください。リリース日の一覧については、「[Citrix 製品カスタマーサクセスサービスの有効期限](#)」を参照してください。

カスタマーサクセスサービス契約を更新すると、Citrix Licensing Manager の更新ライセンス機能を使用できます。詳しくは、「[ライセンスの更新](#)」を参照してください。

注:

ライセンスサーバーにライセンスファイルを追加した後で、失効したカスタマーサクセスサービスライセンスを削除できます。ただし、これは必須ではありません。ただし、アップグレードの記録として、失効したライセンスをそのまま保持しておくこともできます。

**Citrix Licensing Manager**を使用してカスタマーサクセスサービスの日付を確認するか、テキストエディターでライセンスファイルを表示します。

### **Citrix Licensing Manager** でカスタマーサクセスサービス更新ライセンスを確認してインストールする

有効にすると、Citrix Licensing Manager は毎週 Citrix.com Web サービスにアクセスし、利用可能なカスタマーサクセスサービス更新ライセンスがあるかを確認します。

構成に基づいて、Citrix Licensing Manager はカスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動で確認、または手動で確認できます。ライセンスが見つかると通知またはインストールします。

1. Citrix Licensing Manager で、UI の右上にある [設定] をクリックします。
2. 通知方法と、更新ライセンスを自動的にインストールするかどうかの設定を選択します。

カスタマーサクセスサービス更新ライセンスの自動チェックが失敗する場合、ファイアウォールの設定を確認するか、プロキシを構成してください。この機能を動作させるには、ライセンスサーバーが<https://citrixservices.citrix.com>にアクセスできる必要があります。詳しくは、「[使用の開始](#)」の記事にある「プロキシサーバーを手動で構成する」を参照してください。

注:

このページでは、ポート、追加猶予期間、言語を構成することもできます。

- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合通知します: Citrix Licensing Manager は通知を表示します。リンクをクリックして、利用可能な更新をダウンロードし、インストールします。ライセンスサーバーで Studio および Director の管理が構成されている場合は、同じ通知が Studio および Director でも表示されます。
- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合インストールします: Citrix Licensing Manager が毎週更新ライセンスをチェックし、使用可能な場合、自動的にインストールします。更新がインストールされたという通知は、数日間表示されます。
- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを手動でチェックします: [ライセンスの更新] タブで、[使用可能な更新のチェック] を選択します。[ライセンスの更新] タブでは、最近 30 日間にインストールされたライセンスの一覧をいつでも表示できます。

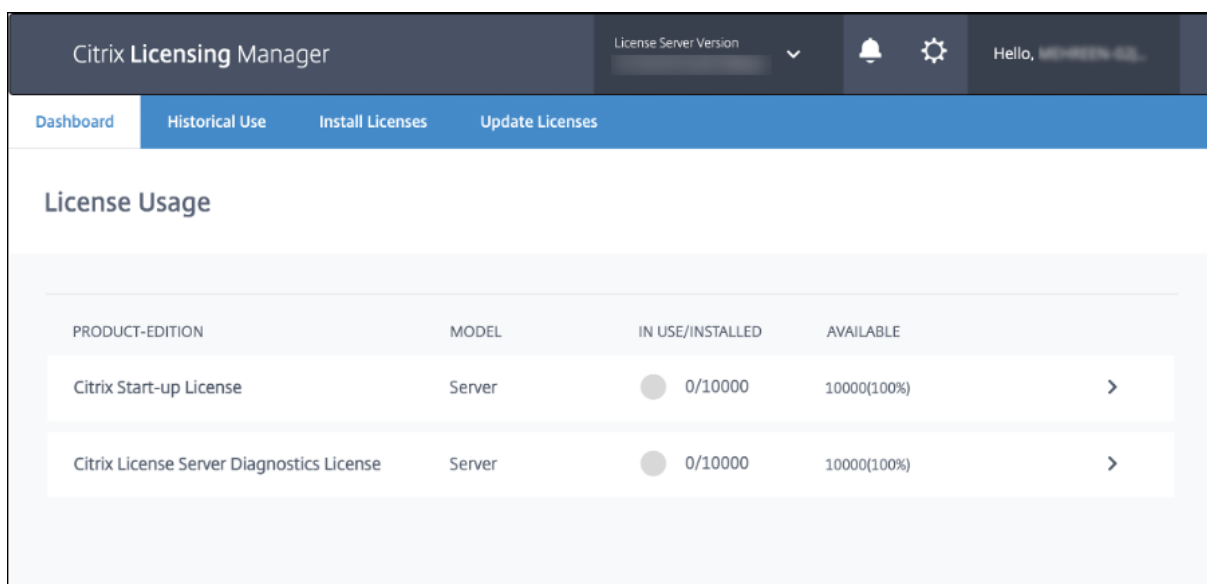
## Citrix Licensing Manager

December 1, 2023

Citrix Licensing Manager は、Citrix ライセンス用の Web ベースの管理コンソールです。シンプルな Web インターフェイスを使用して、ライセンスサーバーの機能を実行できます。Citrix Licensing Manager を使用して実行できる機能について詳しくは、「[Citrix のライセンス技術概要](#)」を参照してください。

Citrix Licensing Manager は、ライセンスサーバーにインストールされます。Citrix Licensing Manager は、それがインストールされたライセンスサーバーを管理するためにのみ使用できます。Citrix Web サービスは、ライセンスという Windows サービスのための機能を提供します。

[https://\\*LicenseServerName:WSLPort\\*](https://*LicenseServerName:WSLPort*)のリンクを使用して、Citrix Licensing Manager にアクセスします。デフォルトの WSL ポートは 8083 です。



**Citrix Licensing Manager** 画面には、次の詳細が表示されます：

- 画面の一番上のバーにライセンスサーバーのバージョン。タイトルバーのドロップダウンリストから、ホスト名、イーサネットアドレス、および IPv4 アドレスを表示することもできます。Citrix Licensing Manager 画面の右上にある下向き矢印を選択します。
- ライセンスの可用性、有効期限、およびその他の条件についての重要な通知。Citrix Licensing Manager 画面上部にあるベルアイコンを選択して、通知を表示できます。

Citrix Licensing Manager では、次のアクションを実行することもできます：

- カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスの操作を構成する。ライセンスを自動的にダウンロードしてインストールするか、利用可能な更新を確認して通知するか、手動でライセンスをインストールするかを指定します。この機能の構成について詳しくは、「[Citrix Licensing Manager でカスタマーサクセスサービス更新ライセンスを確認してインストールする](#)」を参照してください。

- ライセンスサーバーで、使用履歴レポートを保存してエクスポート。使用状況履歴データの日付の範囲を指定し、CSV ファイルにエクスポートできます。CSV ファイルにより、超過使用のライセンス数を含む日単位での使用状況情報が提供されます。使用状況履歴データのエクスポートについて詳しくは、「[使用履歴](#)」を参照してください。

## 前提条件

前提条件と要件については、「[必要なシステム - Citrix Licensing](#)」の記事を参照してください。

## 次の手順

- **ダッシュボード**: インストールされたライセンス、使用中のライセンス、使用可能なライセンス、ライセンスの有効期限、カスタマーサクセスサービスの日付が表示されます。  
詳しくは、「[ダッシュボード](#)」を参照してください。
- **使用履歴**: 製品、ライセンスモデル、およびカスタマーサクセスサービス (Subscription Advantage) 日に関連するデータを確認してエクスポートできます。  
詳しくは、「[使用履歴](#)」を参照してください。
- **ライセンスのインストール**: ライセンスアクセスコードまたはダウンロードしたファイルを使用して、ライセンスファイルをライセンスサーバーにインストールします。また、インストール後のライセンスの詳細を表示できます。  
詳しくは、「[ライセンスのインストール](#)」を参照してください。
- **ライセンスの更新**: 使用可能なカスタマーサクセスサービスの更新ライセンスを確認、ダウンロード、インストール、および更新します。  
詳しくは、「[ライセンスの更新](#)」を参照してください。
- **設定**: ユーザーアカウントとグループアカウント、サーバー構成、および使用状況と統計情報のデータに関連する設定を変更します。詳しくは、「[設定](#)」を参照してください。

## ダッシュボードと使用履歴

January 9, 2024

### ダッシュボード

Citrix Licensing Manager のダッシュボードでは、製品のエディション、モデル、インストール後または使用中のステータス、およびライセンスの可用性に関する情報が表示されます。

The screenshot shows the Citrix Licensing Manager interface. At the top, there is a navigation bar with 'Citrix Licensing Manager' on the left, 'License Server Version' with a dropdown arrow in the center, and notification, settings, and user profile icons on the right. Below this is a secondary navigation bar with 'Dashboard', 'Historical Use', 'Install Licenses', and 'Update Licenses'. The main content area is titled 'License Usage' and contains a table with the following data:

PRODUCT-EDITION	MODEL	IN USE/INSTALLED	AVAILABLE	
Citrix Start-up License	Server	● 0/10000	10000(100%)	>
Citrix License Server Diagnostics License	Server	● 0/10000	10000(100%)	>

ライセンスの詳細情報を表示するには、特定のライセンスの [>] をクリックします。Citrix Licensing Manager では、ライセンスについて次の詳細情報を示す表が表示されます：

- カスタマーサクセスサービスの日付
- インストールされているライセンス数の合計
- 超過使用保護
- 使用中のライセンス
- 使用可能なライセンス数
- 有効期限
- 種類



The screenshot shows the Citrix Licensing Manager interface. At the top, there is a header with the product name and version information. Below the header is a navigation menu with options like 'Dashboard', 'Historical Use', 'Install Licenses', and 'Update Licenses'. The main content area is titled 'License Usage' and displays a summary table for 'Citrix Start-up License' and 'Citrix License Server Diagnostics License'. A detailed table for 'Licenses' is highlighted with a red box, showing columns for CSS Date, Total Installed, Overdraft, In use, Available, Expiration Date, and Type.

PRODUCT-EDITION	MODEL	IN USE/INSTALLED	AVAILABLE			
Citrix Start-up License	Server	0/10000	10000(100%)			
Licenses						
CSS Date	Total Installed	Overdraft	In use	Available	Expiration Date	Type
2038.0101	10000	0	0	10000	PERMANENT	System
Citrix License Server Diagnostics License	Server	0/10000	10000(100%)			

## 使用履歴

Citrix Licensing Manager の使用履歴機能を使用すると、使用履歴レポートを保存、およびライセンスサーバーからエクスポートできます。このデータの保有期間は、デフォルトで1年です。[変更]を選択すると、データ保有期間を表示および指定できます。フィルターを使用して、ライセンスサーバー製品の使用状況レポートをCSVファイルとしてエクスポートします。

Citrix Licensing Manager

Dashboard Historical Use Install Licenses Update Licenses

### Historical Use

Use these filters to export a License Server Product usage report for the specified time period as a .csv file.

**Product & Edition**  
Citrix Start-up License (CITRIX) ▼

**Model**  
Server ▼

**Customer Success Services Date**  
2038.0101 ▼

**Start Date**  
01/14/2019 [calendar icon]

**End Date**  
01/16/2019 [calendar icon]

**Export**

Historical data is retained 180 Days [Change](#)

#### 使用状況履歴データのエクスポート

次の手順を実行して、使用履歴を表示およびエクスポートできます：

1. ライセンスサーバーでホストされている Citrix Licensing Manager にログインします。ライセンスサーバーにアクセスできるシステムの Web ブラウザーに次の URL を入力し、実際のライセンスサーバーのホスト名を使用します。  
<http://License-Server-Hostname:8083/>
2. [製品およびエディション]、[モデル]、[カスタマーサクセスサービスの日付] を選択します。履歴を収集する日付範囲を入力します。

注：

[カスタマーサクセスサービスの日付] を選択すると、エクスポートされるデータが特定のライセンスルールに限定され、使用中のライセンスの総数が正確に反映されません。

3. [エクスポート] を選択します。
4. Web ブラウザーのダウンロードダイアログで [保存] > [名前を付けて保存] を選択し、エクスポートした CSV ファイルを保存します。CSV ファイルにより、超過使用のライセンス数を含む日単位での使用状況情報が提供されます。

注:

データベース使用状況のスナップショットは 15 分ごとに保存されます。

## ライセンスのインストール

November 11, 2021

Citrix Licensing Manager では、ライセンス取得方法について次のオプションがあります:

- ライセンスアクセスコードを使用
- ダウンロードしたライセンスファイルを使用

[スタート] メニューから、[すべてのプログラム] > [Citrix] > [Citrix Licensing Manager] の順に選択します。または、リモートマシン上の Web ブラウザーに「<https://licenseservername:8083>」という URL を入力してライセンスサーバー名を指定します。

Citrix Licensing Manager

Dashboard Historical Use **Install Licenses** Update Licenses

### Install Licenses

Choose the method to install licenses on the License Server.

**License Server Information**

Hostname <b>lctest.net</b>	IP Address <b>10.61.4.5</b>
----------------------------	-----------------------------

You can choose to install licenses by using the license access code or a license file (.lic).

Use license access code  Use downloaded license file

**License Access Code**

XDT-PLT-CCS

Display Licenses

### ライセンスアクセスコードを使用

1. [ライセンスアクセスコードを使用] を選択し、Citrix が提供するライセンスアクセスコードを入力します。

2. [ライセンスの表示] をクリックして、ライセンス使用権を確認します。

インストールするライセンスと数量を選択します。

3. 詳細の一覧で製品を選択したら、インストールするライセンスの数を入力し、[インストール] をクリックします。複数の製品を選択するには、製品を選択するたびに [インストール] をクリックします。製品は選択順に処理されます。

4. 新しくダウンロードしたライセンスを表示するには、[ダッシュボード] をクリックします。

Use license access code     Use downloaded license file

License Access Code

XDT-PLT-CCS

Display Licenses

License Entitlements

Product Name	Quantity/Available	Already Used	Action/Progress
Citrix XenDesktop Platinum   Concurrent	5 / 5	0	✓ Installed

Product-Type      CSS Date      Available      Expiry Date

- ▶ CEHV | CCS-Retail
- ▶ CESEP | CCU-Retail
- ▶ MPS | CCU-Retail

ダウンロードしたライセンスファイルを使用

Use license access code     Use downloaded license file

License File

Choose File

Installed License Details

Product-Type	CSS Date	Available	Expiry Date
▼ Citrix XenApp Enterprise   Concurrent User-Retail	2018.1201	10	01-dec-2018

1. [ダウンロードしたライセンスファイルを使用] を選択します。
2. ファイルを選択します。
3. 同じ名前の古いファイルを置き換えるには、チェックボックスを選択します。
4. [インポート] をクリックします。

ライセンスの情報が Citrix Licensing Manager に表示されます。

5. ライセンスファイルがライセンスサーバーに問題なくアップロードされたら、メッセージが表示されます。新しくダウンロードしたライセンスを表示するには、[ダッシュボード] をクリックします。

注:

ファイル名の特殊文字を削除して、ライセンスファイルのアップロード中の問題を回避してください。  
ファイル名の拡張子は「.lic」（すべて小文字）にする必要があります。

## ライセンスの割り当てとダウンロード

Citrix Licensing Manager を使用してライセンスを割り当ておよびダウンロードするときは、次の点を考慮してください:

- 前提条件として、インターネットアクセス権限があること、またはプロキシサーバーを使用した構成になっていることを確認してください。
- [割り当て] > [ダウンロード] の順にクリックした後でキャンセルすることはできません。このアクションが失敗した場合は、citrix.com の **[My Account]** を使用してください。
- Citrix Licensing Manager では、ライセンスファイルを再ダウンロードしたり再割り当てしたりすることはできません。citrix.com でライセンスを返却してから、Citrix Licensing Manager で再度ライセンスを割り当てることは可能です。再ダウンロードする場合は、**[My Account]** を使用します。
- ライセンスサーバーの名前を変更する場合は、変更前のライセンスサーバー名で割り当てたライセンスファイルを再割り当てる必要があります。

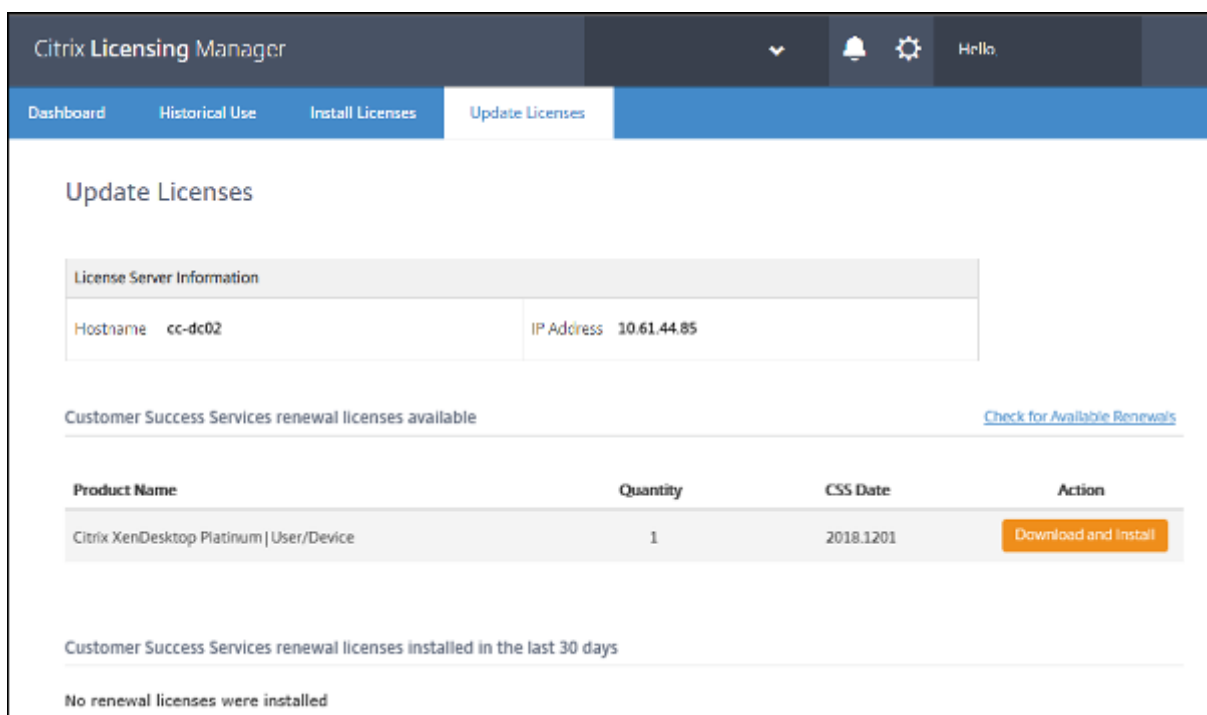
## ライセンスの更新

January 7, 2022

Citrix Licensing Manager の [ライセンスの更新] タブから、カスタマーサクセスサービス更新ライセンスをインストールします。最近インストールされた更新ライセンスの記録は、**[Customer Success Services renewal licenses renewed in the last 30 days]** セクションで確認することもできます。

ライセンスを更新するには

1. [使用可能なカスタマーサクセスサービス更新ライセンス] セクションで、[使用可能な更新のチェック] をクリックします。
2. [ダウンロードしてインストール] をクリックし、ライセンスをインストールします。詳しくは、「[ライセンスのインストール](#)」の「ダウンロードしたライセンスファイルを使用」セクションを参照してください。



## 設定

January 9, 2024

**Citrix Licensing Manager** で次の設定を変更および構成します：

- アカウント：ユーザーアカウントとグループアカウントを構成します。
- サーバー構成：ポートと、カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスの操作を構成します。
- 使用状況と統計情報：ライセンスサーバーを Citrix Cloud に登録し、保有期間を選択して履歴データの保持を構成します。

これらの設定を構成するには、タイトルバーの右上隅にある設定アイコンをクリックします。

PRODUCT-EDITION	MODEL	IN USE/INSTALLED	AVAILABLE
Citrix Start-up License	Server	0/10000	10000(100%)
Citrix License Server Diagnostics License	Server	0/10000	10000(100%)

## アカウント

[アカウント] タブで、ローカルの Windows ユーザーとグループ、および Active Directory ユーザーとグループの両方のユーザーとグループのアクセス権限を構成します。

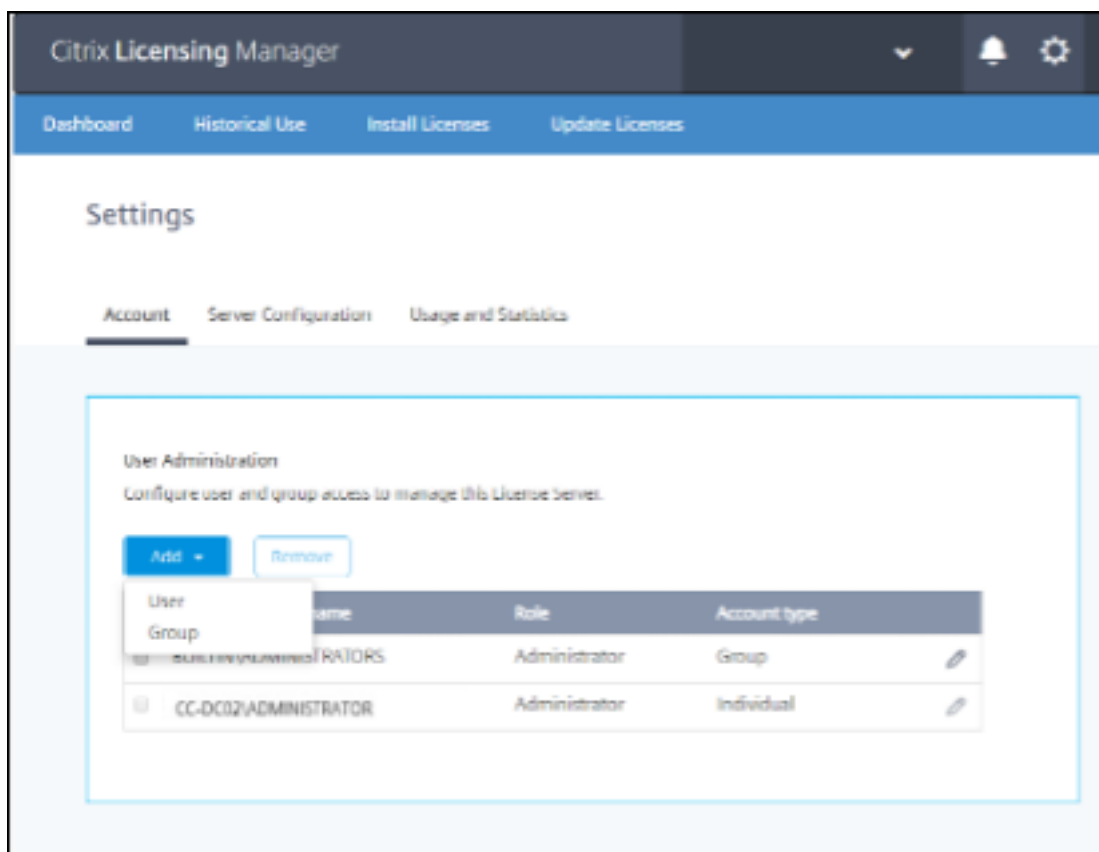
注:

Active Directory のユーザーとグループは、Active Directory またはネットワーク認証システムの一部です。Active Directory のユーザーとグループをサポートするには、Windows ライセンスサーバーが Microsoft Active Directory ドメインに参加していることを確認してください。

## 管理者とユーザーの役割

特定の役割を持つ [ユーザー] アカウントと [グループ] アカウントを追加できます。[管理者] の役割で作成された [ユーザー] アカウントと [グループ] アカウントは、次のことができます:

- コンソールの表示言語を選択する。
- システム情報を表示する。
- ユーザーアカウントを追加および削除する。
- ライセンスサーバーのポートを構成する。
- ベンダーデーモンを構成する。
- Web Services for Licensing ポートを構成する。
- ライセンスを設定して追加する。



[ユーザー] の役割で作成された [ユーザー] アカウントと [グループ] アカウントは、Citrix Licensing Manager にログインできません。これらのアカウントは、Citrix Studio を経由したライセンスへの読み取り専用アクセスのみが可能です。

注:

上の画像に示されているように、アカウントとしてのユーザー（赤色）は、役割としてのユーザー（緑色）とは異なります。

ユーザーとグループを追加および削除するには

ユーザーまたはグループを追加するには、[追加] をクリックして [ユーザー] または [グループ] を選択し、「ドメイン\ユーザー名」を入力してから [完了] をクリックします。

ユーザーまたはグループを削除するには、一覧の [ユーザー] または [グループ] をクリックしてから、[削除] をクリックします。

既存のユーザーまたはグループの役割を編集するには、編集ボタンをクリックして役割を選択し、[更新] をクリックします。



## サーバー構成

[サーバー構成] 設定を使用して、次の変更を行います：

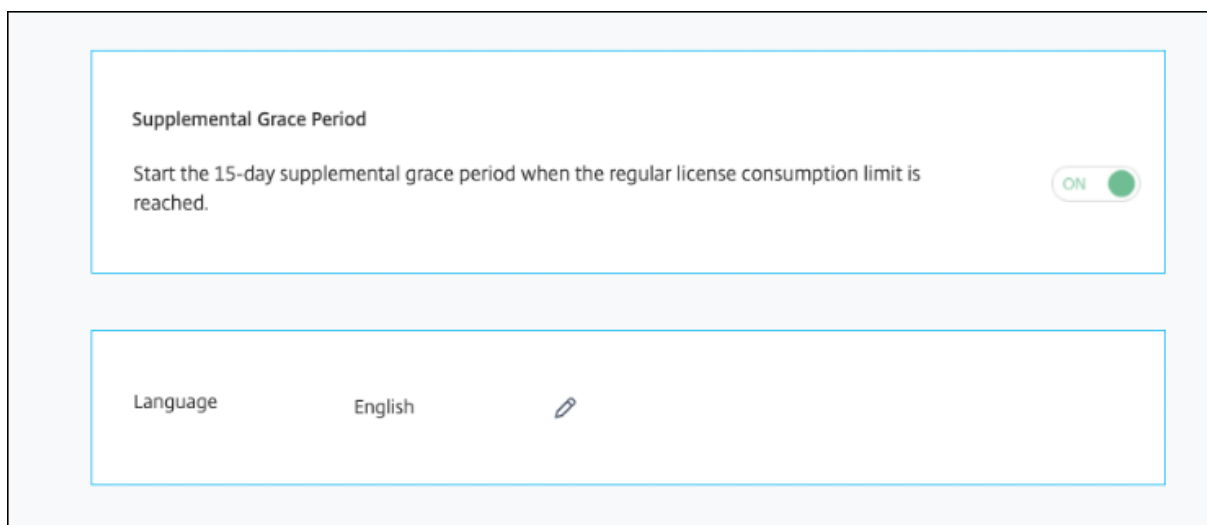
- ライセンスサーバー、Citrix ベンダーデーモン、Web Services for Licensing のポートを構成する。
- カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスの操作を構成する。
- 追加猶予期間を有効または無効にする。
- コンソールの表示言語を選択する。

The screenshot shows the 'Settings' page with the 'Server Configuration' tab selected. Under the 'Configured Ports' section, there is a table with three rows:

Port Name	Port Number	Action
License Server Port <span>?</span>	27000	
Vendor Daemon Port <span>?</span>	7279	
Web Services for Licensing Port <span>?</span>	8083	

The screenshot shows the 'Customer Success Services Renewals' section with three radio button options:

- Automatically check for Customer Success Services renewal licenses and notify when available.
- Automatically check for and install Customer Success Services renewal licenses when available.
- Manually check for Customer Success Services renewal licenses.



## ポート番号の構成

次のデフォルトポートを編集できます：

- **ライセンスサーバー。**このポート番号は Citrix Licensing Manager が使用します。ライセンスサーバーマネージャーは、製品間の内部通信、Citrix ベンダーデーモンの起動、およびチェックイン/チェックアウト要求のベンダーデーモンへの転送を行います。デフォルトのポート番号は、27000 です。
- **Citrix ベンダーデーモン。**このポート番号は Citrix ベンダーデーモンが使用します。ベンダーデーモンは、ライセンスの割り当て処理など、ライセンスサーバーの中核処理を行います。デフォルトのポート番号は、7279 です。ただし、ファイアウォールを使用する場合、またはほかの用途でこのポートを使用している場合は、ポートを変更する必要があります。
- **Web Services for Licensing。**Web Services for Licensing が使用するポートです。**Web Services for Licensing** は Citrix Licensing Manager をホストしているため、Citrix Licensing Manager に接続するユーザーはこのポートを使用します。Director と Studio はこのポートを使用して、**Web Services for Licensing** を使用するライセンスサーバーと通信します。デフォルトのポート番号は、8083 です。

## カスタマーサクセスサービスの更新

この機能は、既に利用可能な更新されたライセンスの有無をチェックし、ライセンスが更新可能であることを通知するか、またはライセンスを自動的にインストールします。有効にすると、Citrix Licensing Manager は毎週 Citrix.com Web サービスにアクセスし、利用可能なカスタマーサクセスサービス更新ライセンスがあるかを確認します。

カスタマーサクセスサービスライセンスを更新するには、次のオプションがあります：

- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合に通知する
- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合にインストールする

- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを手動でチェックする

使用可能な更新のチェックは、毎週実行されます。ライセンスを手動で更新するには、[ライセンスの更新] > [使用可能な更新のチェック] の順にクリックします。[ライセンスの更新] タブで、最近 30 日間にインストールされたライセンスの一覧をいつでも確認できます。

構成に基づいて、Citrix Licensing Manager は次のいずれかを実行します：

- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスのチェックし、ライセンスが見つかったら通知およびインストールする。
- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスのチェックし、ライセンスがインストール済みで使用可能であることを通知する。
- 手動チェックを許可する。

カスタマーサクセスサービス更新ライセンスの自動チェックが失敗する場合、ファイアウォールの設定を確認するか、プロキシを構成してください。この機能を動作させるには、ライセンスサーバーが<https://citrixservices.citrix.com>にアクセスできる必要があります。

#### 追加猶予期間

追加猶予期間機能を使用すると、通常のライセンス消費制限に達した時に、15 日間の追加猶予期間を開始できます。追加猶予期間中、その製品は 15 日間無制限の接続を許可するため、問題を解決するための時間ができます。製品のドキュメントを確認して、製品が追加猶予期間をサポートしているかどうかを確認してください。

#### 言語

Citrix Licensing Manager で表示するデフォルトの言語を変更できます。この設定は、すべてのコンソールユーザーに適用されます。次の言語を使用できます：

- 中国語（簡体字）
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- スペイン語

#### サポートバンドル

サポートバンドルは、Citrix サポートチームがライセンスサーバーの問題のトラブルシューティングとデバッグに使用できる情報が含まれた ZIP ファイルです。このファイルを使用して Citrix サポートへの問い合わせを開始したり、ライセンスのコンプライアンス目的で Citrix またはそのエージェントにドキュメントを提供したりできます。生成さ

れる ZIP ファイルには、ライセンスアクティビティと使用履歴情報、構成情報、ライセンスディレクトリのコピー、ライセンスファイル、サーバーログ、および Call Home、CEIP、および Citrix ライセンス管理サービスの使用状況と分析データが含まれます（いずれも、該当する場合）。

サポートバンドルを生成してダウンロードするには、**[Citrix Licensing Manager] > [Settings] > [Server Configuration] > [Support Bundle]** にアクセスします。**[Generate and Download]** をクリックして、バンドル（ZIP ファイル）をダウンロードします。

サポートバンドルにはさまざまなファイルが含まれています。バンドルで非常に重要なファイルの一覧については、次の表を参照してください：

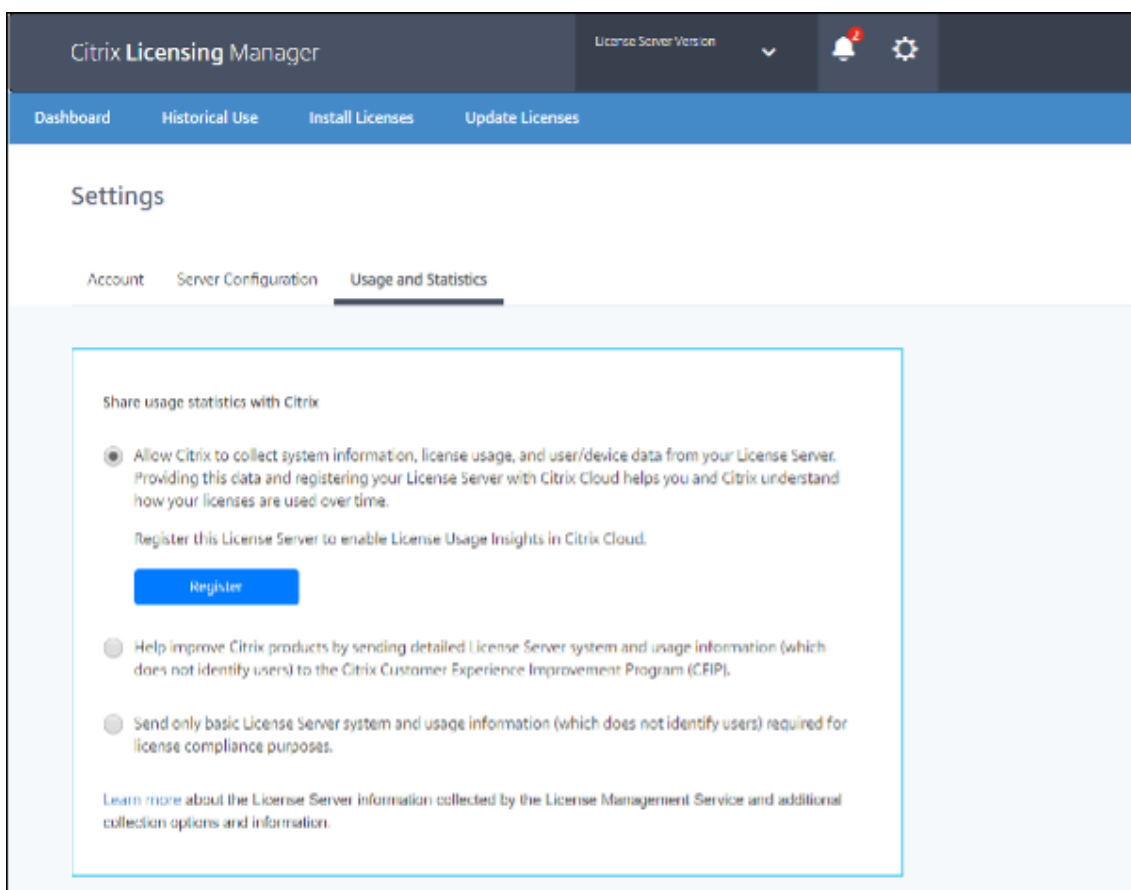
ファイル名	説明
LS\conf	サーバー構成と証明書が含まれます。
LS\logs	ライセンスサーバーログが含まれます。
LS\resource\cache	ユーザー/デバイスデータ、更新データベース、およびベンダーデーモン拡張データが含まれます。最後のテレメトリ転送のステータスを含むアップロード結果ファイルも含まれます。
LS\resource\Historical	Web Services for Licensing/Citrix Licensing Manager の分析および使用履歴データベースが含まれます。
LS\resource\usage	最後のコンプライアンスおよび/または CEIP/Call Home のアップロードバンドルのファイルが各プログラムの関連 ZIP ファイルとともに含まれます。
LS\MyFiles	インストールされているすべてのカスタマーライセンスファイルと CITRIX.opt（オプションファイル-LS 設定が含まれる）が含まれます。
WebServicesForLicensing	<a href="#">SimpleLicenseServiceConfig.xml</a> Web Services for Licensing の構成ファイル。
WebServicesForLicensing\Apache\conf	Web Services for Licensing の Web サーバー構成と証明書が含まれます。
WebServicesForLicensing\Logs	Web Services for Licensing の Web サーバーログが含まれます。

## 使用状況と統計情報

[使用状況と統計情報] 設定を使用して、次の操作を行います：

- 使用統計を Citrix と共有するよう構成する。

- ライセンスサーバーが登録されているかどうか、またはライセンスサーバーを Citrix Cloud に登録するかどうかを確認する。
- アップロードファイルのステータスを確認し、アップロードに失敗したファイルを修正する。
- Citrix へのデータのアップロードを強制する。
- 使用履歴情報を保有する期間を設定する。



### Citrix ライセンスサーバーの登録と登録削除

[使用状況と統計情報] セクションにある [登録] オプションを使用して、Citrix Cloud に Citrix ライセンスサーバーを登録します。登録すると、登録済みであることが画面に表示されます。ライセンスサーバーの登録を削除する場合は、[登録の削除] オプションを使用します。詳しくは、「Citrix ライセンスサーバーを Citrix Cloud に登録する」を参照してください。

#### 使用統計の共有

Citrix ライセンスのカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）および Call Home の使用状況および分析プログラムは、製品に関するエクスペリエンスを向上させるために設計され、お客様の許可によってデータを収集す

るプログラムです。ライセンスサーバーのインストール中に、CEIP はデフォルトで有効になります。Call Home への参加は任意です。匿名または実名でプログラムに参加したり、参加を拒否することができます。プログラムの参加は、Citrix Licensing Manager を使用していつでも変更できます。

収集される統計] 情報について詳しくは、「[Citrix ライセンスのカスタマーエクスペリエンス向上プログラム \(CEIP\)、Call Home、コンプライアンス使用状況および分析プログラム](#)」を参照してください。

**重要:**

製品登録画面にリダイレクトされない場合は、次を実行します:

1. [citrix.cloud.com](https://citrix.cloud.com)に移動してログオンします。
2. 会社を選択し、メニュー > [ID およびアクセス管理] > [API アクセス] タブ > [製品登録] を選択します。

詳しくは、「[Citrix Cloud を使用するオンプレミス製品の登録](#)」を参照してください。

ライセンスサーバーが Citrix Cloud に正常に登録されました。Citrix Cloud の UI で詳細を確認できます。

#### 登録を削除

Citrix Cloud からライセンスサーバーの削除が必要な場合があります。たとえば、ライセンスサーバーを会社 A に登録した後、会社 A が別の組織に統合されたケースなどです。ライセンス使用状況データを 1 つの Citrix カスタマーアカウントに統合する必要がある場合、登録を削除してから、新しい Citrix Cloud アカウントに登録します。

#### 使用状況テレメトリを構成する

この機能を使用すると、Citrix がライセンスサーバーからデータを収集するように設定できます。識別できない形式でデータを送信するか、データを送信しないかを選択できます。次のオプションがあります:

- ユーザー名とデバイス ID を送信するには、[識別可能なユーザー名とデバイス ID のデータを送信します] オプションを選択します。
- 識別できない形式でユーザー名とデバイス ID を送信するには、[識別可能なユーザー名とデバイス ID のデータを送信します] を選択してから、[送信前に、識別可能なユーザー名とデバイス ID のデータを識別できない値に置き換えます] オプションを選択します。
- ユーザー名とデバイス ID を送信したくない場合は、[識別可能なユーザー名とデバイス ID のデータを送信します] オプションを選択しないでください。

Account   Server Configuration   **Usage and Statistics**

---

**Share usage statistics with Citrix**

Allow Citrix to collect system information, license usage, and user/device data from your License Server. Providing this data and registering your License Server with Citrix Cloud helps you and Citrix understand how your licenses are used over time.

Register this License Server to enable License Usage Insights in Citrix Cloud.

[Register](#)

Help improve Citrix products by sending detailed License Server system and usage information (which does not identify users) to the Citrix Customer Experience Improvement Program (CEIP).

Send only basic License Server system and usage information (which does not identify users) required for license compliance purposes.

**Configure usage telemetry**

Send identifiable username and device ID data.

Replace identifiable username and device ID data with non-identifiable values before transmission.

[Learn more](#) about the License Server information collected by the License Management Service and additional collection options and information.

アップロード情報

**Upload information**

Provides status for the last Citrix Customer Experience Improvement Program (CEIP), Call Home, or Citrix Service Provider Program upload.

**Last successful upload** 5/21/2020, 10:19:38 AM

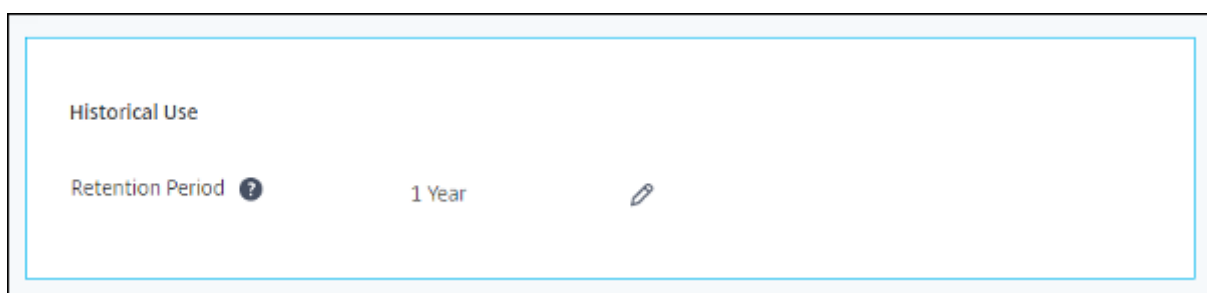
[Upload now](#)

このアップロード情報機能により、CEIP、Call Home、または Citrix Service Provider の最新アップロードのステータスが提供されます。日次アップロードまで待つことなく Citrix へのデータのアップロードを強制できます。CEIP が有効になっている場合、[今すぐアップロード] をクリックすることで、Citrix へのデータのアップロードを強制できます。アップロードを成功させるには、アップロードの間隔を 5 分にします。

アップロードが失敗した場合、Citrix Licensing Manager はトラブルシューティング情報を表示します。

#### 使用履歴

[使用履歴] 機能を使用して保有期間を選択し、ライセンスサーバーの使用状況の情報を保持できます。使用履歴の保有期間は、デフォルトで 1 年です。



## Citrix ライセンスサーバーの登録と登録削除

January 9, 2024

### Citrix ライセンスサーバーの登録

[設定] の [使用状況と統計情報] セクションにある [登録] オプションを使用して、短いコードのライセンス認証プロセスを実行し、Citrix Cloud に Citrix ライセンスサーバーを登録します。

登録すると、登録済みであることが画面に表示されるようになり、[登録の削除] オプションを使用してライセンスサーバーの登録を削除できます。

ライセンスサーバーを Citrix Cloud に登録することで、Call Home のライセンス使用状況情報を収集して保存することができ、そのデータを Citrix Cloud に定期的送信できます。

オンプレミスライセンスサーバーを登録する手順については、「[Citrix Cloud を使用するオンプレミス製品の登録](#)」を参照してください。

Citrix ライセンスサーバーの状態を表示して、使用状況を正常に報告しているサーバーと、Citrix Cloud に最後に使用状況を報告した日時を把握できます。詳しくは、「[オンプレミス展開のライセンスと使用状況の監視](#)」を参照してください。



ライセンスサーバーが Citrix Cloud に正常に登録されると、Citrix Cloud UI で詳細を表示できます。

**重要:**

ライセンスサーバーを Citrix Cloud に登録する前に、ファイアウォール規則を使用して次の URL を開きます:

<https://trust.citrixnetworkapi.net:443>

<https://trust.citrixworkspacesapi.net:443>

<https://cis.citrix.com> port 443

<https://core.citrixworkspacesapi.net:443>

<https://core-eastus-release-a.citrixworkspacesapi.net>

<https://core.citrixworkspacesapi.net>

[ocsp.digicert.com](https://ocsp.digicert.com) port 80

[crl3.digicert.com](https://crl3.digicert.com) port 80

[crl4.digicert.com](https://crl4.digicert.com) port 80

[ocsp.entrust.net](https://ocsp.entrust.net) port 80

[crl.entrust.net](https://crl.entrust.net) port 80

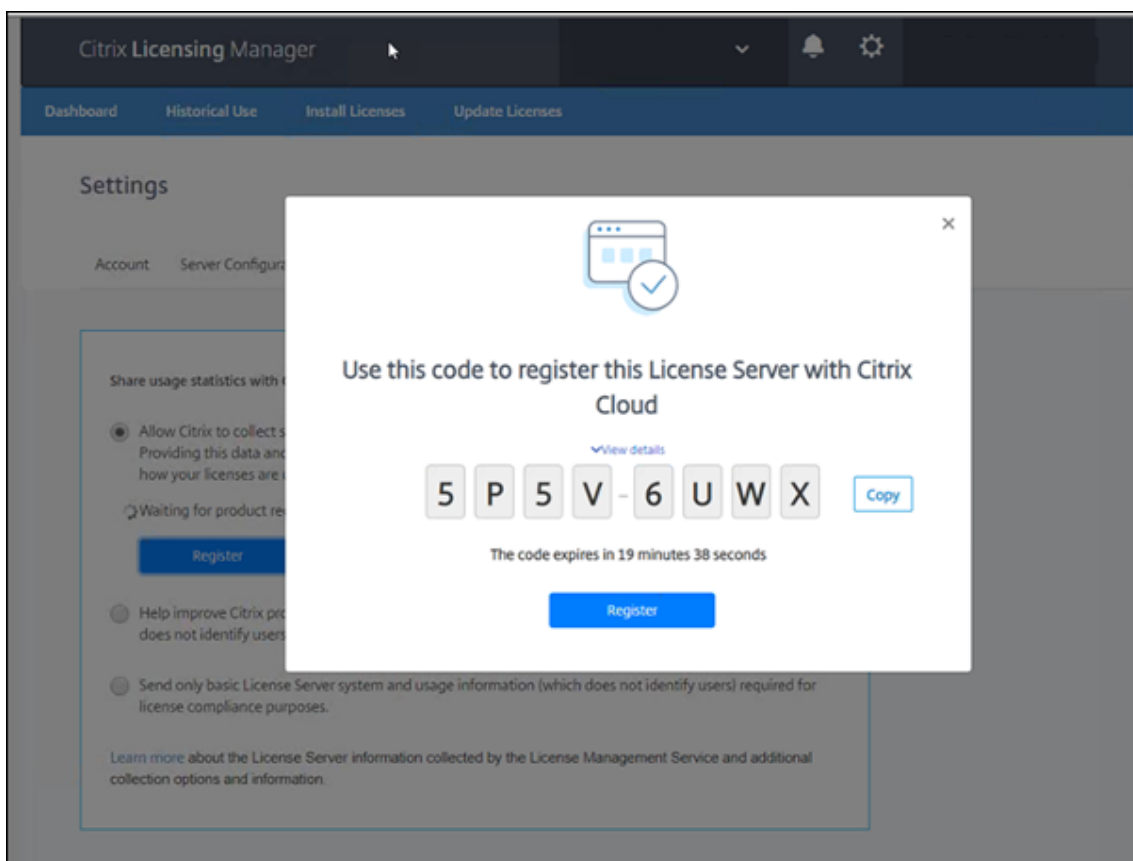
[crl.entrust.net](https://crl.entrust.net) port 80

。ライセンスサーバーが DigiCert および Entrust の証明書失効一覧サーバーにアクセスできることを確認します。ライセンスサーバーは、必要な証明書が有効か失効かをこのサーバーで確認します。

#### ライセンスサーバーの登録手順

ライセンスサーバーを登録するには、次の手順を実行します:

1. [設定] > [使用状況と統計情報] に移動します。
2. [登録] をクリックして、8 文字の英数字コードを生成します。



3. [詳細の表示] を選択すると、ライセンスサーバーのバージョン、MAC ID、ホスト名、IP アドレスを表示できます。
4. [登録] をクリックします。Citrix Cloud サインインページに移動します。
5. Citrix Cloud アカウントの資格情報を入力し、[製品の登録] > [登録] に移動します。8 文字の英数字コードを入力して、[続行] をクリックします。
6. 登録の詳細を確認してから、[登録] をクリックします。

注:

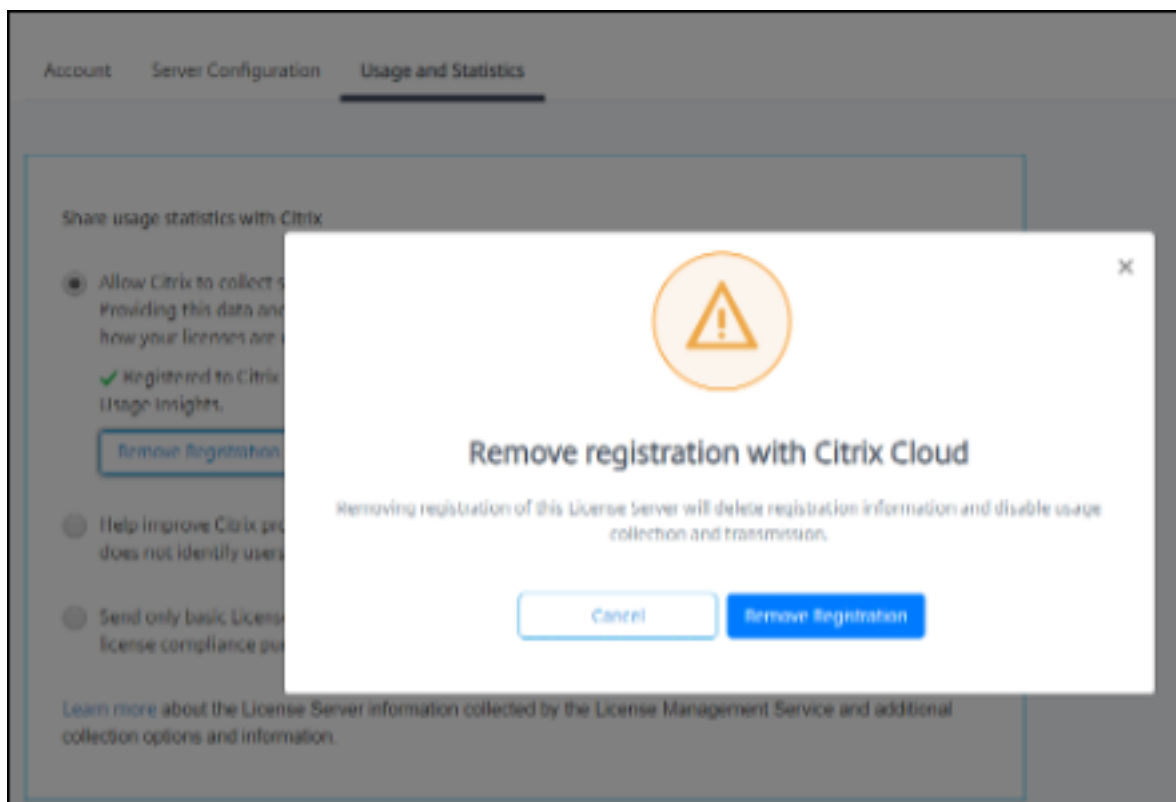
製品登録画面にリダイレクトされない場合は、次を実行します:

1. citrix.cloud.com にアクセスし、Citrix Cloud にサインインします。
2. 会社を選択し、選択メニューで [ID およびアクセス管理] > [API アクセス] タブ > [製品の登録] を選択します。

### ライセンスサーバーの登録削除

ライセンスサーバーを別のまたは新しい Citrix Cloud アカウントで登録する場合は、登録を削除してからライセンスサーバーを再登録します。

ライセンスサーバーの登録を削除するには、[設定] > [使用状況と統計情報] に移動し、[登録を削除] をクリックします。確認メッセージを確認します。



ライセンスサーバーの登録は、Citrix Cloud から削除されます。これで、手順に従ってライセンスサーバーを登録し、新しい Citrix Cloud アカウントで登録できます。

## citrix.com でのライセンスの管理

May 24, 2024

ここでは、citrix.com でライセンスを管理する方法について説明します。**[Manage Licenses]** を選択することで、ライセンスをすばやく見つけ、割り当て、ダウンロードし、修正し、返却し、表示または非表示にすることができます。

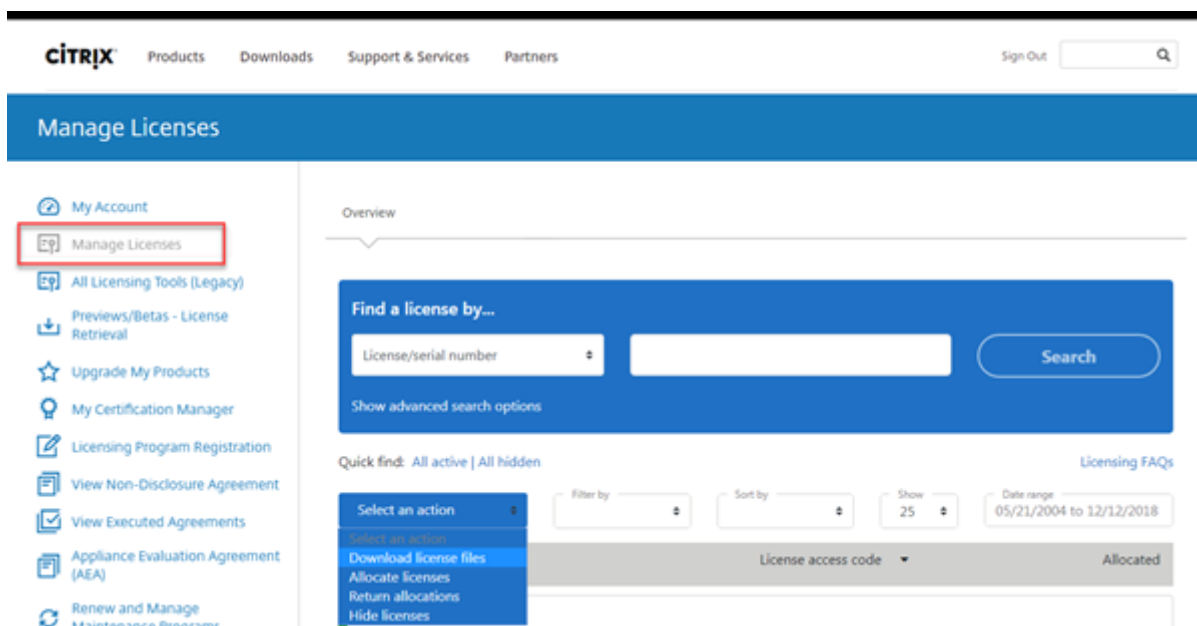
注:

[Citrix Studio](#)および[Citrix Licensing Manager](#)からさまざまなライセンス操作を実行できます。

**citrix.com** の **[Manage Licenses]** にアクセスするには

1. Web ブラウザーで、<http://www.citrix.com>にアクセスします。

2. **[Sign In] > [My Account]** を選択してユーザー ID とパスワードを入力します。
3. **[Manage Licenses]** を選択します。



## ライセンスの検索

**[Find a license by…]** メニューで検索条件を選択し、検索するテキストを入力し、**[Search]** を選択します。さらに検索を絞り込むには、**[Show advanced search options]** を選択できます。

## ライセンスの割り当て

1. 割り当てるライセンスを選択します。ランディングページには、30 日以内の新規ライセンスと有効期限が近いライセンスのみが表示されます。**[Find a license by…]** 検索を使用して、検索条件の 1 つを使用してすべてのライセンスを検索し、次に **[Filter by]** メニューで特定の種類のライセンスまで表示を絞り込むか、**[Quick find: All active]** を選択してすべてのライセンスを表示します。
2. **[Select an action]** メニューで **[Allocate licenses]** を選択します。
3. バインディング ID (例: ホスト名またはイーサネットアドレス) と割り当てるライセンス数を入力し、**[Create license file]** をクリックします。
4. **[Yes, create license file]** を選択します。ライセンスファイルを作成する前に変更する場合は、**[No, modify the allocation]** を選択して変更します。次に、**[Yes, create license file]** を選択します。
5. **[Download license file]** を選択して、一時的な場所にファイルを保存します。ファイル名とファイルをダウンロードした場所を記録しておいてください。後で必要になります。
6. ライセンスをインストールします。「[ライセンスのインストール](#)」を参照してください。

## ライセンスのダウンロード

1. ダウンロードするライセンスを選択します。ランディングページには、30 日以内の新規ライセンスと有効期限が近いライセンスのみが表示されます。[**Find a license by...**] 検索を使用して、検索条件の 1 つを使用してすべてのライセンスを検索し、次に [**Filter by**] メニューで特定の種類のライセンスまで表示を絞り込むか、[**Quick find: All active**] を選択してすべてのライセンスを表示します。
2. [**Select an action**] メニューで [**Download all licenses**] を選択して一時的な場所（通常はダウンロードフォルダー）にファイルを保存します。
3. ダウンロードしたライセンスファイルを **MyFiles** フォルダーにコピーします：

- `C:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles` (32 ビットコンピューター)
- `C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\MyFiles` (64 ビットコンピューター)

ライセンスファイル名の拡張子は、常に「.lic」（小文字）にする必要があります。コピー手段によっては、ライセンスファイルのファイルタイプが正しく認識されず、拡張子「.txt」が追加される場合があります。ライセンスファイルのファイル拡張子が不正な場合、ライセンスファイルをインポートできません。

4. コマンドプロンプトで `C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\LS` または `C:\Program Files\Citrix\Licensing\LS` フォルダーに移動して、次のコマンドを実行します：

```
lmreread -c @localhost -all
```

lmreread コマンドについて詳しくは、「[ライセンスファイルとオプションファイルの再読み込み \(lmreread\)](#)」を参照してください。

## ライセンスのインストール

特定の Citrix ソリューションのライセンスをインストールする方法について詳しくは、以下を参照してください：

- [Citrix Virtual Apps and Desktops ライセンスガイド](#)
- [Citrix ADC ライセンスガイド](#)
- [Citrix Gateway ライセンスガイド](#)
- [Citrix Hypervisor ライセンスガイド](#)
- [XenMobile Server ライセンスガイド](#)
- [Citrix Provisioning ライセンスガイド](#)
- [Citrix SD-WAN ライセンスガイド](#)

Citrix Licensing Manager を使用したライセンスのインストールについて詳しくは、「[ライセンスのインストール](#)」を参照してください。

アセットコンポーネントの表示

アセットコンポーネントを表示するには、ページ上部の **[View my products]** をクリックします。ライセンスを選択します。下向き矢印をクリックすると、詳細が表示されます。発注番号とライセンスアクセスコードビューを切り替えることができます。

Find a license by...
Clear search

Search

Hide advanced search options

Export list (.CSV)

Show

Date range

Product name	Order Number	Quantity
<span style="color: #0070c0;">⊖</span> Virtual Desktops Service <small>Purchased: 12/22/2018 Expiring: 12/22/2021</small>	[blurred]	5880
<span style="color: #0070c0; border: 2px solid red; padding: 2px;">⊖</span> Endpoint Management Service <small>Purchased: 12/22/2018 Expiring: 12/22/2021</small>	[blurred]	2500
Name	License access code	Quantity
Endpoint Management Service	[blurred]	2500
Workspace Environment Management	[blurred]	2500
Citrix VPX 3000 MBPS License	[blurred]	2
Citrix Connector VPX 200Mbps	[blurred]	2
<span style="color: #0070c0;">⊖</span> Virtual Desktops Service <small>Purchased: 12/22/2018 Expiring: 12/22/2021</small>	[blurred]	4200
<span style="color: #0070c0;">⊖</span> Virtual Desktops Service <small>Purchased: 12/22/2018 Expiring: 12/22/2021</small>	[blurred]	300

## 割り当ての返却

割り当ての返却により、ライセンスをライセンスプールに戻します。これらのライセンスはその後、いつでも任意の数量で割り当てることができます。たとえば、ライセンスサーバーの使用を停止したものの、他の場所で既存のライセンスを展開する計画がない場合などに返却します。

1. 返却するライセンスのチェックボックスをオンにします。
2. **[Select an action]** メニューで **[Return allocations]** を選択します。
3. **[Yes, process return]** を選択します。このオプションを選択した場合、元に戻すことはできません。

## ライセンスの変更

ライセンスを変更することで、単一のライセンスファイルを返却し、別のサーバーに割り当てることができます。たとえば、ライセンスサーバー **1** にインストールされているライセンスが 5000 個あるとします。ライセンスサーバー **2** にライセンスを 1000 個移動する場合、割り当てを変更してから、ライセンスサーバー **1** にライセンスを 4000 個、ライセンスサーバー **2** にライセンスを 1000 個割り当てます。

1. 製品を選択するには、リンクをクリックし、製品ライセンスの詳細ページを表示します。
2. 変更する割り当て済みライセンスのチェックボックスをオンにします。
3. **[Select an action]** メニューで **[Modify allocations]** を選択します。
4. 新しいサーバーホストアドレスを入力します。
5. **[Modify license file]** を選択します。
6. **[Yes, create license file]** を選択します。ライセンスファイルを作成する前に変更する場合は、**[No, modify the allocation]** を選択して変更します。次に、**[Yes, create license file]** を選択します。
7. **[Download license file]** を選択して、一時的な場所にファイルを保存します。ファイル名とファイルをダウンロードした場所を記録しておいてください。後で必要になります。
8. ライセンスをインストールします。「[ライセンスのインストール](#)」を参照してください。

## ライセンスのアップグレード

メンテナンスの特典でバージョンアップグレードの対象となっている場合、CSS 更新ライセンスをダウンロードしてライセンスサーバーに追加できます。

1. ランディングページの下部で、**[Upgrade my licenses]** を選択します。
2. サイトの指示に従って操作して、製品のエディションをアップグレードします。
3. 製品をダウンロードするか、メディアとして受け取るかを選択します。電子メールメッセージが送信されます。このメッセージには、[citrix.com](http://citrix.com) に戻って追加機能のライセンスを割り当てたりダウンロードしたりするための方法が説明されています。
4. [www.citrix.com](http://www.citrix.com) にログオンしてライセンスを割り当て、ライセンスファイルの生成、ライセンスファイルのダウンロード、およびライセンスサーバーでのライセンスの再読み込みを行います。

## ライセンスの非表示と表示

ライセンスを非表示にすることによって、ライセンスがアカウントから削除されることはありません。ライセンスを非表示にすると、表示から削除されます。レガシー製品ライセンスを非表示にすることもできます。これらのライセンスを非表示にすると、表示する製品ライセンスの可視性が向上します。

1. 非表示にするライセンスを選択します。
2. [Select an action] メニューで [**Hide licenses**] を選択します。
3. ライセンスを表示するには、[**Quick find: All hidden**] でライセンスを選択します。
4. [**Select an action**] メニューで [**Unhide licenses**] を選択します。

## 複数のライセンスの管理（一括操作）

複数のライセンスに対して、同時に操作を適用できます。別のライセンスのチェックボックスをオンにしてから、操作を実行します。

複数のライセンスに操作を正常に適用するには、次の条件に注意してください。

- 同じ属性の複数ライセンスに対してのみ特定の操作を適用できます。たとえば、バインドの種類が同じライセンスのみを割り当てることができます。一括操作に対応していないライセンスを選択すると、エラーメッセージが表示されます。最初に選択したライセンスに対して、次に選択されたライセンスの互換性を確認します。
- 選択したすべてのライセンスに操作を適用できない場合、一部の操作は機能しないか非表示になり、メッセージが表示されます。たとえば、2つのライセンスを選択し、1つが割り当て済みもう1つが未割り当ての場合、メッセージが開きます。メッセージは、割り当て済みのライセンスにのみ操作が適用されることを知らせます。

## Bulk actions



**One or more licenses are not allocated.**

You can only apply this action to items that have been allocated.

If you continue, any licenses that have not been allocated are ignored.

Return allocated licenses

Close and change selection



## ライセンスの絞り込み

[Filter by] メニューで期限切れのライセンス、新しいライセンス、利用可能な割り当てライセンス、トライアルライセンスを絞り込むことができます。[Filter by] メニューで出力内容の絞り込み方法を選択できます。

## 製品ライセンスレポートの作成 - Export to Excel (CSV)

Excel にアセットの一覧とデータをエクスポートする場合、このオプションを選択します。

1. レポートに含めるライセンスを選択します。
2. [Export to Excel (.CSV)] リンクを選択します。リンクは、[View my product] ページでは、製品一覧の上にあります。[Manage my licenses] ページでは、一覧の下部にあります。
3. ファイルを保存します。

## コンソールを使用しないライセンスサーバー管理

January 9, 2024

Citrix Licensing Manager を使用せずに実行できる管理手順もあります。可能な限り、コンソールを使用することをお勧めします。ここでは、コンソールを使用できない場合に必要手順について説明します。

- ベンダーデーモンログ (CITRIX.log) が上書きされないように構成
- カスタマーサクセスサービスの更新ファイル
- ライセンスファイルの削除
- Windows でのドメイン名切り捨ての無効化
- 更新とメンテナンスの有効期限の確認

citrix.com でライセンス管理ツールを使用してライセンスのダウンロード、割り当て、インストール、割り当ての変更、返却、非表示を実行できます。詳しくは、「[citrix.com の My Account でライセンスを管理](#)」を参照してください。

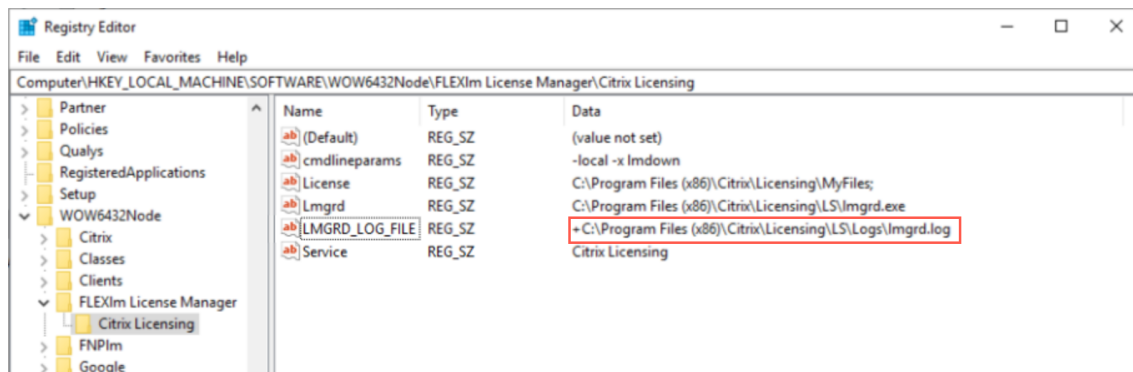
ライセンスコマンドを使用して、ライセンスタスクを実行できます。詳しくは、「[ライセンスコマンド](#)」を参照してください。

ベンダーデーモンログ (**CITRIX.log**) が上書きされないように構成

ライセンス管理コンソールをサポートしないライセンスサーバーバージョン 11.16.6 ビルド 34000 では、ベンダーデーモンログ (CITRIX.log) が上書きされないように次のように構成できます：

- システムでLMGRD\_LOG\_FILEの場所(HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\FLEXlm License Manager\Citrix Licensing\LMGRD\_LOG\_FILE) に移動します。

- パスの前に+を追加します。例えば、例: C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\LS\Log\lmgrd.log に変更 +C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\LS\Log\lmgrd.log 次の画像に見られるように。



## カスタマーサクセスサービス

カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスファイルを citrix.com からダウンロードした後で、このファイルをライセンスサーバーに追加する必要があります。カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスを既存のライセンスファイルと同じフォルダーにコピーし、lmrereadを使用して再読み込みを実行します。lmrereadコマンドについて詳しくは、「[ライセンスファイルとオプションファイルの再読み込み \(lmreread\)](#)」を参照してください。

デフォルトでは、この場所は次のとおりです:

32ビットサーバー上のC:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles

64ビットサーバー上のC:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\MyFiles

更新ライセンスをライセンスサーバーに追加すると、対象製品について、カスタマーサクセスサービスの契約期間中にリリースされるすべてのアップグレードバージョンが自動的に有効になります。

**2** 台のサーバーに異なるライセンスファイルを格納してライセンスを分離するには:

- 2 台目のサーバーを選択してライセンスサーバーソフトウェアをインストールします。
- citrix.com にアクセスして、元のライセンスを変更して 2 つの新しいファイルに割り当てます。これらの元のライセンスは、元のライセンスサーバー上の現在のライセンスファイルに含まれています。
  - ライセンスを、最初の展開で使用する 1 台目のライセンスサーバーに割り当てます。
  - 別のライセンスファイルを作成するライセンスを、2 つ目の展開で使用する 2 台目のライセンスサーバーに割り当てます。
- カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスファイルを生成しダウンロードします。そして、それぞれのファイルを適用するサーバーにコピーします。
- Citrix 製品の各バージョンが動作するすべてのコンピューターを、それぞれ対応するライセンスサーバーを参照するように設定します。ライセンスサーバーを参照するように Citrix 製品を設定する方法については、Citrix 製品の管理者ガイドを参照してください。

## ライセンスファイルの削除

製品のエディションをアップグレード (Standard Edition から Advanced Edition、または Advanced Edition から Premium Edition へのアップグレードなど) すると、新しい Citrix 製品ライセンスが送付されます。citrix.com でこのライセンスを使用してライセンスファイルを生成し、それを Citrix ライセンスサーバーに割り当てることができます。不要になったライセンスは、新しいライセンスの購入から 90 日以内にライセンスサーバーから削除する必要があります。ライセンスの削除には、以下の理由があります：

- ライセンス資産を正しく管理するため。
- ライセンス契約に準拠するため。
- 不必要な警告メッセージがライセンス管理コンソールに表示されないようにするため。

### ライセンスファイルを削除するときの考慮事項

- 必要なライセンスファイルを誤って削除すると、使用可能なライセンスの数が少なくなることがあります。
- 新しいライセンスファイルをライセンスサーバーにインポートしてから、不要なライセンスファイルを削除してください。
- ライセンスファイルに記述されているすべての INCREMENT 行が不要になった場合は、そのファイルを削除できます。たとえば、アップグレードの適用により各 INCREMENT 行が新しいライセンスに置き換えられた場合は、以下の手順でそのファイルをライセンスサーバーから削除します。

#### 重要

オプションファイル (citrix.opt) やスタートアップライセンス (citrix\_startup.lic) は削除しないでください。

1. ライセンスサーバーで [サービス] コントロールパネルを開き、Citrix Licensing サービスを停止します。
2. Windows エクスプローラで、ライセンスファイルの格納場所を開きます。デフォルトでは、ライセンスファイルは以下の場所に保存されます：
  - 32 ビットサーバー上の C: \Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles
  - 64 ビットサーバー上の C: \Program Files(x86)\Citrix\Licensing\MyFiles
3. すべてのライセンスファイルをバックアップします。
4. テキストエディター (Microsoft ワードパッド推奨) を使用して各ライセンスファイル (.lic) を開き、不要なライセンスの INCREMENT 行を特定します。
5. すべての INCREMENT 行が不要であることを確認します。INCREMENT 行について詳しくは、「ライセンスファイル」の「[ライセンスファイルの形式](#)」を参照してください。
6. ファイルを閉じて、ファイル名の拡張子を .lic から .old に変更します。
7. [サービス] コントロールパネルで、Citrix Licensing サービスを再起動します。
8. 名前を変更した .old ファイルを削除します。

## ドメイン名切り捨ての無効化

#### 警告

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

異なるドメインに同じユーザー名を持つ複数のドメインと複数のユーザーをホストする場合、ドメイン名の切り捨てを有効にすることができます。例: **jack@mycompany.com** および **jack@newplace.com**。さまざまなドメインに一意のユーザーが存在する場合、ライセンスサーバーが「@domain.com」を切り捨てないように確認してください。

ライセンスサーバーによって Citrix Service Provider ライセンスが検出され、この機能が有効になります。

1. 以下のレジストリキーを検索します。

32 ビットマシンの場合: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\licenseserver`

64 ビットマシンの場合: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\licenseserver`

値の名前: `UDUseDomain`

2. 値のデータとして、**1** を設定します。

データ	説明
<b>0</b>	ドメイン名が切り捨てられます (デフォルト)
<b>1</b>	ドメイン名が切り捨てられません

#### 更新とメンテナンスの有効期限の確認

**My Account** への無制限アクセスが必要です。

1. Web ブラウザーで、[www.citrix.com](http://www.citrix.com) にアクセスします。
2. **[Sign In] > [My Account]** を選択してユーザー ID とパスワードを入力します。
3. **[Renew and Manage Maintenance Programs]** を選択します。
4. ページの上部で **[Manage Renewal Contacts]** を選択します。
5. 更新期限は、**[Current Expiration]** の各ライセンスの横に表示されます。

#### ライセンスコマンド

January 9, 2024

Citrix Licensing Manager を使用すると多くのライセンス機能に簡単にアクセスでき、コマンドを使用してライセンス管理タスクを実行できます。一方、コマンドプロンプト上で使用するライセンス管理コマンドでは、管理コンソール上で実行できるタスクに加え、さらに詳細なライセンス管理を行えます。たとえば、`lmdiag` コマンドでは、ライセンスのチェックアウト時の問題を診断することができます。

ライセンス管理コマンドは、次のフォルダーに配置されます：

- `C:\Program Files\Citrix\Licensing\LS` (32 ビットコンピューター)
- `C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\LS` (64 ビットコンピューター)

### ライセンスコマンドの説明

注：

ライセンスサーバーバージョン 11.16.6 ビルド 34000 で、既存のユーザー管理 `lmadmin.exe` が Citrix 所有のユーザー管理 `lmgrd.exe` に置き換えられます。`lmadmin` は使用しないでください。

ライセンスコマンド	説明
<code>lmgrd</code>	ライセンスサーバーおよびその他の関連プロセスを開始および管理します。 <code>lmgrd</code> は、Citrix ライセンスの Windows サービスに使用されるコアライセンスサーバーファイルです。ライセンスサーバーポート（デフォルトは 27000）をホストします。ライセンスの構成および管理タスクについては、 <a href="#">Citrix Licensing Manager</a> を使用します。
<code>lmdiag</code>	ライセンスのチェックアウト時の問題を診断します。
<code>lmdown</code>	License Manager デーモンと Citrix ベンダーデーモンを正しく停止します（デフォルトでは無効になっています）。
<code>lmhostid</code>	Citrix Licensing が実行されるライセンスサーバーの名前を表示します。
<code>lmreread</code>	License Manager デーモンにライセンスファイルを再読み込みさせて、Citrix ベンダーデーモンを起動します。
<code>lmstat</code>	ライセンスサーバーの状態を表示します。
<code>lmutil</code>	ライセンス管理コマンドの一覧を表示したり、ほかのコマンドを実行したりします。
<code>lmver</code>	ライセンスサーバーのバイナリファイルのバージョン情報を表示します。

ライセンスコマンド	説明
<code>udadmin</code>	ライセンス済みのすべてのユーザーとデバイスを表示し、特定のユーザーとデバイスを削除します。このコマンドはユーザーまたはデバイスライセンスにのみ適用します。ライセンス一覧を取得するには、 <code>udadmin -list</code> を指定します。
<code>CtxManageUserAndGroup</code>	ライセンスサーバーを管理するためのユーザーとグループのアクセス権を構成します。
<code>CtxManageUserAndGroup.exe -useradd "domain\username" -Role "admin/user"</code>	ユーザーを追加するコマンド。
<code>CtxManageUserAndGroup.exe -useradd "domain\username" -Role "adminGroup/userGroup"</code>	グループを追加するコマンド。

#### ライセンス管理コマンドの表記規則

ライセンス管理コマンドの表記規則は以下のとおりです：

表記規則	説明
太字	コマンドまたはスイッチを示します ( <b>lmstat</b> など)。
斜体	変数を値に置き換えます。たとえば、次のような式になります： <b>lmstat -c license_file_list</b> 。実際にコマンドを実行するときは、license_file_listを1つまたは複数のライセンスファイルの名前に置き換えます。
[かっこ]	テキストを囲むかっこは、コマンドに追加できるオプションを示します。また、かっこ内のテキストを置き換える必要があることを示している可能性があります。たとえば、次のようになります： <code>lmstat [-a] [-c license_file_list] [-f [feature]] can be written as: C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\LS&gt;lmstat.exe -a -c @localhost -f XDT_ENT_UD</code>

## 共通のオプション

次の表は、ライセンス管理コマンドの多くで使用されるオプションを示します：

引数	説明
-all	ライセンスサーバーに関するすべての情報を表示します。
-c	ライセンスファイルまたはライセンスサーバーのポートとホスト名を指定します。ライセンスファイルのファイル名を記述せずにパスのみを指定した場合、そのフォルダーのすべてのライセンスファイルにコマンドが適用されます。ローカルホストの指定：-c @localhost。リモートのライセンスサーバーの指定： -c @servername。クラスター内のライセンスサーバーの指定：-c @clientaccesspointname。パスの指定：-c path。ライセンスファイルの名前の指定：-c license_file_list。複数のライセンスファイルを指定する場合は、各パスをセミコロン (;) で区切ります。パスにスペースが含まれる場合は、二重引用符 (") で囲む必要があります。
-h	ライセンスハンドルを指定します。この情報は、 lmstat -aコマンドで確認できます。ライセンスハンドルとは、チェックアウトされたライセンスを識別するための番号を指します。
-help	コマンドの使用方法を表示します。
-s [server]	server が指定されていない場合、この引数はライセンスに一覧表示されたすべてのライセンスファイルの状態、またはすべてのライセンスサーバーのライセンスファイルを表示します。
-verbose	検出されたすべてのエラーの詳細な説明を表示します。

## チェックアウト時の問題の診断 (lmdiag)

lmdiagコマンドを使用すると、ライセンスをチェックアウトできないときの問題を診断できます。特に、ライセンスが有効で、ライセンスサーバーの動作に問題がないかどうかをテストできます。ライセンスサーバー上でこのコマンドを実行すると、ライセンスのチェックアウトが試行されます。

また、lmdiagコマンドを使用して、特定の種類のライセンスが正しく動作しているかどうかについて確認することもできます。

例:

Citrix Virtual Apps サーバー Advanced Edition の製品ライセンスのみを対象にして、`lmdiag`コマンドを実行します。引数として`MPS_ADV_CCU`を指定します。

構文:

```
lmdiag -c license_file_list [-n] [feature[:keyword=value]]
```

引数	説明
-c license_file_list	診断するファイルを指定します。 <code>-c @localhost</code> または <code>-c @server-name</code> を使用することもできます
-n	非インタラクティブモードで実行します。このモードでは、 <code>lmdiag</code> の実行時に入力が必要ありません。
feature	診断する製品ライセンスを指定します。
keyword=value	対象となる製品ライセンスの属性を指定します。ライセンスファイルで、1つの製品に対して複数の行が記述されている場合に、対象となる行を特定します。例: <code>lmdiag -c @localhost MPS_ENT_CCU:HOSTID=LICSERV01</code> により、ホスト ID が“ <b>LICSERV01</b> ”であるライセンスのチェックアウトが試行されます。属性名 () として指定できるのは、VERSION、HOSTID、EXPDATE、KEY、VENDOR_STRING、および ISSUER です。

`feature` パラメーターを指定しない場合、すべての製品ライセンスに対して`lmdiag`コマンドが実行されます。`lmdiag`コマンドは、指定したライセンスの情報を表示した後、各ライセンスをチェックアウトします。チェックアウトに成功すると、`lmdiag`コマンドはチェックアウトが成功したことが表示されます。チェックアウトに失敗すると、`lmdiag`コマンドによりその理由が表示されます。`lmdiag`コマンドを実行すると、ライセンスサーバー上のすべての TCP/IP ポートへの接続が試行されます。これにより、ライセンスファイルで指定されているポート番号が正しいかどうか診断され、`lmdiag`によりリスニング中の TCP/IP ポート番号が一覧表示されます。`-c<license_file_list>` を指定した場合は指定したファイルが診断されます。

`lmdiag`コマンドでは、ライセンスのチェックアウトを試行するときに、Citrix 製品が動作するサーバーへの接続は行いません。`lmdiag`コマンドで診断できるのはライセンスサーバー上の問題だけです。つまり、Citrix 製品が不正なライセンスサーバーに接続しているために発生する問題は、`lmdiag`コマンドでは診断できません。たとえば、ライセンスサーバーにその製品のライセンスがない場合などです。このため、Citrix 製品側で接続先のライセンスサーバーが正しく設定されていない場合でも、`lmdiag`コマンドでは正しくチェックアウトできたことを示すメッセージが表示されます。



デーモンの停止 (**lmdown**)

**lmdown**コマンドを使用すると、ライセンスサーバー上の License Manager デーモンと Citrix ベンダーデーモンを停止できますが、**lmdown**コマンドはデフォルトで無効になっています。

構文:

```
lmdown -c license_file_list [-vendor CITRIX] [-q] [-all]
```

引数	説明
<b>-c license_file_list</b> or <b>-c @localhost</b> or <b>-c @server</b>	ライセンスファイルを指定します。必ず <b>-c license_file_list</b> に <b>lmdown</b> を指定することをお勧めします。 <b>-c @localhost</b> または <b>-c @server-name</b> を使用することもできます。
<b>-vendor CITRIX</b>	Citrix ベンダーデーモンだけを停止します。License Manager デーモンは停止されません。
<b>-q</b>	非インタラクティブモードで実行します。そうでない場合は、 <b>lmdown</b> が「Are you sure? [y/n]:」を表示します。
<b>-all</b>	複数のサーバーが指定されると、すべてが自動的にシャットダウンされます。 <b>-q</b> オプションは <b>-all</b> オプションに含まれます。

ライセンスサーバーで **lmdown** コマンドを実行します。**-all** オプションを使用して、ネットワーク上のすべてのライセンスサーバーを停止できます。

**lmdown** が複数のサーバーを認識し、**-all** 引数が指定されていない場合、このコマンドは停止するライセンスサーバーの候補を表示します。たとえば、**-c** 引数で、多数の \*.lic ファイルがあるディレクトリを指定します。**-c** オプションを使用し、ライセンスサーバーの名前を指定して、リモートのライセンスサーバーを停止します。

注:

Windows のタスクマネージャーで Citrix Licensing サービスを終了する場合は、License Manager デーモン (**lmgrd.exe** プロセス) を停止してから、Citrix ベンダーデーモン (**CITRIX.exe** プロセス) を停止してください。

Citrix ベンダーデーモンのみを停止し再起動するには、**lmdown -c @localhost -vendor CITRIX** を使用し、次に **lmreread -c @localhost -vendor CITRIX** でベンダーデーモンを再起動します。

ライセンスサーバーのバインディング情報の確認 (**lmhostid**)

**lmhostid** コマンドを使用すると、そのライセンスサーバーのホスト ID が表示されます。このコマンドを使用して、ライセンスサーバーのホスト名を確認できます。ライセンスファイルにライセンスサーバーのホスト名が正しく

記述されているかどうかを確認することができます。

注

Citrix Licensing バージョン 11.5 以降 (Windows 版) では、複数のライセンスサーバーがある環境で複数のホスト ID が表示されます。

構文:

`lmhostid -bindingidentifier`

ここで、`bindingidentifier` は引数です。

引数	説明
<code>-ether</code>	アプライアンスの MAC アドレスに関連付けられた製品ライセンスで使用します。
<code>-internet</code>	TCP/IP アドレスが必要な、Windows ベースの Citrix 製品のライセンスで使用します。
<code>-hostname</code>	ライセンスサーバーのホスト名に関連付けられた Windows ベースの Citrix 製品ライセンスで使用します。注: ライセンスファイルに記述されているホスト名 ( <code>hostname</code> ) は、ライセンスサーバーの名前と同じである必要があります (大文字と小文字が区別されます)。

### ライセンスファイルとオプションファイルの再読み込み (`lmreread`)

`lmreread` コマンドを使用すると、ライセンスファイルやオプションファイルを Citrix ベンダーデーモンで再読み込みできます。ライセンスファイルやオプションファイルが再読み込みされると、Citrix ベンダーデーモンで新しいファイルが使用されます。

`lmreread` コマンドをリモートで実行することはできません。対象となるデーモンが動作しているライセンスサーバー上でこのコマンドを実行します。

構文:

`lmreread -c license_file_list [-all] [-vendor CITRIX]`

引数	説明
<code>-c@localhost</code> または <code>-c license_file_list</code>	ライセンスファイルを指定します。
<code>-all</code>	複数の <code>lmgrd</code> が指定されている場合、この引数はすべての License Manager デーモンでの再読み込みを指示します。

引数	説明
-vendor CITRIX	Citrix ベンダーデーモンを再起動します。

---

例:

- `lmreread -c @localhost \[-all\]`
- `lmreread -c @client\\_access\\_point\\_name`
- `lmreread -c /opt/citrix/licensing/myfiles/CITRIX.lic -vendor CITRIX`

### ライセンス管理コマンド一覧の表示 (**lmutil**)

スタンドアロンで使用する場合、`lmutil`コマンドを実行すると、ライセンス管理コマンドが表示されます。別のコマンドで `lmutil` を指定すると、そのコマンドが実行されます。

構文:

`lmutil`

`lmutil other_command`

例:

- `lmutil`  
すべてのライセンス管理コマンドを表示します。
- `lmutil lmstat -c @localhost`  
`lmstat` コマンドを実行します。

### ライセンス使用状況の確認 (**lmstat**)

`lmstat`コマンドは、すべてのライセンスの使用状況を監視するときに便利なツールで、以下のライセンスチェックアウト情報を確認できます:

- ライセンスをチェックアウトしている製品
- チェックアウトデータ
- ライセンスファイルのバージョン
- ライセンスサーバーの名前とポート番号
- ライセンスのチェックアウト日時
- Citrix ベンダーデーモンの状態や、ライセンスファイルの情報

lmstatコマンドでは、ライセンスサーバーから取得した情報が表示されます。複数の接続によりライセンスが共有されている場合でも、lmstatコマンドでは使用ライセンス数 1 として表示されます。

構文:

```
lmstat [-a] [-c license_file_list] [-f [feature]] [-i [feature]] [-s[server]] [-S [CITRIX]] [-t timeout_value]
```

引数	説明
-a	すべての情報を表示します。
-c @localhost または -c@ または -c	使用するライセンスファイルを指定します。
-f []	パラメーターで指定した製品ライセンスを使用している製品を表示します。** を指定しない場合、すべての製品ライセンスが対象になります。
-i []	** を指定しない場合、指定した製品ライセンスまたはすべての製品ライセンスの INCREMENT 行の情報を表示します。
-s []	** を指定しない場合、ライセンスサーバーに一覧表示されたすべてのライセンスファイルの状態、またはすべてのライセンスサーバーに一覧表示されたライセンスファイルの状態を表示します。
-S [CITRIX]	Citrix ベンダーデーモンにより提供されているすべての製品ライセンスの使用サーバーを表示します。
-t	接続タイムアウトをに設定します。lmstatコマンドがライセンスサーバーに接続するときのタイムアウトを設定します。

lmstat -c @localhost -aの出力例は、次のとおりです。画面レイアウト上、この例では改行されることがあります。

```
1 License Server status: 27000@localhost
2
3 License file(s) on localhost: C:\Program Files (x86)\Citrix\
  Licensing\MyFiles\citrix_startup.lic:C:\Program Files (x86)\
  Citrix\Licensing\MyFiles\License.lic:
4
5 localhost: license server UP v11.15.0
6
7 Vendor daemon status (on LicenseServer):
8
9 CITRIX: UP v11.15.0
10
11 Feature usage info:
```

```

12
13   Users of CITRIX: (Total of 10000 licenses issued; Total of 1
      licenses in use)
14
15   "CITRIX" v2038.0101, vendor: CITRIX, expiry: permanent(no expiration
      date)
16 vendor_string: ;LT=SYS;GP=720;SA=0
17 floating license
18
19   XDT DDCPrinc-0001.citrix.com XDT XDT_PLT&MPS_PLT_2018.0518 (v1.0) (
      localhost/27000 102), start Tue 5/8 17:59
20
21 Users of CTXLSDIAG: (Total of 10000 licenses issued; Total of 0
      licenses in use)
22
23 Users of XDT_PLT_CCS: (Total of 200000 licenses issued; Total of 3
      licenses in use)
24
25   "XDT_PLT_CCS" v2018.1201, vendor: CITRIX, expiry: 01-dec-2018
26 vendor_string: ;LT=Retail;GP=720;PSL=10;CL=VDS,VDA,VDE,VDP;SA=0;ODP=0;
      NUDURMIN=2880;NUDURMAX=525600
27 floating license
28
29   XDT DDCAux-0001.citrix.com XDT 00001E3A (v2018.0518) (localhost
      /27000 534201), start Wed 5/9 15:17
30   XDT DDCAux-0001.citrix.com XDT 00001E81 (v2018.0518) (localhost
      /27000 392504), start Wed 5/9 15:18
31   XDT DDCAux-0001.citrix.com XDT 00001E0C (v2018.0518) (localhost
      /27000 419703), start Wed 5/9 15:18
32 <!--NeedCopy-->

```

この **lmstat** の出力で MPS\_ENT\_CCU の行に含まれる情報は次のとおりです:

		説明
Citrix 製品名	MPS	ライセンスがチェックアウトされている Citrix 製品の名前。
ホスト名	mps_server1	Citrix 製品が実行されているコンピューター。
ディスプレイ	MPS	ライセンスがチェックアウトされている Citrix 製品の名前。
サーバーホスト	license_server1	ライセンスサーバーが実行されているコンピューター。
ポート	27000	ライセンスサーバーが使用する TCP/IP ポートの番号です。

---

		説明
ハンドル	203	ライセンスハンドルです。ライセンスハンドルとは、チェックアウトされたライセンスを識別するための番号を指します。
チェックアウト時間	start Wed 3/17 11:56	このライセンスが最初にチェックアウトされた日時です。

---

多くの製品のライセンスがチェックアウトされている環境では、コマンド `lmstat -c @localhost -a` により多くのネットワークトラフィックが発生する場合があります。

`lmstat -a` を実行すると、ライセンスのチェックアウトデータを確認できます。

#### バイナリのバージョンの表示 (**lmver**)

`lmver` コマンドを実行すると、ライセンス管理コマンドなど、指定したバイナリファイルのバージョン情報が表示されます。

構文:

```
lmver binary
```

例:

```
lmver lmdiag
```

#### ユーザーライセンスまたはデバイスライセンスの表示と解放 (**udadmin**)

`udadmin` コマンドを使用すると、ライセンスが割り当てられたユーザーとデバイスを表示したり、特定のユーザーやデバイスのライセンスを解放したりできます。

次の場合に限り、ユーザーのライセンスを解放できます:

- 会社への関連付けがなくなった従業員。
- 長期休暇中の従業員。

デバイスのライセンスの解放が必要になるのは、デバイスが故障した場合などです。

注意:

前述以外の理由により 90 日の自動解放期間の前に大量のライセンスを解放することは、Citrix のライセンス契約書に反する行為となる場合があります。事前に Citrix に問い合わせてください。

`udadmin`のコマンドラインヘルプは英語のみで表示されますが、このコマンドは英語以外のシステムでも使用できます。

構文:

```
udadmin [-options] [-delete | -events | -export | -list | -times]
```

オプション	説明
<b>-f</b> feature name	<code>-list</code> または <code>-delete</code> とともに使用して、機能名で指定するユーザーまたはデバイスのライセンスを表示したり、解放したりします。
<b>-user</b> user name	ユーザー名で指定するユーザーのライセンスのみを解放します。
<b>-device</b> device name	デバイス名で指定するデバイスのライセンスのみを解放します。
<b>-a</b>	ライセンスサーバーにインストールされているすべての機能とバージョンを一覧表示します。
引数	説明
<b>-delete</b>	ユーザー、機能、またはデバイスのライセンスを一度に1つ解放します。
<b>-events</b>	各機能のユーザー/デバイスライセンスによって記録されたすべてのイベントを、時系列で並べ替えてレポートします。
<b>-export</b>	未処理のユーザーデータとデバイスデータをエクスポートします。これはライセンスの使用を計算するために使用されるデータであり、使用中のライセンスの一覧ではありません。顧客がこの引数を使用することを Citrix ではお勧めしません。サポートまたはデバッグにのみ使用されます。
<b>-list</b>	ライセンスが割り当てられたユーザーとデバイスおよび最後の更新以来の時間を表示します。最後のレポートの15分間に重要なアクティビティが発生した場合は、次の更新までの時間が表示されます。 <code>-list -times</code> を指定すると、タイムスタンプを含む出力が生成されます。
<b>-times</b>	<code>-list -times</code> を指定すると、タイムスタンプを含む出力が生成されます。
引数なしまたは?	<code>udadmin</code> コマンドの使用情報を表示します。

例:

```

1 - udadmin -list -times
2
3 Usage data is 0 minutes old. Next update in 15 minutes.
4
5 Users:
6
7 u01.01 XDT_ENT_UD 2017.1201 (Thu Sep 14 13:41:07 2017)
8
9 u01.04 XDT_ENT_UD 2017.1201 (Thu Sep 14 13:41:07 2017)
10 .
11 .
12 .
13
14 Devices:
15
16 D.ADV.23 XDT_ADV_UD 2017.1201 (Thu Sep 21 18:31:01 2017)
17
18 D01 XDT_PLT_UD 2017.1201 (Tue Sep 12 14:30:33 2017)
19
20 - udadmin -list -a
21
22 Lists all features, versions, counts of licenses, and the users and
23 devices for each feature.
24
25 - udadmin -export
26
27 feature,userId,deviceId,deviceName,versionRequested,
28 versionUserAllocated,versionDeviceAllocated,time
29
30 - udadmin -f XDT_ENT_UD -device dn01.88 -delete
31
32 Releases one device from one feature.
33
34 <!--NeedCopy-->

```

## ライセンスサーバーのアップグレード

January 9, 2024

### アップグレードの前に

次の情報は、アップグレードを開始する前に十分な準備をするのに役立ちます。

- Citrix 製品をアップグレードするときは、Citrix ライセンスサーバーもアップグレードする必要があります。新しくリリースされるライセンスサーバーには、より強固なセキュリティや既知の問題の修正などが取り入れられていることがあります。



- また、新しいバージョンの Citrix 製品は、古いバージョンのライセンスサーバーと互換性がない場合があります。新しいバージョンのライセンスサーバーでは、古いバージョンの製品と古いライセンスに対する互換性が維持されています。
- バージョンアップグレードにより、製品の以前のバージョンから最新バージョンへに移行します。たとえば、XenDesktop 7.18 から Citrix Virtual Desktops 7 1909 への移行です。
- エディションアップグレードとは、より高いエディションレベルの製品の購入を指します。たとえば、現在 Advanced Edition を所有していて、Premium Edition へのアップグレードを購入する場合です。

#### 前提条件と注意事項

- システム要件については、「[必要なシステム - Citrix Licensing](#)」を参照してください。
- [Citrix のダウンロード](#)で、ライセンスサーバーの最新バージョンをダウンロードしていることを確認します。
- UNC パス (\\server\share) からのライセンスサーバーのインストール。ライセンスサーバーは、ローカルコピーからインストールしてください。
- 製品をアップグレードする前に、必要に応じてライセンスシステムをアップグレードしてください。
- バージョン 11.12.1 よりも古い Citrix ライセンスサーバーがインストールされている場合は、それをアンインストールしてからこのバージョンをインストールしてください。
- ライセンスサーバーの将来のアップグレードが正しく行われるように、既存のライセンスサーバーをアンインストールしてから新しいバージョンをインストールし、さらにライセンスサーバー設定ツールでインストール後の構成処理を正しく完了してください。

#### ライセンスサーバーをアップグレードする方法

Citrix では最新のライセンスサーバーをインストールすることをお勧めします。新しいライセンスサーバーには後方互換性があるため、以前のバージョンの製品やライセンスファイルをサポートします。新しい製品の中には、最新のライセンスサーバーを使用しないと正しく動作しないものがあります。ライセンスサーバーをアップグレードするには、次の手順を実行します：

1. Citrix の[ダウンロードページ](#)に移動し、インストーラーをダウンロードして、最新バージョンにインストールまたはアップグレードします。
2. ライセンスサーバーのインストーラー (CitrixLicensing.exe) を管理者として実行し、グラフィカルインターフェイスに従って操作します。

製品メディアを使ってライセンスサーバーをアップグレードするには：

インストールに製品メディアを使用する場合、インストール後に Citrix Licensing Manager を使って一部の機能を有効にしなければならないことがあります。たとえば、Citrix Licensing Manager を使用してカスタマーサクセスサービスの更新を有効にします。

1. ライセンスサーバーとして動作するコンピューターに、Citrix 製品のメディアを挿入します。

2. セットアップの起動画面が自動的に開かない場合は、Windows エクスプローラーで Autorun.exe または AutoSelect.exe を起動します。
3. 起動画面のメニューで [Citrix ライセンスサーバー] をクリックし、画面の指示に従って操作します。

コマンドラインからライセンスサーバーをアップグレードするには:

コマンドプロンプトは、管理者権限で実行する必要があります。コマンドプロンプトを管理者権限で実行するには、[スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

コマンドラインによるアップグレードの際、ポートの変更はできません。

たとえば、次のコマンドを実行するとライセンスが無人セットアップでインストールされます (サイレントモード)。

### **CitrixLicensing.exe /quiet /l install.log INSTALLDIR=*installdirectory* CEILOPTIN=ANON**

- /quiet では、無人セットアップであることを指定します。
- /l では、ログファイルの生成場所を指定します。
- INSTALLDIR では、ライセンスサーバーの実行ファイルのインストール先フォルダーを指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトは c:\program files\citrix licensing または c:\program files (x86)\citrix\licensing です。
- CEILOPTIN では、Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) または Call Home に参加するかしないか、する場合はその方法を指定します。これは、オプションのパラメーターです。デフォルトは **[ANON]** です。
  - DIAG - Call Home
  - ANON - CEIP
  - NONE

CEIP と Call Home の選択は、Citrix Licensing Manager で変更できます。

#### 重要

Citrix Service Provider プログラムには、カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) および Call Home が必要です。ユーザーが Citrix Service Provider の場合は、CEIP または Call Home を無効にすることはできません。

#### ライセンスサーバーのアップグレード中のイベント

ライセンスサーバーのアップグレードプロセスでは、サービスを停止してライセンスサーバーをアップグレードしてから、サービスを再起動します。アップグレード中、製品は猶予期間のセルフライセンス状態になります。ライセンスサーバーが再びオンラインになると、すべての製品サーバーは猶予期間から復帰してライセンス数が調整されます。この猶予期間は、通常の猶予期間の機能と同様に動作します。

## エディションライセンスのアップグレード方法

メンテナンスの特典でバージョンアップグレードの対象となっている場合、CSS 更新ライセンスをダウンロードしてライセンスサーバーに追加できます。さらに、管理コンソールで製品エディションの設定を変更する必要があります。影響を受けるサーバーへの接続数が少ないときは製品のエディション設定を変更するか、接続を別のサーバーにリダイレクトすることをお勧めします。エディション設定を変更した後は、変更を有効にするために、サーバーを再起動する必要があります。エディション設定の変更については、その製品のドキュメントを参照してください。ライセンスサーバーにアップグレードライセンスを追加しても、Citrix 製品側でエディション設定を変更しておかないとユーザーがサーバーに接続できなくなります。

エディションライセンスをアップグレードするには、次の手順を実行します：

1. Web ブラウザーで、<http://www.citrix.com>にアクセスします。
2. [Log In] を選択してユーザー ID とパスワードを入力します。
3. [Manage Licenses] を選択します。
4. ランディングページの下部で、[Upgrade my licenses] を選択します。
5. サイトの指示に従って操作して、製品のエディションをアップグレードします。
6. 製品をダウンロードするか、メディアとして受け取るかを選択します。電子メールメッセージが送信されます。このメッセージには、[citrix.com](http://www.citrix.com) に戻って追加機能のライセンスを割り当てたりダウンロードしたりするための方法が説明されています。
7. [www.citrix.com](http://www.citrix.com)にログオンしてライセンスを割り当てて、ライセンスファイルの生成、ライセンスファイルのダウンロード、およびライセンスサーバーでのライセンスの再読み込みを行います。

## ライセンスサーバーのアンインストール

March 30, 2024

サーバーからライセンスサーバーを完全にアンインストールする場合、または現在のバージョンに問題がありクリーンインストールを希望する場合は、アンインストールを選択できます。アンインストールプロセスには、GUI または Windows コマンドラインを柔軟に使用できます。

### 注

Myfiles フォルダーは、アンインストールが成功した後もファイルパス `C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\MyFiles` に保持されます。Citrix 製品に中断がないことを確認するため。

## GUI を使用したライセンスサーバーのアンインストール

ライセンスサーバーをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. タスクバーの [検索] に「コントロールパネル」と入力し、結果から選択します。
2. [プログラム] > [プログラムと機能] を選択します。
3. **[Citrix ライセンス]** をドラッグ (または右クリック) し、[アンインストール] または [アンインストール/変更] を選択します。**Citrix** ライセンスウィザードが表示されます。
4. [削除] をクリックし、「削除してもよろしいですか?」というメッセージが表示されたら [はい] をクリックします。
5. [完了] をクリックします。ライセンスサーバーは正常に削除されました。

## Windows コマンドラインを使用したライセンスサーバーのアンインストール

ライセンスサーバーをアンインストールするには、Windows コマンドラインで次のコマンドを実行します。

```
CitrixLicensing.exe /quiet /uninstall /1 uninstall.log
```

再インストールするには、[\[ダウンロード\]](#) と [\[インストール\]](#) からライセンスサーバーをダウンロードします。

## クラスター化されたライセンスサーバーの構成、インストール、アップグレード、アンインストール

January 7, 2022

### ライセンスサーバーをクラスター化する理由

ライセンスサーバーをクラスター化して複数のコンピューターのグループで運用すると、可用性、信頼性、およびスケーラビリティを強化できます。ライセンスサーバーをクラスター化すると、システムに障害が起きた場合でも、ユーザーは業務に重要なアプリケーションへのアクセスを中断することなく作業を続けることができます。

### クラスター化されたライセンスサーバーのしくみ

クラスター化されたライセンスサーバーのアクティブノードで障害が発生すると、フェールオーバーが自動的に機能します。このため、すぐにリソースが使用可能になります。

一般的なクラスターの最小構成は、1 台のアクティブサーバーと 1 台のスタンバイ (バックアップ) サーバーです。クラスター内のアクティブサーバーに障害が発生すると、そのクラスター内のリソースの所有権がそのクラスター内の別のノードに移動します。通常、クラスター内の 1 台のサーバーからほかのサーバーにフェールオーバーされたことをユーザーが意識することはありません。

アクティブノードで障害が発生しても、Citrix 製品に接続しているユーザーに影響はありません。製品では即座に [ライセンス猶予期間](#) が開始され、イベントの情報が製品側のイベントログファイルに記録されることがあります。

**重要:**

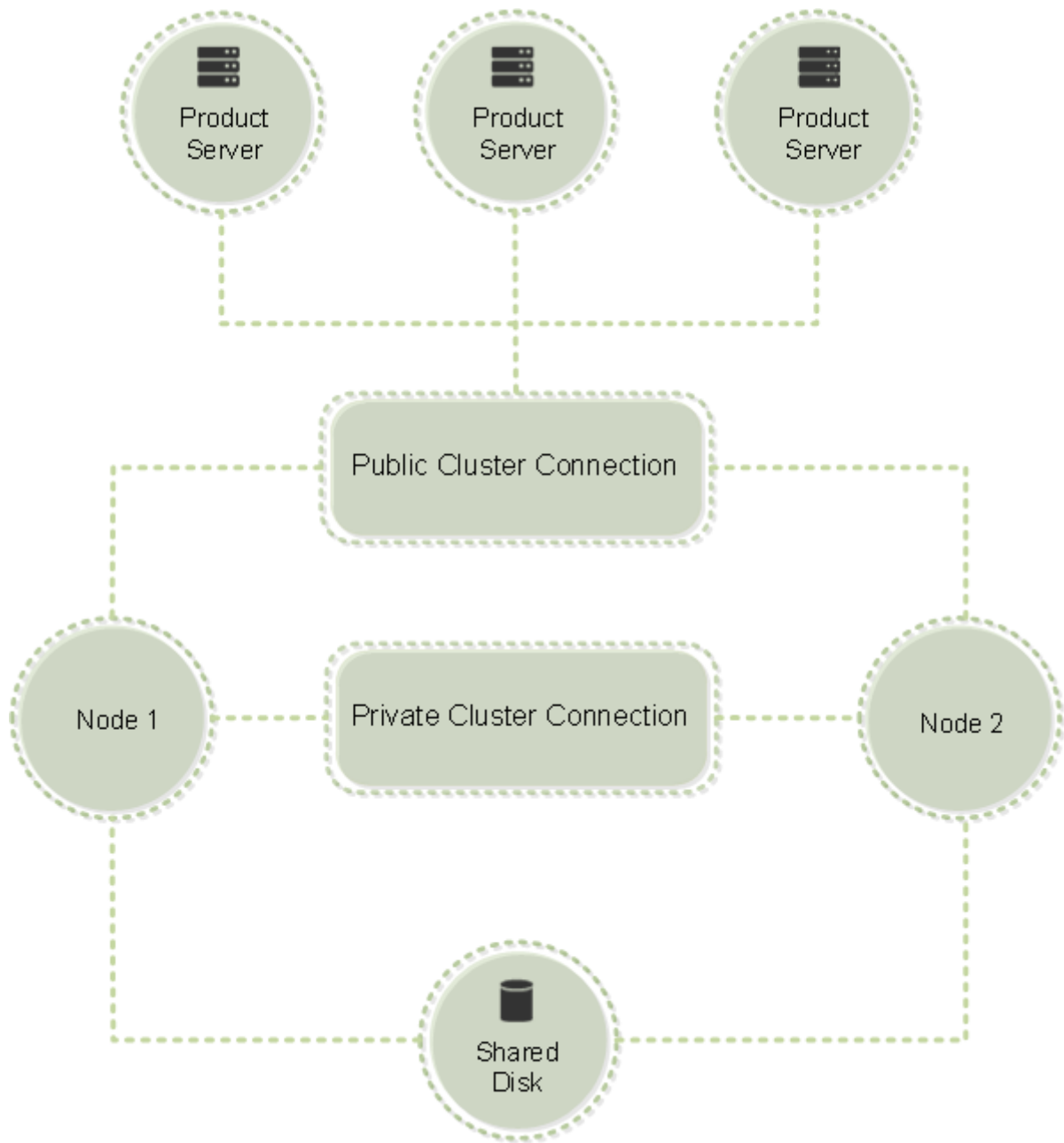
Windows ファイアウォールが有効なクラスター環境に Citrix ライセンスサーバーをインストールする場合、フェールオーバーの発生後にライセンス管理コンソールへのリモートからのアクセスやライセンスのチェックアウトがブロックされます。ライセンスサーバーのインストール時に CITRIX.exe および Imgrd.exe 用の例外規則が作成されますが、フェールオーバー後に動作しなくなります。この問題を回避するには、各クラスターノードの Windows ファイアウォールで、ライセンスコンポーネント用の例外を作成してください。次の各ポートに対して例外を作成します:

- ライセンスサーバー: 27000
- ベンダーデーモン: 7279
- Web Services for Licensing: 8083

### クラスター環境での **Citrix** ライセンスサーバー

ほとんどのクラスター構成では、メッセージ、コマンド、およびクラスター内のノード間の状態に関する情報を送信するためにプライベートネットワークが使用されます。ネットワークの接続が中断されると、ノードでは、まずプライベートネットワークで、その次にパブリックネットワークで再接続が試行されます。次の図は、クラスター化されたライセンスサーバーの構成を示しています:

クラスター化されたライセンスサーバー環境での通信:



常に 1 台のノードだけがクラスター内のリソースを使用できます。展開済みの Citrix ライセンスをクラスター化する場合、次の事項に注意してください：

- 特定のサーバー名を参照するライセンスファイルを生成済みであるため、クライアントアクセスポイントに元のライセンスサーバーと同じ名前を付ける必要があります。または、クラスターに別の名前を付けてライセンスファイルを再生成する必要があります。
- ライセンスファイルのホスト名では大文字と小文字が区別されるため、そのホスト名と実際のクライアントアクセスポイント名で大文字と小文字が一致している必要があります。そうでない場合は、正しいクラスター名でライセンスファイルを再生成する必要があります。フェールオーバークラスターマネージャーを使用すると、クライアントアクセスポイント名とライセンスファイルのホスト名を一致させることができます。Citrix

Virtual Apps and Desktops の Studio または Citrix Licensing Manager (ライセンスサーバーの [スタート] メニューから起動できます) でライセンスファイルをダウンロードした場合は、クラスター名およびホスト名の太文字/小文字が問題になることはありません。

- Citrix Virtual Apps and Desktops など、クラスター化前のライセンスサーバーに接続していたすべての製品で、ライセンスサーバーが動作する新しいクラスターを参照する必要があります。クライアントアクセスポイントの名前をライセンスサーバーの名前として認識できるように、製品側の接続設定を変更します。製品側の通信設定の編集について詳しくは、製品のドキュメントを参照してください。

#### クラスター化されたライセンスサーバーを構成するための前提条件

ライセンスサーバーをクラスター化するための要件は次のとおりです:

- Microsoft が提供するクラスター化機能は、以下の Windows に組み込まれています:
  - Windows Server 2019
  - Windows Server 2016
  - Windows Server 2012 R2
- Citrix ライセンスサーバーはクラスター化された共有ボリュームまたはサードパーティのクラスター用ボリューム管理製品をサポートしません。
- Microsoft クラスターサービスを使用して Citrix ライセンスを設定するには、完全に機能する Microsoft クラスター環境が必要です。Citrix Licensing サービスは、常にいずれか 1 つのノードでのみ動作します。
- ライセンスサーバーのクラスター化には、Microsoft が推奨する一般的なハードウェアおよびクラスター化の要件に加えて、これらの要件を満たす必要があります。
- クラスター環境へのライセンスサーバーのインストールには、インストーラー CitrixLicensing.exe を使用します。
- Citrix ライセンスサーバーをクラスターにインストールする場合、クライアントのアクセスポイント名を指定します。製品のインストール中にライセンスサーバー名の入力を求められます。
- クラスター内の各ノードに、同じハードウェアを使用することをお勧めします。特に、各ノード上に 2 つのネットワークアダプターを取り付け、共有ディスクを使用してそのサーバーを構成することを Citrix ではお勧めします。
- 各ノードに 2 つのネットワークアダプターが必要です。これらのアダプターは、パブリックネットワーク、およびノード間のプライベートなクラスターネットワークへの接続に使用します。1 つのネットワークアダプターによる両方のネットワークへの接続はサポートされません。
- クラスターサービスでは、サブネットごとに 1 つのネットワークインターフェイスしか認識しないため、パブリック IP アドレスとプライベート IP アドレスは、それぞれ別のサブネット上に設定します。
- クライアントアクセスポイント名を解決するために、DNS、WINS、HOSTS、LMHOSTS などによる名前解決が必要です。

- クラスターを構成する各サーバーを同じドメインに設置します。
- プライベートネットワークのコネクタ用に静的な IP アドレスを設定します。
- クラスターへのライセンスの割り当てには、Citrix Licensing Manager を使用することをお勧めします。
- citrix.com でライセンスファイルを生成するときに、ホスト ID としてクライアントアクセスポイント名を入力します。
- ライセンスファイルをダウンロードしたら、ライセンスサーバー上の `F:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles` フォルダー（F: はクラスター用共有ドライブ）にコピーして、再読み込みします。

**重要:**

クラスター内のプライベートおよびパブリックネットワークのすべてのアダプターで、静的な IP アドレスを設定することを Citrix ではお勧めします。IP アドレスの取得に DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用すると、DHCP サーバーが停止したときに、クラスターノードにアクセスできなくなることがあります。パブリックネットワークアダプターに DHCP を使用しなければならない場合は、DHCP サービスが一時的に停止しても動的に割り当てられたアドレスが有効に保たれるように、リース期間を長く設定するか、アドレスを予約してください。

### クラスター化されたライセンスサーバーの構成

クラスター化されたサーバーに Citrix ライセンスをインストールし設定する手順の概要は次のとおりです。ここでは、ライセンスサーバーをインストールするハードウェアがクラスター化済みであることを前提としています。

1. クラスターリソースグループを作成します。そのリソースグループにクライアントアクセスポイントと共有ストレージを割り当てます。クラスター内のリソースが 1 次ノードにより制御されていることと、作成したリソースグループが 1 次ノードを参照していることを確認します。
2. 1 次ノードで管理者としてコマンドプロンプトを開き、Citrix ライセンスサーバーのインストーラー `CitrixLicensing.exe` を実行します。クラスター用共有ドライブにライセンスサーバーをインストールします（クォーラムドライブにインストールしないでください）。[クラスターの最後のノード] チェックボックスがオフになっていることを確認します。
3. リソースを、クラスター内のアクティブノードから 2 次ノードに移動します。
4. 2 次ノードで、1 次ノードと同じ共有ドライブにライセンスサーバーをインストールします。クラスターには 2 つ以上のノードを追加できます。
5. クラスターの最後のノードにライセンスサーバーをインストールするときは、必ず [クラスターの最後のノード] チェックボックスをオンにしてください。
6. ホスト名としてライセンスサーバーのクライアントアクセスポイント名を指定して、ライセンスファイルを取得します。ライセンスファイルを取得したら、ライセンスサーバーにコピーして、再読み込みします。



7. Citrix 製品のライセンスサーバー設定で、ノード名ではなくクライアントアクセスポイント名を接続先として指定します。

**重要:**

クラスター化されたライセンスサーバーがフェールオーバーすると、クラスターサービスによって `lmgrd_debug.log` がそれまでサービスをホストしていたノードの名前に変更されます。そして新しいアクティブノードでサービスが開始され、`lmgrd_debug.log` が作成されます。

### クラスター化されたサーバーへの **Citrix** ライセンスサーバーのインストール

**重要:**

.msi はクラスタリングをサポートしていません。クラスタリング用にインストールまたはアップグレードするには、`CitrixLicensing.exe` を使用します。

この手順で使用するドライブ文字、パス、および変数は次のとおりです：

- D は、製品メディアのドライブです。
- C は、指定したノードのローカルハードドライブです。
- F は、クラスターの共有ドライブリソースです（これがインストール先ドライブです。つまり、各ノードで使われるインストールファイルを格納する場所です）。

NetBios の制限により、クライアントのアクセスポイント名は 15 文字以上にできません。非英語版プラットフォームのクラスターノード上でライセンスサーバーをインストールするときに、[構成] ページの [クラスターグループ] の一覧にシステムデフォルトのクラスターグループが表示されることがあります。この問題が発生した場合は、非デフォルトのクラスターグループを選択してインストールを続行してください。

1. 別個の非コアクラスターリソースグループを作成します。リソースグループには、ドライブ文字およびクライアントアクセスポイントを割り当てられた接続ストレージが必要です。このクライアントアクセスポイントには、ライセンスファイルの取得時と同じホスト名を使用する必要があります。Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、Windows Server 2019 でフェールオーバークラスターマネージャーおよび [役割] > [役割の構成] を使用します。次に、メニューで [他のサーバー] の種類を選択します。クラスターの 1 次ノードがすべてのクラスターリソースを所有していることを確認します。
2. ライセンスサーバーのインストーラー (`CitrixLicensing.exe`) を管理者として実行します。  
[インストールの場所] ページで、クラスターの共有ドライブのドライブ文字を指定します。デフォルトでは、`F:\Program Files\Citrix\Licensing` に各ライセンスコンポーネントがインストールされます。
3. 1 次ノードへのインストールでは、[クラスターの最後のノード] チェックボックスがオフになっていることを確認します。
4. 手順 1. で作成したリソースグループのリソースを 2 次ノードに移動します。

5. 2次ノードで、**CitrixLicensing.exe** を管理者として実行します。
6. 手順 3. を行います。クラスターには 3 つ以上のノードをインストールできます。クラスターには 3 つ以上のノードをインストールできます。追加する各ノードで手順 3. を行います。
7. クラスターの最後のノードにライセンスサーバーをインストールするときに、[クラスターの最後のノード] チェックボックスをオンにします。最後のノードでポートを構成します。
8. ライセンスファイルをインポートするには、Citrix Licensing Manager を使用します。

#### 管理コンソールやコマンドの使用

通常環境で使用するライセンス管理コンソール機能は、すべてクラスター環境でも使用可能です。これらの機能には、管理コンソールとライセンス管理コマンドを実行する機能が含まれます。

次の場所を参照して、クラスターで **Citrix Licensing Manager** を開きます：

`https://client access point name:web service port`

ここで、<client access point name> はクライアントアクセスポイントの名前を示し、<web service port> はクラスター通信で使用されるポート番号を示します。デフォルトのポート番号は 8083 です。ライセンス管理コマンドでは、クラスター環境でのライセンスファイルの場所を「-c @<client access point name>」のように指定できます。例：

```
lmreread -c @client access point name -all
```

#### クラスター化されたライセンスサーバーのアップグレード

クラスター化されたライセンスサーバー（バージョン 11.12.1 以降）を最新バージョンにアップグレードするには、次の手順を実行します：

1. 最新の**ライセンスサーバービルド**をダウンロードします。
2. ライセンスサーバーのインストーラー（**CitrixLicensing.exe**）を管理者として実行します。
3. クラスター化された有効なサーバーにライセンスをインストールしたときに作成したリソースグループのリソースを 2 次ノードに移動します。
4. 2 次ノードで、**CitrixLicensing.exe** を管理者として実行します。
5. クラスターに 3 つ以上のノードがある場合は、手順 3 を繰り返します。
6. ライセンスファイルをインポートするには、Citrix Licensing Manager を使用します。

#### 既知の問題

アップグレード手順を開始すると、不要な [ポートの構成] ページが表示されます。これは無視して問題ないため、[次へ] をクリックします。[LIC-1434]

注:

Version 11.12.1 よりも古いライセンスサーバーがインストールされている場合は、それをアンインストールしてからバージョン 11.16.6 をインストールします。古いバージョンのライセンスサーバーは、Microsoft 社の最新のクラスターガイドラインに準拠していません。バージョン 11.16.6 のライセンスサーバーは、Windows Server バージョン 2008 以降をサポートするために必要な機能を備えています。

### クラスター化されたライセンスサーバーのアンインストール

クラスター環境で動作するライセンスサーバーをアンインストールするには、アクティブノードで [コントロールパネル] > [プログラムと機能] を使用します。

1 次ノードにすべてのリソースが含まれていることを確認します。

1. クラスターの 1 次ノードで [コントロールパネル] > [プログラムと機能] の順に選択します。
2. Citrix ライセンスサーバーを削除します。
3. フェールオーバークラスターマネージャーを使用して、Citrix Licensing リソースグループのリソースを 2 次ノードに移動します。
4. 2 次ノードから Citrix ライセンスサーバーを削除します。残りの各ノードについて手順 3 と 4 を繰り返し、手順 5 に進みます。
5. 共有ドライブから残りのファイルを削除します。

注:

ライセンスサーバーをアンインストールしても、共有ドライブ上のライセンスファイルおよびオプションファイルは削除されません。詳しくは、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

### 障害回復バックアップと冗長性

January 9, 2024

Citrix 製品を重要な基幹業務で使用する場合は、バックアップ用のライセンスサーバーを設定した方がよい場合があります。Citrix からライセンスのバックアップコピーを取得することも可能ですが、多くのライセンスをダウンロードするには時間がかかることがあります。ライセンスサーバーの障害時に備えて、ライセンスのコピーをネットワーク上の共有フォルダーに保存したり、バックアップ用のライセンスサーバーを設定したりできます。

障害回復サイトに使用するライセンスと同じライセンスを実稼働環境でも使用できます。

- 実稼働環境とは別に障害回復環境を構成および管理します。
- ライセンスのチェックアウトで、実稼働用とバックアップ用のライセンスサーバーを同時に使用しないでください。

- 一度に1つのライセンスサーバーのみにアクセスできるようにします。
- 障害回復環境のライセンスサーバーと実稼働環境のライセンスサーバーは、同じホスト名を使用する必要があります。

ライセンスサーバーがメンテナンス作業のためにオフラインになったら

標準の30日間の**猶予期間**を設定すると、ライセンスサーバーのメンテナンスをサポートするため、パフォーマンスが低下したりサービスが不能状態になったりすることなく、システムが機能し続けることができます。

ライセンスサーバーが回復不能な場合はどうすればよいですか

ライセンスファイルのバックアップコピーがある場合は、30日以内に次の作業を行います：

1. 環境内の既存のサーバーの名前を元のライセンスサーバーと同じホスト名に変更します。
2. ライセンスサーバーのコンポーネントとバックアップライセンスファイルをインストールして、環境のライセンスを再取得します。

ライセンスサーバーが回復不能で、ライセンスファイルのバックアップコピーがすぐに利用できない場合はどうすればよいですか

ライセンスファイルのバックアップコピーがすぐに利用できない場合は、30日以内に[www.citrix.com](http://www.citrix.com)の [\[My Account\]](#) > [\[Manage Licenses\]](#) ポータルにアクセスしてください。環境のライセンスを再取得するには、次の手順を実行します：

1. ライセンスファイルをダウンロードします。
2. 環境内の既存のサーバーの名前を元のライセンスサーバーと同じホスト名に変更します。
3. ライセンスサーバーコンポーネントとダウンロードしたライセンスファイルをインストールします。

ライセンスサーバーが回復不能で、環境内の既存のサーバーの名前を変更できない場合はどうすればよいですか

環境内の既存のサーバーの名前を変更できない場合は、30日以内に環境のライセンスを再取得します。以下を実行します：

1. 環境内の別のサーバーを指定します。
2. ライセンスサーバーのコンポーネントをインストールします。
3. [www.citrix.com](http://www.citrix.com)の [\[My Account\]](#) > [\[Manage Licenses\]](#) ポータルにアクセスします。
4. ライセンスファイルを返却し、選択した新しいサーバーのホスト名を使用して再取得します。
5. ライセンスファイルをダウンロードしてインストールします。

ライセンスサーバーに障害が発生すると、パフォーマンスが低下したりサービスが不能状態になったりしますか

いいえ。30 日間の[猶予期間](#)があるため、パフォーマンスの低下やユーザーへのサービスが不能状態になることを回避できます。

## 冗長性の設定

基幹業務に使用される環境でなければ、通常は冗長性の設定は不要です。小規模や、業務への影響が少ない環境では、ネットワーク上またはネットワーク外に格納されているライセンスサーバーのコピーを作成して、ライセンスサーバーをバックアップすることができます。

基幹業務環境でのライセンスサーバーの冗長性は、次の方法で確保できます：

- クラスター化されたライセンスサーバーを作成します。クラスター化とライセンスの設定について詳しくは、「[ライセンスサーバーのクラスター化](#)」を参照してください。
- XenServer 5.6 以降の高可用性機能を使用します。
- ライセンスサーバーおよびライセンスサーバー上のファイルを複製します。バックアップ用のライセンスサーバーに元のライセンスサーバーと同じ名前を付けて、ネットワークに接続せずに保管します。
- ネットワーク上のバックアップ用のライセンスサーバーに別の名前を付けて保管します。この場合、アクティブなライセンスサーバーの障害時にバックアップ用のライセンスサーバーを使用するには、サーバー名を元のライセンスサーバーの名前に変更する必要があります。
- ネットワークアプライアンスを使用します。単一のライセンスサーバーでライセンス要求を処理する場合は、サーバーやネットワークの障害を検出するネットワークアプライアンスを使用してバックアップライセンスサーバーにトラフィックが転送されるように構成します。

どの方法を採用しても、猶予期間内にバックアップ用のライセンスサーバーに切り替えれば、ユーザーは製品の使用を継続できます。詳しくは、「[猶予期間](#)」を参照してください。

次の重要事項に気をつけてください：

- ライセンスファイルは、割り当て時に指定したサーバー名を参照するため、同じバインド情報を持つサーバー以外のサーバーでは使用できません。同じバインド情報とは、元のライセンスサーバーと同じサーバー名や完全修飾ドメイン名または MAC アドレス（ポータルではイーサネットアドレスと表示される場合があります）を指します。
- 同じ名前のライセンスサーバーを、同一ネットワーク内で同時にアクティブにすることはできません。
- ライセンスを追加するときは、元のライセンスサーバーとバックアップ用のライセンスサーバーの両方にライセンスファイルをコピーしてください。

## ライセンスサーバーのトラブルシューティング

January 9, 2024

ライセンスサービスのいずれかが起動に失敗すると、クラスターはライセンスサーバーがオフライン状態であることを検出して、サービスの再起動をデフォルトで 3 回試行します。これらの試行が失敗すると、次のノードへのフェールオーバーが開始されます。クラスターは、2 次ノードでサービスを開始しようとします。2 次ノードでも再起動に失敗した場合、このプロセスが無限ループに陥ることがあります。この問題が発生すると、Citrix 製品が動作するコンピュータは猶予期間に入ります。猶予期間中、クライアントユーザーからの接続は影響を受けません。

### クラスター化されたライセンスサーバーのトラブルシューティング

クラスター化されたライセンスサーバーのトラブルシューティングには、次のことを行います：

- リソースをほかのノードに移動しても、同様の問題が発生するかどうかを確認します。
- インストールに失敗した場合、クラスター環境でのインストール時にユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしないようにします。
- Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2 の場合：
  1. [フェールオーバークラスターの管理] ウィンドウの左ペインでクラスターを選択します。中央ペインにクラスターの概要情報が表示されます。
  2. [クラスターコアリソース] を選択してセクションを展開します。
  3. クラスターリソースがすべてオンラインであることを確認します (緑色の矢印が表示されます)。

### 「-evaluation license-」警告メッセージ

ライセンスサーバー上の評価版ライセンスファイルを新しいライセンスファイルに置き換えても、ユーザーが Citrix 製品にログオンするときに、ライセンスの有効期間が切れたことを示す次のエラーメッセージが表示されることがあります: **Warning: The following Citrix Product is using an Evaluation license. This license will expire in...**

この問題を解決するには、次の手順を実行します：

1. 古い評価版のライセンスファイルをライセンスサーバーから削除します詳しくは、「[ライセンスファイルの削除](#)」を参照してください。
2. ライセンスサーバーの Citrix Licensing サービスを再起動します。
3. ライセンスの検証が必要な Citrix 製品が動作するサーバーで架空のライセンスサーバーを参照する設定に変更し、それから実際のライセンスサーバーを参照する設定に戻します。これらの設定の変更について詳しくは、各製品のドキュメントを参照してください。
4. 問題が解決しない場合は、製品サーバー (Delivery Controller など) を再起動します。

必要な製品ライセンスが **Director** または **Studio** にインストールされていない

次のエラーメッセージが Citrix Virtual Apps and Desktops の Director または Studio UI に表示されます:

- 必要な製品ライセンスがインストールされていません
- トライアル期間が終了しました

次の理由により、エラーメッセージが表示されることがあります:

- ライセンスサーバーに有効なライセンスがインストールされていない
- 製品エディションと製品モデルが Citrix Studio で正しく設定されていない
- ライセンスのメンテナンス日が、インストールされている製品のバージョンと対応していない場合

この問題を解決するには、次の手順を実行します:

1. Citrix Studio で、ライセンスが正しいメンテナンス日を反映しているかどうかを確認します。反映していない場合は、更新されたライセンスを再割り当てしてインポートします。詳しくは、Citrix の記事 [CTX134629](#) を参照してください。
2. Citrix Studio で有効なライセンスサーバーを指定しているかどうかを確認します。
3. [操作] にある [製品エディションの編集] をクリックし、適用されたライセンスに従って正しいライセンスエディションまたはモデルを選択します。
  - 正しいエディションまたはモデルが設定されていてもエラーが続く場合は、ライセンスエディションを切り替えてから、正しいエディションを選択してください。
  - 上記の手順でうまくいかない場合は、[操作] にある [ライセンスサーバーの変更] をクリックして、[接続] をクリックします。
4. それでも問題が解決しない場合は、Citrix Studio を再起動してから、製品サーバーを再起動します。

注:

ライセンスサーバー VPX は、Citrix Virtual Apps and Desktops (バージョン 7.x 以降) と互換性がありません。

## ライセンスに関するよくある質問

January 9, 2024

以下では、ライセンスに関するよくある質問に回答します。

## ライセンス

ライセンスファイルとは何ですか

ライセンスファイルはテキストファイルで、次の情報が記述されています：

- 製品のライセンス情報
- ライセンスサーバー名（またはその他の識別情報）
- カスタマーサクセスサービスプログラムの更新日
- ライセンスの有効期限（ある場合）
- その他のシステム情報

Citrix 製品を購入して[ライセンスの割り当て](#)を行うと、ライセンスファイルが生成されます。ライセンスサーバーはこのファイルを使用して、Citrix 製品の使用を許可するかどうかを決定します。詳しくは、「[ライセンスファイル](#)」を参照してください。

なぜライセンスを返却するのですか

たとえば、ライセンスサーバーの使用を停止したものの、他の場所で既存のライセンスを展開する計画がない場合などに返却します。詳しくは、「[割り当ての返却](#)」を参照してください。

返却されたライセンスはどうなりますか

返却されたライセンスはライセンスプールに戻されます。これらのライセンスはその後、いつでも任意の数量で割り当てることができます。ライセンスの返却後、ライセンスサーバーから古いライセンスファイルを削除します。詳しくは、「[割り当ての返却](#)」および「[ライセンスの変更](#)」を参照してください。

ライセンスを非表示にするとどうなりますか

非表示（旧名称：アーカイブ）によって、ライセンスがアカウントから削除されることはありません。ビューから削除されるだけです。ライセンスの非表示と表示については、「[ライセンスの非表示と表示](#)」を参照してください。

ライセンスファイルのコピーを入手するにはどうすればよいですか

ライセンスファイルのコピーはライセンスサーバーから入手できます。または、すべての購入したライセンスと割り当てられたライセンスファイルは、[www.citrix.com](http://www.citrix.com)で [\[My Account\]](#) > [\[Manage Licenses\]](#) のポータルからセキュアに利用できます。



## ライセンスの割り当て

ライセンスの割り当てについて詳しくは、「[ライセンスの割り当て](#)」を参照してください。

### ライセンスの割り当てとは何ですか

ライセンスを割り当てる場合、製品およびライセンスサーバーに従って購入したライセンスを振り分け、複数環境またはユースケースで分割できます。たとえば、組織が同じ製品で 1,000 ライセンスを所有しているとします。1 つの場所で 800、別の場所で 200 を使用する場合、最初の場所のライセンスサーバーに 800 ライセンスを割り当て、残りの 200 ライセンスを後から別のライセンスサーバーに割り当てることができます。

### ホスト ID の種類とホスト ID の違いは何ですか

ホスト ID は、ライセンスを割り当てるために指定する必要があるバインドの種類です。ホスト ID はライセンスを割り当てるために必要なライセンスサーバーのホスト名、MAC アドレス、またはバインド ID です。

### なぜ一部のライセンスを部分的に割り当てることができないのですか

一部のライセンスでは、部分的な割り当てが許可されていません。

## ライセンスサーバー

### ライセンスサーバーの名前は変更できますか

ライセンスファイルは、ライセンスの割り当て中にバインドされたライセンスサーバー上でのみ機能します。ライセンスファイルには、ライセンスを割り当てるときに指定したライセンスサーバーのホスト名またはその他の識別情報が含まれています。生成したライセンスファイルには特定のライセンスサーバーまたは（アプライアンスの場合は）MAC アドレスが指定されており、他のライセンスサーバーまたはアプライアンスで使用することはできません。

[citrix.com](#)で[割り当てを返却](#)して新しいファイルを生成することで、新しいサーバー名または MAC アドレスを参照するライセンスファイルを作成します。詳しくは、「[Citrix.com でのライセンスの管理](#)」を参照してください。

### ライセンスサーバーをアップグレードすると、ライセンスファイルに影響がありますか

いいえ。ライセンスサーバーとすべての製品ライセンスは完全に後方互換性があり、Citrix 製品の運用環境に問題が生じることはありません。ライセンスサーバーのアップグレードについて詳しくは、「[ライセンスサーバーのアップグレード](#)」を参照してください。

異なるエディションの製品を使用して異なるサーバーに接続するユーザーに、単一のライセンスサーバーでライセンスを提供できますか

はい。1つのライセンスサーバーに、複数のエディションの Citrix 製品のライセンスを配置できます。製品サーバーで設定されているエディションに対応する種類のライセンスがチェックアウトされます。製品サーバーは特定のエディションのライセンスを使用するように設定され、そのエディションのライセンスをチェックアウトします。

詳細と例については、「[単一のライセンスサーバーと異なるエディションの製品を使用する複数のサーバー](#)」を参照してください。

## ライセンス管理コンソール

ライセンス管理コンソールはどこにありますか

ライセンス管理コンソールは、ライセンスサーバー 11.16.6 以降では使用できません。  
ライセンスサーバーを管理するには、[Citrix Licensing Manager](#)を使用することをお勧めします。

ライセンス管理コンソールをサポートしない **11.16.6** ビルド **34000** の使用中に、ベンダーデーモンログ (**CITRIX.log**) が上書きされないように構成するにはどうすればよいですか

詳しくは、「[ベンダーデーモンログ \(CITRIX.log\) が上書きされないように構成](#)」を参照してください。

## 障害回復とメンテナンス

障害回復サイトのライセンスを入手するにはどうすればよいですか

障害回復に使用するライセンスと同じライセンスを実稼働環境でも使用できます。

- 実稼働環境とは別に障害回復環境を構成および管理します。
- ライセンスのチェックアウトで、実稼働用とバックアップ用のライセンスサーバーを同時に使用しないでください。
- 一度に1つのライセンスサーバーのみにアクセスできるようにします。
- 障害回復環境のライセンスサーバーと実稼働環境のライセンスサーバーは、同じホスト名を使用する必要があります。

詳しくは、「[障害回復バックアップと冗長性](#)」を参照してください。



© 2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. Cloud Software Group, the Cloud Software Group logo, and other marks appearing herein are property of Cloud Software Group, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered with the U.S. Patent and Trademark Office and in other countries. All other marks are the property of their respective owner(s).